

首里城跡

— 淑順門地区発掘調査報告書 —



平成18(2006)年3月

沖縄県立埋蔵文化財センター

首 里 城 跡

— 淑順門地区発掘調査報告書 —

平成18（2006）年 3月

沖縄県立埋蔵文化財センター

序

本報告書は、国営首里城公園整備に伴い平成16年度に委託を受けて実施した埋蔵文化財発掘調査の成果をまとめたものです。当該年度は、御内原（正殿裏一帯）へ出入りする時に通る淑順門が建っていた場所を中心に調査しました。

調査の結果、淑順門の基礎部分をなす石積み・石敷き、淑順門の両側に取り付く城壁などの遺構を検出しました。また海外貿易で活躍した琉球王国を象徴するかのよう、海外産の陶磁器が多く出土しました。

本報告書が沖縄の歴史・文化を解明する資料として多くの方々に活用されるとともに、埋蔵文化財の保護と活用について関心を持っていただければ幸いです。

最後になりましたが発掘調査および資料整理作業にあたり、御指導・御協力を賜った関係各位に深く感謝申し上げます。

平成18年3月

沖縄県立埋蔵文化財センター
所長 田場清志

例 言

- 1 本報告書は、首里城公園整備に伴い平成16年度に実施した、淑順門地区の埋蔵文化財発掘調査の成果をまとめたものである。
- 2 発掘調査および資料整理は、沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所より委託を受け沖縄県立埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 出土陶磁器の同定にあたってのご指導は、森毅氏（大阪市教育委員会 社会教育部 研究副主幹）によるものである。記して深謝する次第である。
- 4 本書に掲載した地図は、国土地理院の1/25,000の地形図である。
- 5 本書に掲載した緯度・経度・平面直角座標は、全て日本測地系に基づいている。
- 6 土層・遺物の色調については、『新版標準土色帳24版』（小山忠史、竹原秀雄 2002年）によった。
- 7 本報告書の編集は羽方誠が行った。各節の執筆は以下のとおりである。
羽方誠……………第1～4章、第6章
株バリオ・サーベイ……………第5章
- 8 本書に掲載した出土遺物の写真撮影は矢船章浩が行った。
- 9 発掘調査で得られた出土品、図面・写真等の記録は、全て沖縄県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

目次

序

例言

目次

第1章 調査に至る経緯	1
第1節 調査に至る経緯	
第2節 調査体制	
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	
第2節 歴史的環境	
第3章 調査経過	7
第4章 遺構と遺物	14
第1節 内郭地区の遺構と遺物	14
第2節 外郭南側地区の遺構と遺物	44
第3節 外郭北側地区の遺構と遺物	86
第4節 攪乱層等の遺物	89
第5節 遺物の種類別概観	98
第5章 自然科学分析	142
第6章 結語	152
カラー図版	159
報告書抄録	

図目次

第1図 沖縄本島の位置	1	第7図 石積み2 立面図①	18・19
第2図 首里城跡の位置及び周辺の遺跡	5	第8図 石積み2 立面図②	18・19
第3図 旧首里城図	6	第9図 石積み3 北壁立面図	21
第4図 淑順門地区 遺構平面図	11	第10図 石積み3 西壁立面図	21
第4-2図 淑順門地区 層序模式図	12	第11図 石積み4 北壁立面図	21
第5図 内郭地区 遺構平面図	15	第12図 トレンチ1 西壁土層図	21
第6図 石積み1 立面図	18・19	第13図 石積み4 西壁立面図	21

第14図	石積み4	東壁立面図	21	第59図	トレンチ11 東壁土層図	62
第15図	淑順門跡	遺構平面図	22	第60図	石積み13 立面図	60
第16図	石積み5	立面図	23	第61図	外郭南側地区出土遺物(4)	64
第17図	石積み6	立面図	24	第62図	外郭南側地区出土遺物(5)	66
第18図	石積み7	立面図	24	第63図	石敷き2・階段2 平面図	69
第19図	石積み8	立面図	25	第64図	石敷き2・階段2 断面図	69
第20図	石積み9	立面図	26	第65図	階段2 蹴上げ 立面図	69
第21図	石積み21	立面図	26	第66図	石敷き2 断面図	69
第22図	淑順門跡	縦断面図	27	第67図	階段3 平面図	67
第23図	淑順門跡	横断面図	27	第68図	溝3 北壁土層図	72
第24図	階段1 蹴上げ(上段)	立面図	29	第69図	溝4 北壁土層図	72
第25図	階段1 蹴上げ(下段)	立面図	29	第70図	外郭南側地区出土遺物(6)	74
第26図	溝1 東壁	立面図	29	第71図	外郭南側地区出土遺物(7)	76
第27図	内郭地区出土遺物(1)		30	第72図	外郭南側地区出土遺物(8)	78
第28図	内郭地区出土遺物(2)		32	第73図	外郭南側地区出土遺物(9)	80
第29図	内郭地区出土遺物(3)		34	第74図	外郭南側地区出土遺物(10)	82
第30図	内郭地区出土遺物(4)		36	第75図	外郭南側地区出土遺物(11)	84
第31図	内郭地区出土遺物(5)		38	第76図	外郭南側地区出土遺物(12)	85
第32図	内郭地区出土遺物(6)		40	第77図	トレンチ14 東壁土層図	87
第33図	内郭地区出土遺物(7)		42	第78図	トレンチ13 東壁土層図	87
第34図	内郭地区出土遺物(8)		43	第79図	外郭北側地区出土遺物	87
第35図	外郭南側地区遺構配置図		45	第80図	攪乱層等の出土遺物(1)	90
第36図	石積み10 立面図①		47	第81図	攪乱層等の出土遺物(2)	92
第37図	石積み10 立面図②		47	第82図	攪乱層等の出土遺物(3)	94
第38図	石積み11 立面図①		47	第83図	攪乱層等の出土遺物(4)	96
第39図	石積み11 立面図②		47	第84図	中国産青磁	99
第40図	石積み11 立面図③		47	第85図	中国産白磁	99
第41図	石積み11 立面図④		47	第86図	中国産染付	100
第42図	石積み11 立面図⑤		47	第87図	中国産褐釉陶器	101
第43図	石積み11・13 断面図		50	第88図	中国産三彩・瑠璃釉・緑釉陶器・褐釉陶器・陶磁器	101
第44図	石積み13 断面図		50	第89図	タイ産鉄絵・褐釉陶器・土器	101
第45図	石積み12・13 立面図		50・51	第90図	ベトナム産染付	101
第46図	石積み11～13 断面図		51	第91図	産地不明陶磁器	101
第47図	石積み14 立面図		52	第92図	本土産磁器	102
第48図	トレンチ4 東壁土層図		53	第93図	本土産陶器	102
第49図	外郭南側地区出土遺物(1)		54	第94図	沖縄産陶器(上焼系)	102
第50図	石積み16 立面図		55	第95図	陶質土器	102
第51図	石積み17 立面図		55	第96図	土器	102
第52図	石積み18 立面図		55	第97図	沖縄産陶器(荒焼系)	103
第53図	石積み17・18 断面図		55	第98図	瓦(明朝系)①	104
第54図	外郭南側地区出土遺物(2)		56	第99図	瓦(明朝系)②	105
第55図	外郭南側地区出土遺物(3)		58	第100図	瓦(明朝系)③	106
第56図	石積み19・20 平面図		61	第101図	瓦(大和系)	106
第57図	石積み19 立面図		61	第102図	瓦(高麗系)	106
第58図	石積み20 立面図		61			

第103図	埴	107
第104図	金属製品	108
第105図	土製品	108
第106図	骨製品	108
第107図	円盤状製品	108
第108図	煙管	108
第109図	銭貨	108
第110図	ガラス製品	108

第111図	各資料における花粉化石群集	148
第112図	首里旧城之図	153
第113図	首里城付近之図	153
第114図	沖縄県首里旧城図	155
第115図	首里城熊本鎮台沖繩分遣隊配置図	155
第116図	旧首里城図	156
第117図	旧琉球大学校舎配置図	157

図 版 目 次

図版1	発掘調査作業員(東から)	2
図版2	発掘調査開始前の状況(南から)	7
図版3	重機による掘削作業(北西から)	8
図版4	発掘調査現場事務所(西から)	8
図版5	内郭地区作業風景(東から)	14
図版6	内郭地区作業風景(南東から)	14
図版7	内郭地区作業風景(東から)	14
図版8	内郭地区遺構検出状況(南から)	15
図版9	石積み1(北東から)	16
図版10	石積み1(北西から)	16
図版11	石積み1・2(東から)	16
図版12	石積み2(北から)	17
図版13	石積み1・2(西から)	17
図版14	石積み1・2(北西から)	17
図版15	石積み3・4(北西から)	20
図版16	淑順門跡遺構検出状況(南から)	23
図版17	石積み6(南東から)	24
図版18	石積み7(西から)	24
図版19	石積み8・9作業風景(西から)	26
図版20	石積み9前面の堆積土(西から)	26
図版21	石積み9(北西から)	26
図版22	石積み21(南西から)	26
図版23	石敷き1の上に堆積した黒褐色土と 切石(南から)	28
図版24	切石検出状況(南から)	28
図版25	石敷き1(南西から)	28
図版26	石敷き1の上で検出した切石	28
図版27	石敷き1の上で検出した切石	28
図版28	石敷き1の上で検出した切石	28
図版29	階段1(北から)	29
図版30	溝1(東から)	29
図版31	旧琉球大学時代の建物跡 (北西から)	44

図版32	旧琉球大学時代のケーブル跡 (北東から)	44
図版33	石積み10(北東から)	46
図版34	石積み10(北から)	46
図版35	石積み11(南から)	46
図版36	石積み11・17・18(南東から)	46
図版37	石積み13(北から)	48
図版38	石積み13(北西から)	48
図版39	石積み13(西から)	49
図版40	石積み13(北西から)	49
図版41	手前から石積み13・石積み12 (北から)	51
図版42	石積み14(南から)	52
図版43	石積み15(西から)	53
図版44	トレンチ4 褐釉陶器検出状況	53
図版45	石積み16(西から)	55
図版46	石積み13・17・18(南東から)	55
図版47	石積み11~13・15~19(東から)	59
図版48	石積み19・20(東から)	60
図版49	石積み20(東から)	62
図版50	石敷き2・階段2(東から)	68
図版51	石敷き2(北西から撮影)	70
図版52	階段3(北から)	71
図版53	石敷き3(東から)	71
図版54	石敷き3(北から)	71
図版55	外郭地区(北から)	86
図版56	トレンチ14(北西から)	86
図版57	トレンチ14(西から)	86
図版58	貝1 巻貝	109
図版59	貝2 巻貝	110
図版60	貝3 二枚貝	111
図版61	骨1	112
図版62	骨2	113

図版63	骨3	114	(北東から)	174	
図版64	骨4	115	図版96	外郭北側地区 トレンチ14	
図版65	花粉分析	149	(北西から)	175	
図版66	炭化材(1)	150	図版97	外郭北側地区 トレンチ14	
図版67	炭化材(2)	151	(西から)	175	
図版68	戦前の淑順門(南東から)	156	図版98	内郭地区出土遺物(1) 外面	176
図版69	発掘調査区全景(北から)	160	図版99	内郭地区出土遺物(1) 内面	177
図版70	発掘調査区全景(東から)	160	図版100	内郭地区出土遺物(2) 外面	178
図版71	発掘調査区全景(南から)	161	図版101	内郭地区出土遺物(2) 内面	179
図版72	内郭地区 トレンチ1 東壁(東から)	161	図版102	内郭地区出土遺物(3) 外面	180
図版73	内郭地区 石積み3・4と暗褐色土 (東から)	162	図版103	内郭地区出土遺物(3) 内面	181
図版74	内郭地区 石積み2(東から)	163	図版104	内郭地区出土遺物(4) 外面	182
図版75	内郭地区 石積み2(北東から)	163	図版105	内郭地区出土遺物(4) 内面	183
図版76	内郭地区 淑順門跡で検出した切石 (北から)	164	図版106	内郭地区出土遺物(5) 外面	184
図版77	内郭地区 淑順門跡で検出した切石 (西から)	164	図版107	内郭地区出土遺物(5) 内面	185
図版78	内郭地区 淑順門跡(南から)	165	図版108	内郭地区出土遺物(6) 外面	186
図版79	内郭地区 淑順門跡(東から)	165	図版109	内郭地区出土遺物(6) 内面	187
図版80	内郭地区 階段1(北から)	166	図版110	外郭南側地区出土遺物(1) 外面	188
図版81	外郭南側地区 石積み12・13 (北から)	166	図版111	外郭南側地区出土遺物(1) 内面	189
図版82	外郭南側地区 石積み11~13・15~19 (東から)	167	図版112	外郭南側地区出土遺物(2) 外面	190
図版83	外郭南側地区 石積み15・16 (西から)	167	図版113	外郭南側地区出土遺物(2) 内面	191
図版84	外郭南側地区 石積み11内側 土層堆積状況(北東から)	168	図版114	外郭南側地区出土遺物(3) 外面	192
図版85	外郭南側地区 トレンチ2(東から)	168	図版115	外郭南側地区出土遺物(3) 内面	193
図版86	外郭南側地区 トレンチ11西壁 (西から)	169	図版116	外郭南側地区出土遺物(4) 外面	194
図版87	外郭南側地区 トレンチ11西壁 (北西から)	169	図版117	外郭南側地区出土遺物(4) 内面	195
図版88	外郭南側地区 トレンチ11(南から)	170	図版118	外郭南側地区出土遺物(5) 外面	196
図版89	外郭南側地区 石積み19・20 (南から)	171	図版119	外郭南側地区出土遺物(5) 内面	197
図版90	外郭南側地区(西から)	172	図版120	外郭南側地区出土遺物(6) 外面	198
図版91	外郭南側地区 石敷き2・階段2 (西から)	172	図版121	外郭南側地区出土遺物(6) 内面	199
図版92	外郭南側地区 階段3 検出途中状況 (南から)	173	図版122	外郭南側地区出土遺物(7) 外面	200
図版93	外郭南側地区 階段3(北から)	173	図版123	外郭南側地区出土遺物(7) 内面	201
図版94	外郭南側地区 石敷き3(東から)	174	図版124	外郭南側地区出土遺物(8)、 外郭北側地区出土遺物 外面	202
図版95	外郭南側地区 溝3~6		図版125	外郭南側地区出土遺物(8)、 外郭北側地区出土遺物 内面	203
			図版126	攪乱層等の出土遺物(1) 外面	204
			図版127	攪乱層等の出土遺物(1) 内面	205
			図版128	攪乱層等の出土遺物(2) 外面	206
			図版129	攪乱層等の出土遺物(2) 内面	207
			図版130	攪乱層等の出土遺物(3) 外面	208
			図版131	攪乱層等の出土遺物(3) 内面	209

目 次

第1表	平成17年度 首里城跡淑順門地区 発掘調査 工程表	7
第2表	淑順門地区遺構一覧表(1)	8
第3表	淑順門地区遺構一覧表(2)	13
第4表	内郭地区出土遺物一覧(1)	31
第5表	内郭地区出土遺物一覧(2)	33
第6表	内郭地区出土遺物一覧(3)	35
第7表	内郭地区出土遺物一覧(4)	37
第8表	内郭地区出土遺物一覧(5)	39
第9表	内郭地区出土遺物一覧(6)	41
第10表	内郭地区出土遺物一覧(7)	42
第11表	内郭地区出土遺物一覧(8)	43
第12表	外郭南側地区出土遺物一覧(1)	54
第13表	外郭南側地区出土遺物一覧(2)	57
第14表	外郭南側地区出土遺物一覧(3)	59
第15表	外郭南側地区出土遺物一覧(4)	65
第16表	外郭南側地区出土遺物一覧(5)	67
第17表	外郭南側地区出土遺物一覧(6)	75
第18表	外郭南側地区出土遺物一覧(7)	77
第19表	外郭南側地区出土遺物一覧(8)	79
第20表	外郭南側地区出土遺物一覧(9)	81
第21表	外郭南側地区出土遺物一覧(10)	83
第22表	外郭南側地区出土遺物一覧(11)	84
第23表	外郭南側地区出土遺物一覧(12)	85
第24表	外郭北側地区出土遺物一覧	88
第25表	攪乱層等出土遺物一覧(1)	91
第26表	攪乱層等出土遺物一覧(2)	93
第27表	攪乱層等出土遺物一覧(3)	95
第28表	攪乱層等出土遺物一覧(4)	97
第29表	淑順門地区遺物出土状況	116
第30表	中国産青磁出土状況	118
第31表	中国産染付出土状況	120
第32表	中国産白磁出土状況	122
第33表	中国・タイ産褐釉陶器出土状況	123
第34表	その他の国外産・産地不明陶磁器 出土状況	124
第35表	本土産陶磁器出土状況	125
第36表	沖縄産陶器(上焼系)出土状況	126
第37表	沖縄産陶器(荒焼系)出土状況	128
第38表	陶質土器・瓦質土器・土器出土状況	129
第39表	銭貨出土状況	129
第40表	金属製品・石製品・円盤状製品・ 煙管出土状況	130
第41表	瓦・磚・漆喰出土状況	131
第42表	貝類出土状況(1) 二枚貝	132・133
第43表	貝類出土状況(2) 巻貝	134・135
第44表	魚骨出土状況	136
第45表	ブタ出土状況	138
第46表	ブタ歯出土状況	140
第47表	ニワトリ出土状況	140
第48表	ウミガメ・ヘビ・ネコ・ウシ・ネズミ・ トリ出土状況	141
第49表	分析試料および分析項目一覧	142
第50表	放射性炭素年代測定結果	142
第51表	暦年較正結果	144
第52表	花粉分析結果	146
第53表	樹種同定結果	146

第1章 調査に至る経緯

第1節 調査に至る経緯

国指定史跡である首里城跡は1986（昭和61）年の閣議決定により、外郭城壁に囲まれた部分が「口号国営公園」に指定され、国の都市公園整備事業として復元整備されることとなった。

その後各地区の復元整備は着々と進められ、復元整備の際の基礎資料となる遺構を確認するための発掘調査も毎年のように行われてきた。今回淑順門地区の整備に際し、沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所が沖縄県教育委員会に発掘調査を委託した。そこで沖縄県立埋蔵文化財センターが平成16年度に発掘調査を行うこととなった。

第2節 調査体制

発掘調査は平成16年度に、資料整理は平成17年度に沖縄県立埋蔵文化財センターが行った。その体制は以下の通りである（職名等は当時）。

平成16年度（発掘調査）

事業主体者	沖縄県教育委員会	教育長	山内彰
事業所管	沖縄県立埋蔵文化財センター	所長	安里嗣淳
事業総括	同 上	副所長兼庶務課長	赤嶺正幸
事業事務	同 上	副所長兼庶務課長	赤嶺正幸
	同 上	庶務課主査	比嘉美佐子
	同 上	庶務課主任	西江幸枝
	同 上	庶務課主事	城間奈津子
事業実施	同 上	調査課長	盛本勲
	同 上	専門員	羽方誠
	同 上	囑託員	伊集ゆきの、岸本竹美、 喜多亮輔、仲地和美

発掘調査作業員

安里仁男、安次富マサ子、大宜味より子、大城信子、嘉味田千枝子、川上啓泰、川上益子、川上喜貴、喜屋武京吾、志喜屋タツ子、玉城清吉、桃原佐恵美、友利盛雄、仲宗根孝、仲田均、中塚末子、西島本成子、野里郁也、比嘉幸太郎、諸見里幸子、吉田洋

平成17年度（資料整理）

事業主体者	沖縄県教育委員会	教育長	仲宗根用英
事業所管	沖縄県立埋蔵文化財センター	所長	田場清志
事業総括	同上	副所長兼庶務課長	赤嶺正幸
事業事務	同上	副所長兼庶務課長	赤嶺正幸
	同上	庶務課主査	比嘉美佐子
	同上	庶務課主査	山田恵美子
	同上	庶務課主任	城間奈津子
事業実施	同上	調査課長	岸本義彦
	同上	専門員	羽方誠
	同上	嘱託員	伊集ゆきの、喜多亮輔、 崎原恒寿、比嘉尚輝、矢船章浩

資料整理作業員

赤嶺雅子、新垣利津代、石嶺敏子、上原園子、上原美穂子、大村由美子、萩堂さやか、金城克子、喜屋武朋子、国場のりえ、崎原美智子、城間いづみ、城間千鶴子、平良貴子、玉城恵美利、照屋利子、比嘉孝子、比嘉登美子、比嘉洋子、譜久村泰子、藤田奈穂美、外間 瞳、又吉純子、宮里なつ子、吉村綾子

資料整理作業協力者

久保田有美

資料整理指導（職名等は当時のもの。）

森設（大阪市教育委員会 社会教育部 研究副主幹）



図版1 発掘調査作業員（東から）

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

首里城が立地するのは、那覇市北東部の標高100～130mの台地（通称首里台地）上である。この台地は島尻層群（砂岩・泥岩）を基盤に、その上を覆う琉球石灰岩から成っている。首里台地に降った雨水は琉球石灰岩中を浸透し、不透水層である島尻層群に達したあと、両者の不整合部分から湧水として再び地上に現れる。首里城周辺には湧水点が30ヶ所以上あり、現在も住民に利用されている。

首里城の東方約1kmのところにある弁ヶ岳（標高165.7m）から連なる丘陵が北西方向に延び、その北裾を末吉川（安謝川の上流）が流れ、首里の北境となっている。首里台地の東南部にもほぼ東西に丘陵が延び、その西端に崎山御嶽がある。首里台地の南に広がる急斜面の裾の谷間には、金城川（安里川の上流）が流れ、首里の南境となっている。首里城はこのような丘陵・川・急斜面に囲まれた自然の要塞の中にある。

首里城は幾重もの城壁に囲まれており、大きく外郭と内郭とに分けられる。正殿をはじめとする主要な建物は内郭にあり、淑順門は内郭の北東部に位置する。淑順門の南側は、御内原とよばれる王族達の生活空間である。現在淑順門跡地から北の方角を見ると、末吉の丘陵の向こうに浦添市一帯を眺めることが出来る。

第2節 歴史的環境

首里城の創建年代については不明な部分が多い。ただし「安国山樹華木碑記」（1427年建立）の記述から、15世紀の初め頃には、首里城の原形が出来上がっていたと考えられる。第二尚氏王統第3代尚真王（在位1477～1526年）と第4代尚清王（1527～1555年）は、首里城（内郭）の北・東・南に城壁をめぐらせて、首里城の外郭を完成させたといわれている。

淑順門の創建年代は不明であるが、この門が内郭に属し、内郭と外郭を行き来するための門であったことから、外郭が完成した頃までには存在していたと考えられる。戦前の写真（図版68）を見ると、瓦葺きの櫓を持った門であったことがわかる。

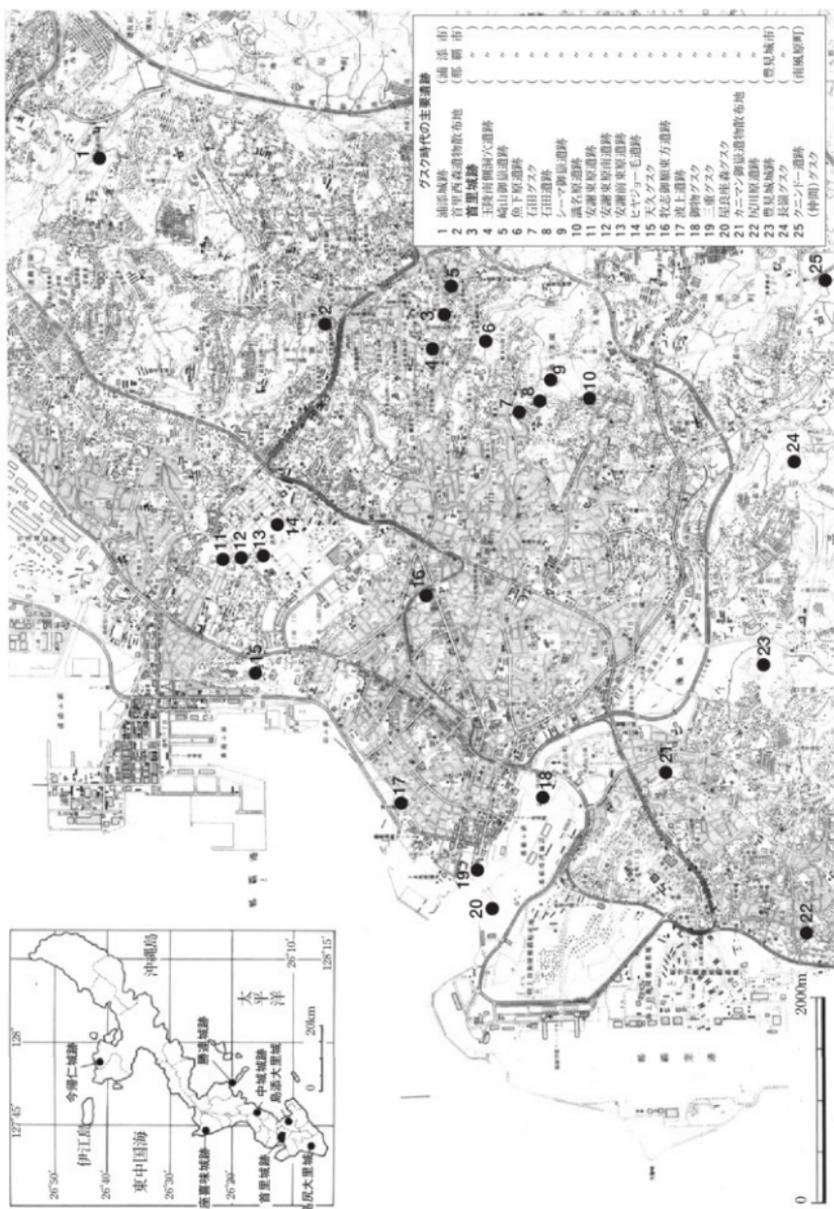
1877（明治12）年の廃藩置県によって、450年以上に及ぶ琉球王府の時代に幕がおろされた後、首里城内には熊本鎮台沖繩分遣隊が駐留した。その後も各種の学校が首里城内を利用していくなかで、城内の建物などが少しずつ改変されていった。

1945（昭和20）年に終結した沖繩戦直後の首里城は、見渡す限りの瓦礫の山であった。戦後の復興が進む中、1950（昭和25）年に琉球大学が建てられた。かつて淑順門があった付近には教養教室Dと呼ばれる建物が建てられた。

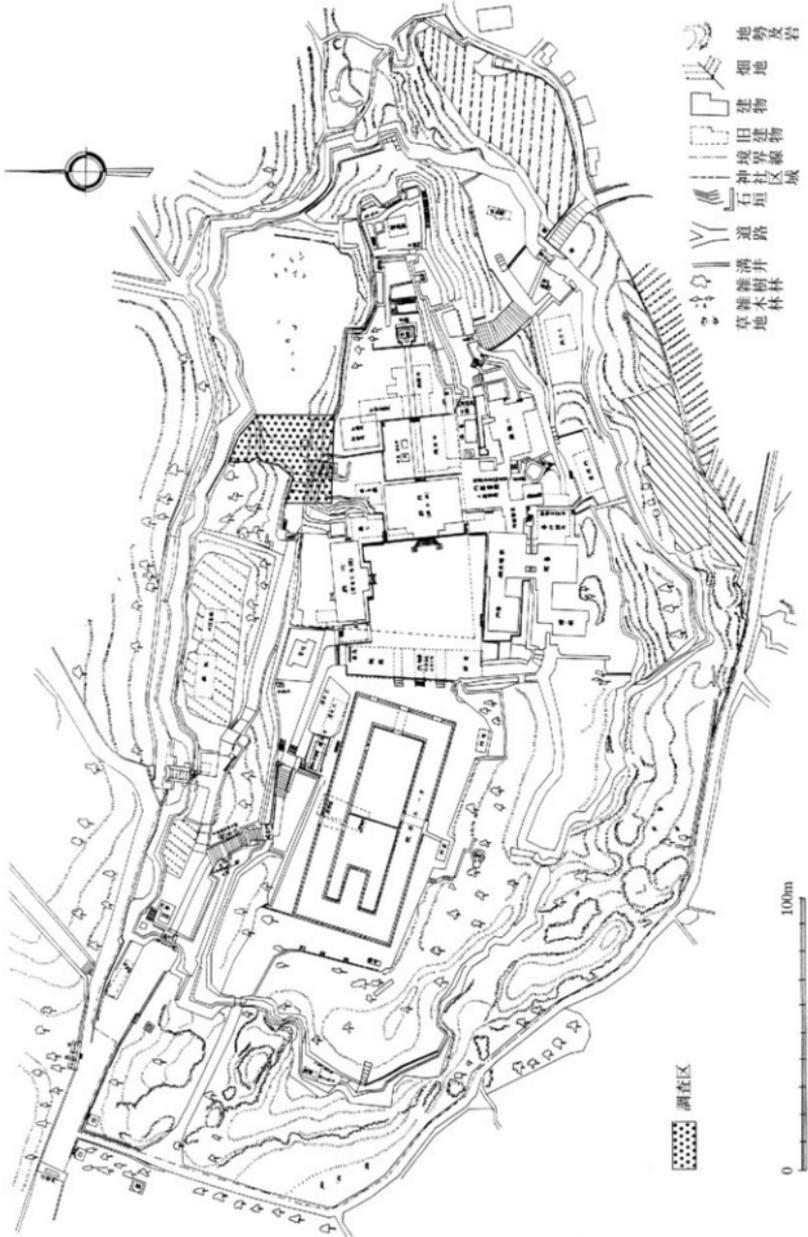
1982（昭和57）年に琉球大学の移転が終了すると、首里城内外の文化財等の整備が本格化していった。



第1図 沖縄本島の位置



第2図 首里城跡の位置及び周辺の遺跡



第3図 旧首里城図(昭和6年ごろ 阪谷良之進原図) 沖縄県立図書館蔵

第3章 調査経過

1 平成16年度（調査期間：平成16年7月20日～平成17年3月1日 調査面積：570㎡）

発掘調査区は沖縄戦以後に持ち込まれた厚い造成土に覆われていた。この造成土については、沖縄県立埋蔵文化財センター職員立ち会いのもと、国営沖縄記念公園事務所首里出張所が委託した首里城内の保全工事業者が除去した。

造成土を除去した後、沖縄戦時の不発弾の有無を確認するために磁気探査を行った。その結果、不発弾等は確認されなかったが、旧琉球大学時代に埋められた水道管3本を確認した。

人力による掘り下げはまず、調査区の中で最も高所にある内郭地区を中心に開始した。この地区では内郭城壁跡と淑順門跡を検出した。また城壁を取り壊して新たに造られた旧琉球大学の石積みを検出したが、協議の結果、撤去せずそのまま残しておくことにした。

内郭地区の調査がある程度終了した段階で、内郭地区から一段下がったところにある外郭南側地区の調査を開始した。この地区には旧琉球大学の校舎が建てられていたため、標高123.4m以上については首里城の遺構はほとんど残っていなかった。外郭南側地区の西側では、右掖門から続く石敷きと淑順門へと至る階段の一部が検出された。東側では、淑順門へと至る階段の一部と、複数の石積みが検出された。

外郭北側地区は今回の調査区の中で最も低い所に位置している。ここでは旧地表面を確認するために掘り下げを行ったが、明確な旧地表面は確認できなかった。

調査期間中、雨天時には現場事務所内において出土品の洗浄・ナンバーリング等の作業を行った。発掘調査は平成17年2月中旬にはほぼ終了していたが、高所作業車を使った写真撮影が残っていた。しかし長雨のために撮影のタイミングが合わず、撮影を行えたのは3月1日であった。

調査区の埋め戻し作業は国営沖縄記念公園事務所首里出張所が行うことになっていたもので、調査区をブルーシートで覆った後、現場を引き渡して作業を終了した。



図版2 発掘調査開始前の状況（南から）



図版3 重機による掘削作業（北西から）



図版4 発掘調査現場事務所（西から）

2 平成17年度

平成16年度の発掘調査で得られた遺物・図面・写真等は調査終了後に沖縄県立埋蔵文化財センターに持ち帰り、平成17年度から本格的な資料整理を実施した。調査で得られた遺物は遺物収納コンテナに換算して50箱であった。まず遺物の取り上げ名称を整理した後、出土地点ごとに遺物を作業台に広げ、種類ごとに遺物を分類した。分類作業と並行して、遺構の時期を特定する遺物や特徴的な遺物、残りが良い遺物を抜き出し、実測図を作成し写真撮影を行った。そして遺構・遺物の実測図をレイアウトして、トレースを行い版組を行った。

印刷業者が決まった後、校正を行い報告書を印刷・製本した。作成部数は500部である。なお遺物・図面・写真等はすべて沖縄県立埋蔵文化財センターの収蔵庫・記録保存室に保管されている。

第1表 平成17年度 首里城跡淑順門地区発掘調査 工程表

作業項目	7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
客土の除去(重機)																		
現場事務所の設置																		
調査区周辺の環境整備																		
磁気探査																		
グリッド設定																		
客土の除去(人力)	内郭地区																	
	外郭南側地区																	
	外郭北側地区																	
遺構検出・掘削作業	石積み1																	
	石積み2																	
	石積み3																	
	石積み4																	
	石積み5																	
	石積み6																	
	石積み7																	
	石積み8																	
	石積み9																	
	石積み10																	
	石積み11																	
	石積み12																	
	石積み13																	
	石積み14																	
	石積み15																	
	石積み16																	
	石積み17																	
	石積み18																	
	石積み19																	
	石積み20																	
	石積み21																	
	石積み22																	
石敷き1																		
石敷き2																		
石敷き3																		
階段1																		
階段2																		
階段3																		
溝1																		
溝2																		
溝3																		
溝4																		
溝5																		
溝6																		
トレンチ1																		
トレンチ2																		
トレンチ3																		
トレンチ4																		
トレンチ5																		
トレンチ8																		
トレンチ9																		
トレンチ11																		
トレンチ12																		
トレンチ13																		
トレンチ14																		
内郭 暗褐色土																		
内郭 黄褐色土																		
外郭南 C-3 黄褐色土																		
外郭南 D-2 黒褐色土																		
外郭南 D-3 褐色土																		
測量																		
掘削作業																		
全体撮影																		
台風	18号																	
	23号																	

第2表 淑順門地区遺構一覧表(1)

	遺構・グリッド	地区	用途・性格等	時期	備考	
1	石積み1	内郭	旧琉球大学時代の石積み	1950～1984年頃		
2	石積み2		内郭城壁の外面。	～1945年		
3	石積み3		内郭城壁の内面か。			
4	石積み4					
5	石積み5					
6	石積み6		淑順門の西壁。	～1945年		
7	石積み7		淑順門の東壁。			
8	石積み8		淑順門の南壁。			
9	石積み9		階段1の東壁。			
10	石積み10		石積み2に平行して走る低い石積み。			
11	石積み11	外郭南側	右掖門と外郭をつなぐ城壁の内面。	15～17世紀頃	戦前の絵図に記載なし	
12	石積み12		右掖門と外郭をつなぐ城壁の内部構造か。			
13	石積み13		右掖門と外郭をつなぐ城壁の外面。			
14	石積み14		石積み10に取り付く。階段3の西端か。			19世紀頃か
15	石積み15		最下段のみ検出。			15・16世紀頃
16	石積み16		切石の布積み。	～19世紀頃		
17	石積み17		石積み11に取り付く。石積み18と対応する。			
18	石積み18		石積み11に取り付く。石積み17と対応する。			
19	石積み19		外郭地区を東西に区切る石積みの西面。	～19世紀頃		
20	石積み20		外郭地区を東西に区切る石積みの東面。			
21	石積み21	内郭	内郭城壁の胸壁か。			
22	石積み22	外郭南側	右掖門と外郭をつなぐ城壁の内部構造か。			
23	石積み23		階段2の東端か。	～1945年か		
24	石敷き1	内郭	淑順門の石敷き道路。	～1945年		
25	石敷き2	外郭南側	右掖門から淑順門へと至る石敷き道路。			
26	石敷き3		旧琉球大学時代の建物基礎。	1950～1984年頃		
27	階段1	内郭	淑順門から御内原へと至る階段。	～1945年		
28	階段2	外郭南側	右掖門から淑順門へと至る石敷きの階段。			
29	階段3		淑順門へと至る石敷きの階段。		～19世紀頃	
30	溝1	内郭	淑順門の排水溝。	～1945年		
31	溝2	外郭南側	旧琉球大学時代の建物跡か。	1950～1984年頃		
32	溝3					
33	溝4		旧琉球大学時代の水道管跡。			
34	溝5					
35	溝6		旧琉球大学時代の電気ケーブル管跡。			



第4図 淑順門地区遺構平面図 (縮尺 1/160)

第3表 淑順門地区遺構一覧表(2)

遺構・グリッド	層序	地区	用途・性格等	時期	備考		
36	トレンチ1	赤褐色土	内郭	石積み4構築以後の造成土。	15・16世紀頃	第12図の3層。	
37	トレンチ2	褐色土	外郭南側	石積み19構築以後の造成土。溝2暗褐色土もしくはC-3グリッド黄褐色土と同一。	16世紀頃		
38		暗褐色炭混じり土		石積み19構築以後の造成土。褐色土の直上。	17世紀頃		
39	トレンチ4	暗褐色土		黒褐色土の直上の造成土。溝2暗褐色土と同一か。	15・16世紀頃	第48図の2層。	
40	トレンチ4・5、B-3	黒褐色土		石積み11外側の堆積土。石積み15の直下の堆積土。	15・16世紀頃	第48図の3層。	
41	トレンチ11	黒褐色土		階段3が機能していた頃の地面	17・18世紀頃か	第59図の6層。第68図の12層。	
42	E-2	黒褐色土		トレンチ11黒褐色土と同一。遺物の時期が新しいのは、上層からの紛れ込みが原因と考えられる。	18・19世紀頃か		
43	トレンチ11	暗褐色土		石積み19・20崩壊後の地面か。黒褐色土の直上。	17・18世紀頃か	第59図の5層。	
44	トレンチ13	黒褐色土		外郭北側	沖繩戦以前の地面か。	18世紀後半～20世紀前半頃	第78図の2層。
45		褐色土			黒褐色土の直下。		第78図の3層。
46	石積み3外側	黄褐色土		内郭	淑順門構築時の造成土か。	15・16世紀頃か	
47	石積み4外側	暗褐色土	内郭地区の旧地面か。遺物を多く含む。		15～17世紀頃	第12図の3層。	
48	石積み3・4裏込め部、G・H-6・7	暗褐色土	本来は石積み4外側暗褐色土と同一層と考えられる。15～19世紀頃の遺物を多く含む。				
49	石積み10裏込め部	褐色土	外郭南側		15・16世紀頃か		
50	石積み11外側	赤褐色土		石積み11外側最上層の造成土。石積み15を覆う。		第48図の1層。	
51	石積み13裏込め部	褐色土			16世紀後半～17世紀頃か		
52	石積み17外側	褐色土		石積み18外側褐色土と同一層と考えられる。	15～17世紀頃		
53	石積み18外側	褐色土		石積み17外側褐色土と同一層と考えられる。	16・17世紀頃		
54	溝2	暗褐色土		C-3グリッド黄褐色土の直下。	17世紀頃		
55	C-3	黄褐色土		溝2暗褐色土の直上。	17世紀頃		
56	D-2	黒褐色土		階段3廃絶以後の土層か。	18世紀頃か。		
57	D-3・4	暗褐色土		トレンチ11・E-2グリッド黒褐色土の直上。トレンチ11暗褐色土と同一もしくは直下の土層。	17・18世紀頃		

第4章 遺構と遺物

今回の発掘調査では調査面積が広範囲に及び、検出された遺構も多岐にわたっている。そこでかつて存在した首里城の建造物の位置をもとに、調査区を3つの小地区に分けて、第1～3節で各地区の遺構・遺物を報告する。また第4節では攪乱層等から出土した遺物を一括して報告し、第5節では第1～4節で報告した遺物の集計表等を掲げ、種類ごとに遺物を概観する。

第1節 内郭地区の遺構と遺物

調査区南側、F～H-3～8グリッドにあたる。調査開始当初、旧琉球大学建設時以降に持ち込まれた客土があったため、西側から重機により除去した。客土を約2m掘り下げたところ、暗褐色土とともに、20cm前後の石灰岩礫が大量に出土し始めた。この礫群は淑順門の西側に接続する石積み(石積み2)の、裏込め石と考えられた。そこでこの礫群を目印に順次東側へと客土を除去していった。また礫群の北側からは、根石から天端まで完全に残った石積み1(旧琉球大学の石積み)が現れた。

重機によりある程度客土を除去したあと、人力により遺構の検出を行った。すでに表面に現れていた礫群の中から、石積み3・4が現れた。石積み4の外側(南側)には、遺物を多く含む暗褐色土が広がっていた。

石積み3の東端、G-5グリッド部分には、瓦片や石灰岩礫などを多く含む、しまりのない黒褐色土が堆積していた。この黒褐色土を取り除いていくと、淑順門を構成していた石積み6～9・石敷き1・溝1が現れた。石敷き1の上には、無造作に転がった切石が9個あった。これらの石は本来淑順門を構成していた石であり、沖縄戦時に崩落したと考えられる。

淑順門の東側では、石積み2・5・21を検出した。石積み2の東側部分については比較的残りが良いが、西側部分については根石付近をのぞいて上部は全て失われている。



図版5 内郭地区作業風景(東から)



図版6 内郭地区作業風景(南東から)

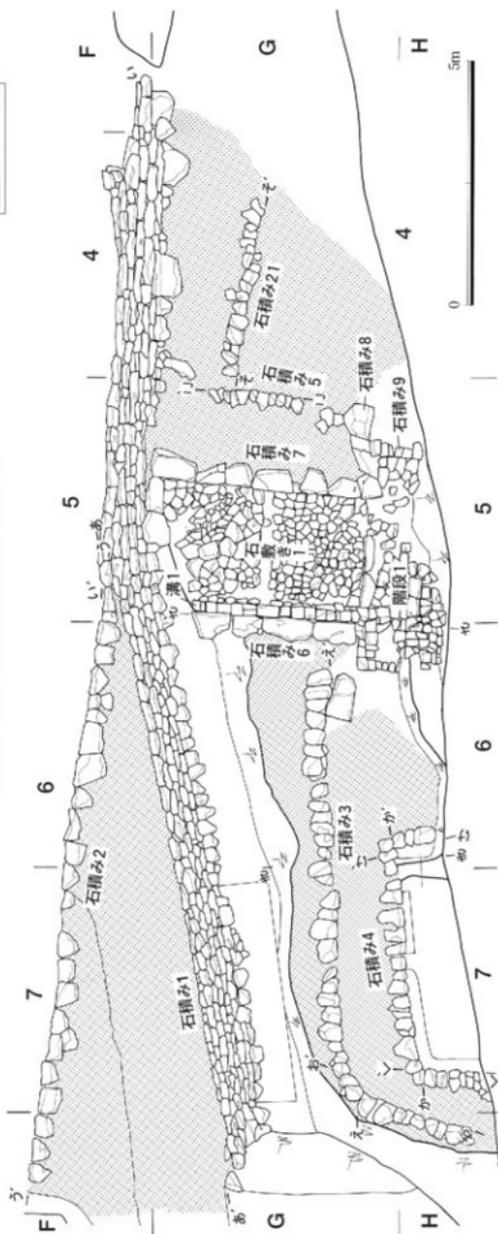


図版7 内郭地区作業風景(東から)



図版8 内郭地区遺構検出状況 (南から)

〈凡例〉
 裏込めの石



第5図 内郭地区遺構平面図 (縮尺 1/100)

1 石積み1 (G-5~8グリッド 第6図 図版9~11・13・14)

旧琉球大学時代に造られた石積みで、長方形に成形された40cm前後の切石を、6~7段布積みしている。天端の標高は125.7m、根石から天端までの高さは約1.8m、傾斜は65°で、東端は石積み2に接続している。根石の下には若干の土を挟んで、石積み2の裏込め石が広がっている。東側の下から1~2段目付近に使われた切石の中には、60cm前後のやや大振りのものがある。これらの石は、表面の風化が進んでいる、L字型の切り込みがある、形がやや不揃いであるなどの特徴がある。おそらく沖繩戦で破壊される以前、首里城内の石積みに使われていた石と考えられる。

調査開始当初、石積み1を撤去することも考えたが、撤去した場合石積み2の裏込め石が崩落する可能性があったので、現状のままで残しておくことにした。



図版9 石積み1 (北東から)



図版10 石積み1 (北西から)

2 石積み2 (F-3~8, G-3~5グリッド 第7・8図 図版11~14・74・75)

淑順門の東西に接続する石積みで、内郭城壁の外面に相当する。石は大きいもので1mを越す切石で、「L」字形の段をつくり、石同士のかみ合わせ良くしている部分がある。石の積み方は布積みで、その傾斜は73°程度である。根石については東・西側とも確認していない。

淑順門の西側にあたるF-6~8グリッド部分については、当時地上に露出していたであろう部分はほとんど残っていない。

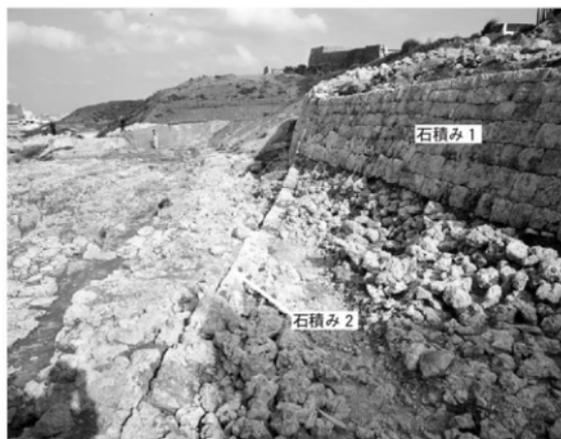
淑順門の東側にあたるG-3~5グリッド部分については、高さ約3.5m分を検出した。石積み1と接続する部分(第7図中の①~④)では、接続した後の凹凸をなくすために表面を削っている。石積みの最上段は標高126.2~126.3mでほぼ一直線にそろっている。淑順門の床面に相当する、石敷き1が取り付いている部分については天端が残っている。それより東については、一部が旧琉球大学時代の工事で壊れてはいるものの、126.3mで一直線にそろっており、天端が残っているようである。ただし天端の後ろ側(南側)には、裏込めの石が127m付近まで残っていることから、問題が残る。



図版11 石積み1・2 (東から)



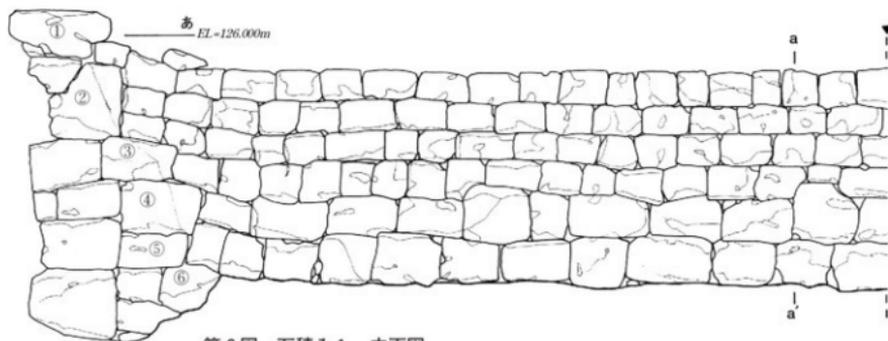
図版12 石積み 2 (北から)



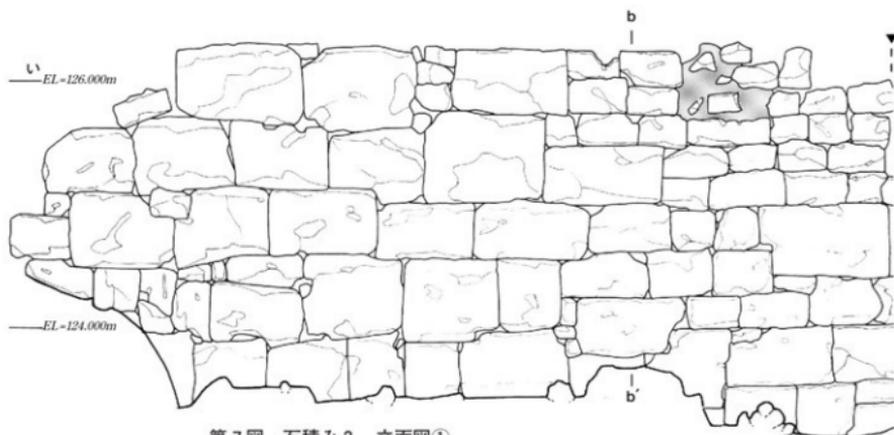
図版13 石積み 1・2 (西から)



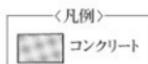
図版14 石積み 1・2 (北西から)



第6図 石積み1 立面図



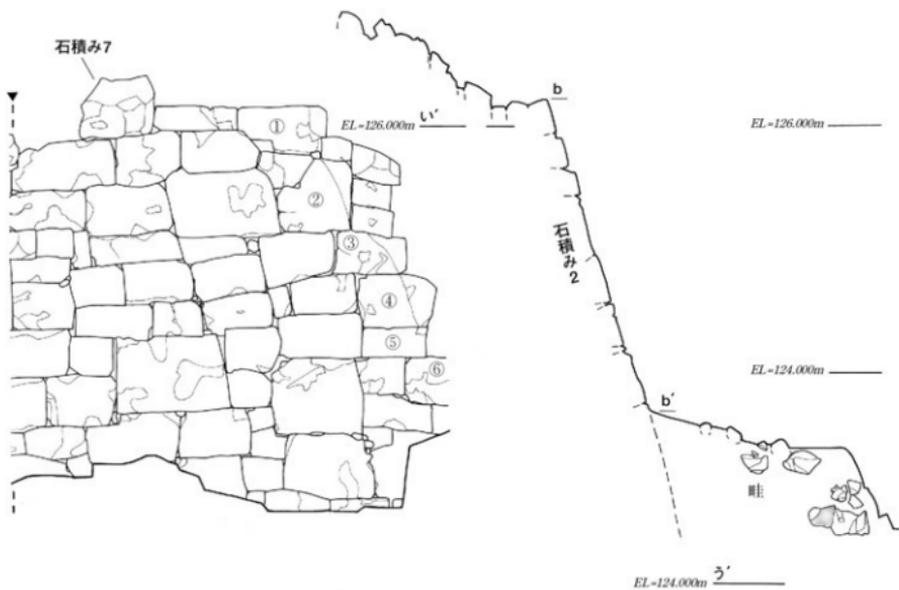
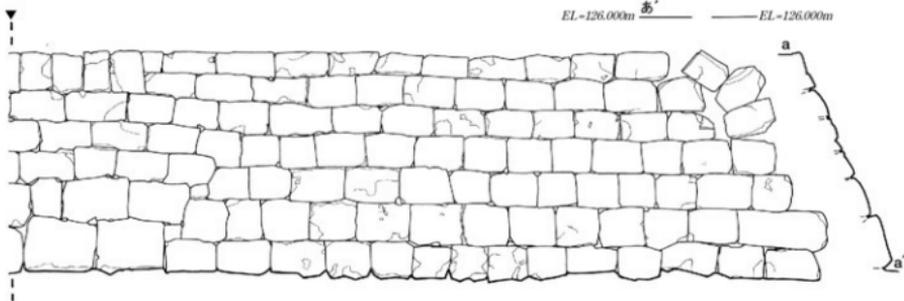
第7図 石積み2 立面図①



第8図 石積み2 立面図②



EL-126.000m あ' ——— EL-126.000m



4-1
内部地区



0 ——— 2m

3 石積み3 (G-6~8、H-8グリッド 第9・10図 図版15・73)

石積み4に沿って造られており、東端は石積み6付近まで延びている。天端は残っておらず、根石は確認していない。積み方は野面積みであろうか。面石の多くと裏込め石の一部については、石の表面が黒っぽく変色している。

石積み3の外側(南側)には、石積み4の裏込め石があるが、淑順門付近については、砂礫混じりの黄褐色土が確認された。この黄褐色土からは17世紀以降と考えられる沖繩産陶器が少量出土しているが、主体は15・16世紀頃の褐軸陶器や青磁である。(第29図 図版102・103)。この黄褐色土は石積み4もしくは淑順門を構築する際に持ち込まれた造成土の可能性がある。

4 石積み4 (H-7グリッド 第11・13・14図 図版15・73)

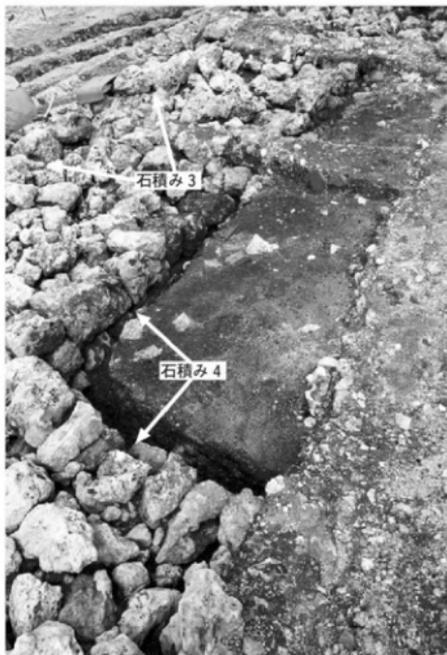
石積みは「コ」の字形にめぐっており、北側の石積みの長さは4.5mである。石積み3と同様に天端は残っておらず、根石は確認していない。積み方は野面積みであろうか。

石積み4の性格についてであるが、石積み3に平行して造られており、また裏込め石をもっていることから、城壁かそれに関連する遺構の可能性はある。しかし戦前の資料を見る限り、石積み4に相当する城壁は記載されていない。強いて言えば第114図に描かれている正方形の建造物が、規模の面で近い。しかし石積み3の位置よりやや西にずれるようであり、この建造物自体の名称・機能は不明である。

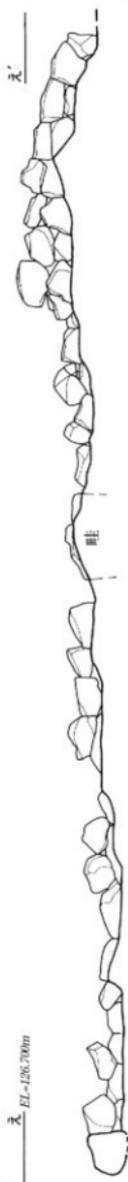
石積み4に囲まれた部分には、一面に暗褐色土が堆積していた。この暗褐色土中からは、大量の遺物が出土した(第30~32・34図 図版104~108)。屋根瓦や15~17世紀を主体とする陶磁器の他に、ヤコウガイの蓋・カンギクといった貝殻や、ハタ科・フエキダイ科・ブダイ科といった魚骨も多く出土している。以上のような遺物の出土状況から、この暗褐色土は首里城内(内郭)における人々の長年の生活によって堆積していった土と考えられる。

東側の石積みの前面部分にトレンチ1(第11図 図版72)を設定して土層を観察したところ、暗褐色土の直下には厚さ約10cmの暗灰色粘質土が堆積しており、その下には瓦・塼・漆喰(第33図 図版102・103)を含んだ赤褐色粘質土が確認された。特に漆喰が多く出土しており、その多くが瓦葺の際に使用したの跡をもつ破片である。

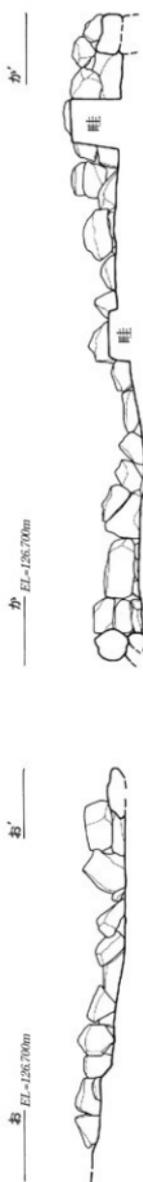
G・H-6~8グリッドを掘り下げて石積み3・4を検出する際、両石積みとその裏込め石を薄く覆うように暗褐色土が堆積しており、多くの遺物が出土した(第27~29図 図版98~103)。この暗褐色土と、石積み4に囲まれた部分の暗褐色土とは、質が良く似ており、遺物も多くまた接合した遺物もあることから、本来同一の土層であったと考えられる。



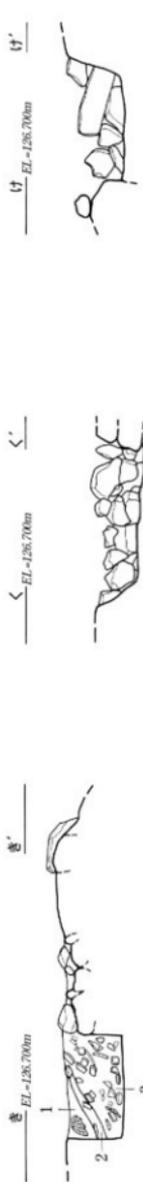
図版15 石積み3・4 (北西から)



第9図 石積み3 北壁立面図



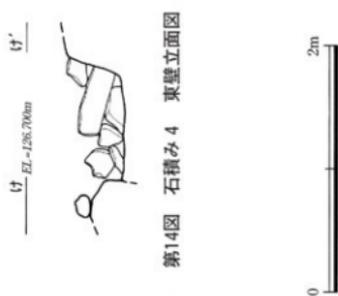
第10図 石積み3 西壁立面図



第11図 石積み4 北壁立面図



第12図 トレンチ1 西壁土層図



第13図 石積み4 西壁立面図

第14図 石積み4 東壁立面図

図 番 号	層 序	色 調	厚 さ (cm)	土 質 ・ 混 入 物	備 考
	1	黒褐色土 10YR 3/2	24	砂質土で、森付・青磁・褐釉陶器・シヤコ貝・ヤコウ貝の蓋・魚骨・瓦・磚・石灰岩礫・炭を含む。	「石積み4 外側暗褐色土」で遺物を取り上げる。第30～32・34図、図版104～109。
	12	暗灰黄色土 2.5Y 5/2	7	粘質土で、漆喰・ヤコウ貝の蓋・石灰岩礫を含む。	
	3	明赤褐色土 5YR 5/8	46	粘質土で、瓦・磚・漆喰を含む。	「トレンチ1 赤褐色土」で遺物取り上げ。第33図、図版102・103。分析試料番号11を採取。





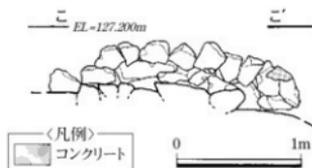
第15図 淑順門跡 遺構平面図 (縮尺 1/40)



図版16 淑順門跡遺構検出状況（南から）

5 石積み5（G-5グリッド 第15・16図）

淑順門跡の東側で検出した、野面積みの石積みである。天端は残っていないようである。石積み2の裏込め石の上に積まれているように見えるが、根石については不明確である。石積みの表面の一部には、旧琉球大学時代のコンクリートが付着している。石積みの北側は石積み2付近まで延びるようであるが、石積み2の裏込め石に紛れており詳細は不明である。南側については石積み8付近まで延びるようであるが、石積み8が崩落しないように土を掘り下げているためこちらも詳細不明である。



第16図 石積み5 立面図

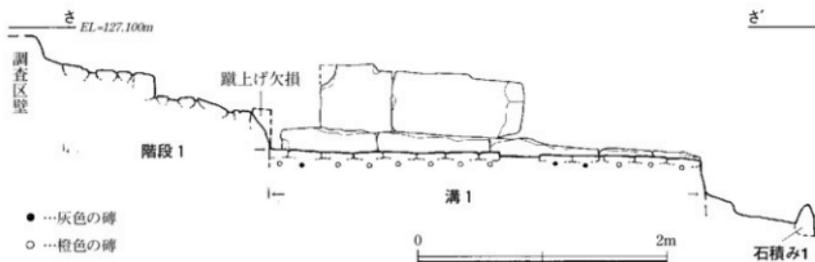
6 石積み6 (G-5・6グリッド 第15・17図 図版17)

淑順門の西壁に相当する石積みである。上部はほとんど失われており、2段分を確認した。下段部分が根石である可能性がある。長さが80cm前後から1mを超す大きな切石を用いており、石同士のかみ合わせを良くする「L」字形の浅い切り込みが見られる。

上段には2個の石が残っているが、本来はその南側にもう1つの切石があり、その石は西側だけでなく南側にも面を持っていたことが図版68で確認できる。



図版17 石積み6 (南東から)



第17図 石積み6 立面図

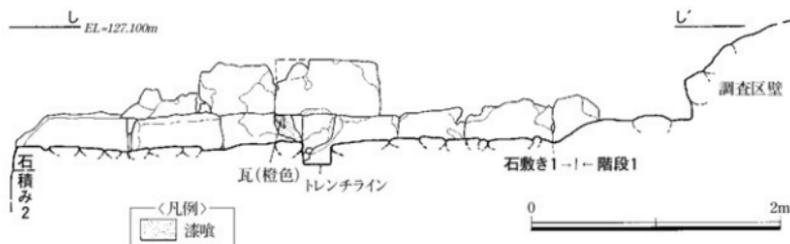
7 石積み7 (G-5グリッド 第15・18図 図版18)

淑順門の東壁に相当する石積みである。石積みの形態等は石積み6と同様である。

戦前の淑順門の写真(図版68)を見ると、少なくとも6・7段程度石を積んでいたことがわかる。また門扉部分には、蹴放しを差し込んだと考えられる長方形のほぞ穴があるが、蹴放し自体は、すでに抜かれているようである。



図版18 石積み7 (西から)



第18図 石積み7 立面図

8 石積み8 (G-5グリッド 第15・19図 図版)

淑順門の南壁並びに内郭城壁の内面に相当する石積みで、石積み7南端部分に対して直角に取り付く。3段分を検出したが最上段の切石については、旧琉球大学の埋設管工事によって、元位置から少し動かされているようである。石積み8の西側延長線上には発掘調査中に「J」と名付けた切石が1個ある。南側に面を持っており、高さ40cm、横幅90cm、奥行50cm程度で、上面にはL字形の浅い段が掘り込まれている。また北側は石積み3の面に接している。石は厚さ3cm前後の暗褐色土の上ののっており、暗褐色土の直下は石積み3の所でふれた黄褐色土となっている。

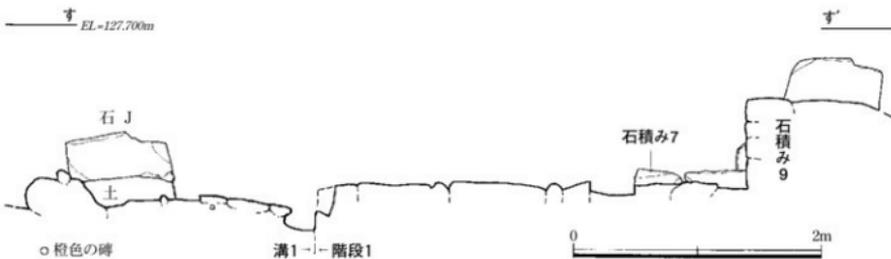
この石を検出した当初は、①石積み8に比べ高い位置で検出したこと、②水平ではなく西側がやや下がっていること、③自然堆積層に多い暗褐色をした土の上ののっていたことから、元位置を保っていないのではないかと考えた。そこで後述する9個の切石にA～Iの取り上げ名称を付けた際に、この石にも続きで「J」と付けた。ただ石積み8の延長線上に並んでいるという事実があったため、元位置を保っている可能性を捨てきれないでいた。そこで石Jについては取り上げずそのまま残しておくことにした。

石Jが元位置を保っているかどうかは別にして、少なくとも石Jがある部分には、石Jと同じく南側に面を持つ切石を布積みした石積みがあり、これが淑順門の南壁を構成していたことが戦前の写真(図版68)で確認できる。またこの南壁に取り付くようにしてL字形に走る石積みがあったことが、戦前の図面(第114・116図)で確認でき、図版68でもその一部が写っている。このL字形の石積みについては、今回の発掘調査では確認できなかった。

ここで淑順門の南壁に接続する、内郭城壁の内面について考える。今回の発掘調査で検出した遺構の中で、内郭城壁の内面と考えられるのは石積み3である。通常であればこの石積み3の東側が淑順門の南壁石積みと接続するはずであるが、先述したとおり石積み3は淑順門の西壁に相当する石積み6の少し手前で途切れてしまう。仮に途切れずにそのまま東に延びていたとしても、本来あるべきラインより50cmほど北にずれている。この50cmのずれを埋めるのは、石積み8のラインを西側に延長した部分にあった石積みである。石積み6下段の南端の石が、東側だけでなく南側にも面を持つように成形されていることは、この石が淑順門南壁と西壁が合わさって角をなす部分だからであろう。当然この石の上にも同様に東、南の2方向に面を持った石が積まれていた。

では石積み3と淑順門南壁城壁とはどこでどのように接続していたのであろうか。残念ながら発掘調査においてはその部分を確認できなかった。これは石積み6から西に延びる淑順門南壁石積みがほとんど残っていなかったことが原因であるが、仮に残っていたとしても石積み3はその北側に平行して延びているわけである。2つの石積みのうちどちらかが南北方向にラインを寄せない限り、両者は接続することはないであろう。

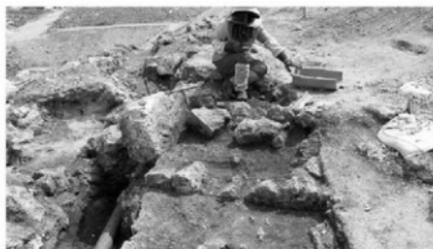
このように考えてみると、①石積み3と淑順門南壁石積みの関係は時期的な新旧関係か、②「面石としての石積み」と「城壁内部の補強を目的とした内部構造石積み」という関係、③両石積みがある場所ですぐさま接続していた、という三通りの可能性が考えられる。ただ②の場合、両石積みあまりに近すぎて城壁の補強という効果はあまり期待できないのではないか。平成13年度首里城城郭復元整備に伴う発掘調査において、城壁の補強を目的としたと考えられる石積みが、城壁の裏込め石部分から検出されたが、今回のように両者が接する部分にはなかった。外郭南側地区の石積み12についても同様であるので②の可能性は低いと考えられる。



第19図 石積み8 立面図

9 石積み9 (G・H-5グリッド 第20図 図版19~21)

淑順門から御内原に続く石敷き階段の、東壁に相当する石積みである。相方積みで、垂直に積まれている。天端は残っておらず、根石は確認していない。石積み8に対して直角に取り付いている。図版68をみると、石積み8から南に延びる石積み9の天端が確認できる。その高さは、淑順門南壁石積みの天端から2段目と3段目の目地と同じ位である。



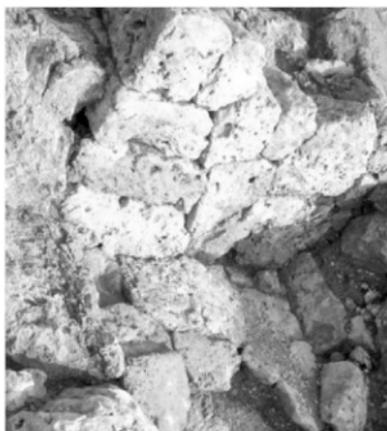
図版19 石積み8・9作業風景 (西から)



図版20 石積み9前面の堆積土 (西から)



第20図 石積み9 立面図



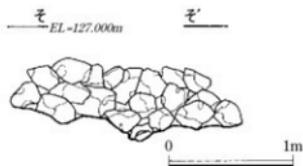
図版21 石積み9 (北西から)

10 石積み21 (G-4グリッド 第21図 図版22)

石積み2の裏込め石部分で確認した石積みである。野面積みのようであるが、裏込め石に紛れているため範囲等は不明確である。城壁の内部構造か胸壁に相当する石積みであろうか。



図版22 石積み21 (南西から)



第21図 石積み21 立面図

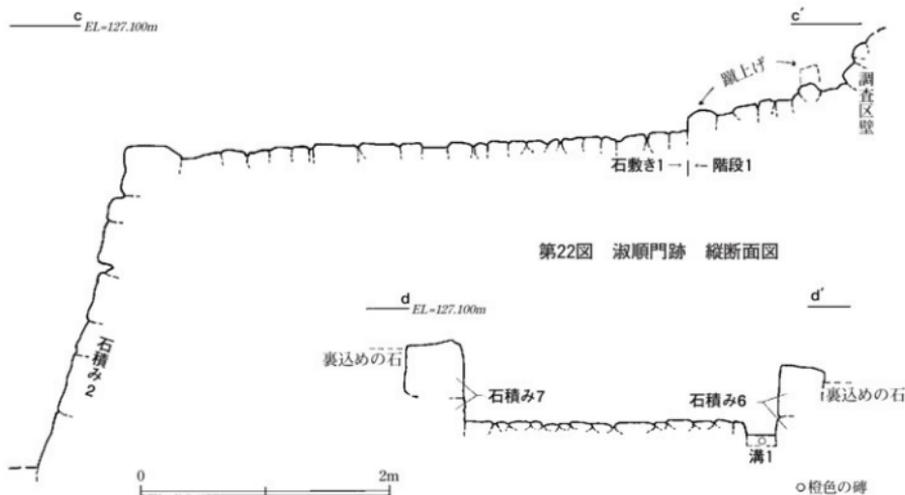
11 石敷き1 (G-5グリッド 第15・22・23図 図版16・23~28・76~79)

淑順門の床面に相当する石敷きである。長さ30cm前後、多角形で板状の石を敷き詰めており、北端は石積み2の天端に取り付けている。南西隅には、石の代わりに灰色の磚が敷かれている。

石敷き中央の溝状に石がない部分については、石積み6・7に彫られた蹴放しの穴と一連のものである。石敷き西端には南北方向に切石の石列が走っており、この石列は溝1の東壁に相当する。石敷きの北側には本来外郭地区へと下りていく階段があったが、まったく残っていなかった。

調査開始当初、石敷き1の上部には瓦礫を多く含んだしまりのない黒褐色土が堆積していた。この黒褐色土を取り除いていくと、1m前後もある石灰岩の切石が9個出土した。この切石にはほぞ穴を持つものや、「L」字形の浅い段を彫り込んでいるものがある。これらの特徴は、淑順門の東・西壁に相当する石積み6・7に使われた石に共通している。このことから9個の切石は、本来淑順門の東・西壁に使われていたと考えられる。発掘調査においてはこれら9個の石にA~Iのアルファベット名称を付け、図面・写真で記録をとった後に撤去した。

石敷き1の北側には、外郭地区と内郭地区をつなぐ6段の階段があったが、発掘調査においてはその痕跡すら確認できなかった。



第22図 淑順門跡 縦断面図

第23図 淑順門跡 横断面図



図版23 石敷き1の上に堆積した黒褐色土と切石
(南から)



図版24 切石検出状況(南から)



図版25 石敷き1(南西から)



図版26 石敷き1の上で検出した切石



図版27 石敷き1の上で検出した切石



図版28 石敷き1の上で検出した切石

12 階段1 (G・H-5・6グリッド 第15・24・25図 図版29・30・80)

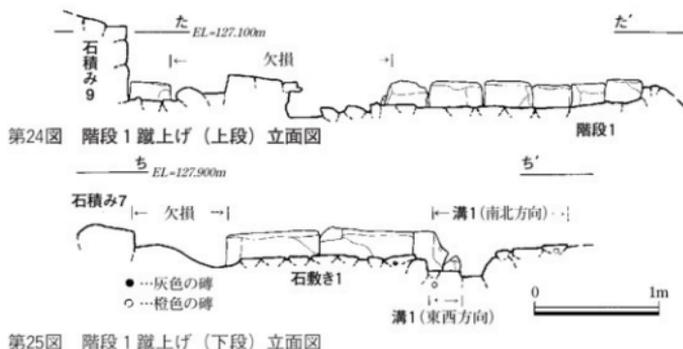
淑順門から御内原へと続く階段で、石敷き1と連続する。蹴上げ部分には長方形の切石を使い、それ以外は石敷き1と同様の石を使っている。



図版29 階段1 (北から)

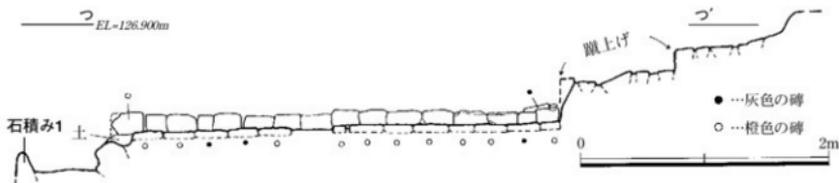


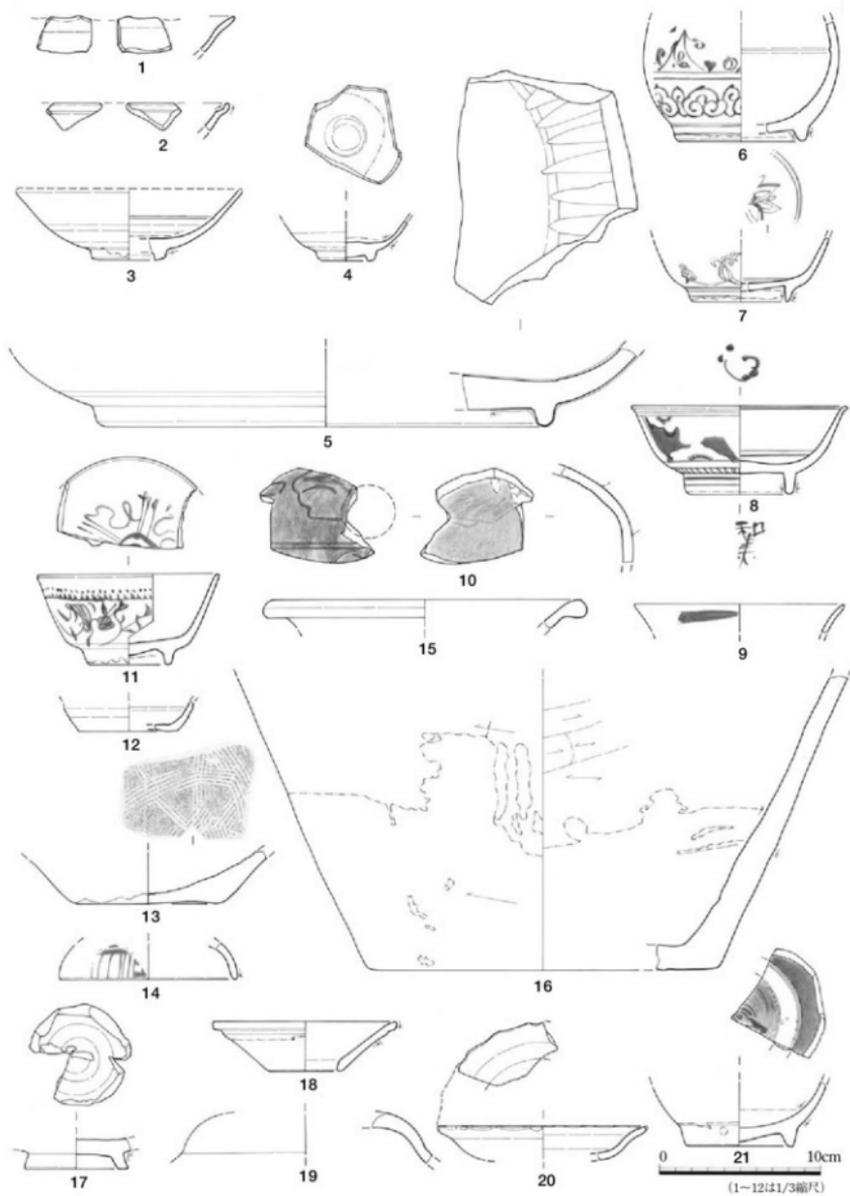
図版30 溝1 (東から)



13 溝1 (G-5・6グリッド 第15・26図 図版16・30)

淑順門の排水溝に相当すると考えられる遺構である。底面・東壁には石灰岩と灰色・橙色の埴を使い、西壁は石積み6となる。底面および東壁には所々に目張りの漆喰が見られる。溝の北端は石積み1を造った際に破壊されたと考えられる。南側は階段1に沿うように続いている。





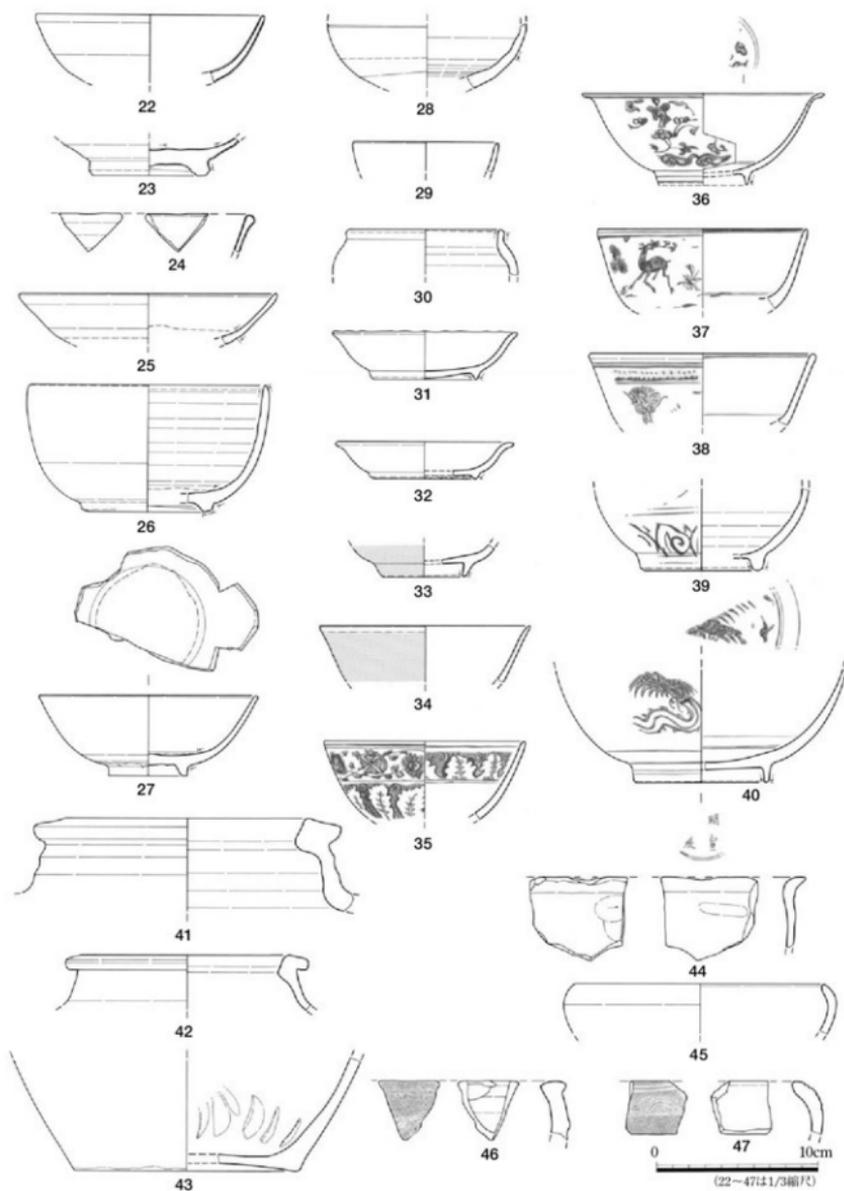
第27图 内郭地区出土遗物(1)

第4表 内郭地区出土遺物一覧(1)

単位: cm, g

図番号	種類	器種	分類	部位・残存	口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	所見	出土地点		
									グリッド・遺構	層序	
第27 回・ 図版 98・ 99	1	中国産 白磁	皿	口縁部	—	—	—	内・外面に貫入が多く、ピンホールが少しある。全面施釉。16世紀。	暗褐色土	G・H-7	
	2		皿か		—	—	—	口唇部は露胎。貫入が両面に多い。16~17世紀。			
	3		皿		—	4.6	—	胎土は灰色(露胎部は橙色)。高台胎~高台内と底部内面は露胎。福建・広東系か。			
	4		碗		—	3.8	—	底部内・外面は露胎。16~17世紀前半か。			
	5	中国産 青磁	盤	底部	—	28.0	—	高台内中心部は露胎。外面に沈線文、内面に連弁文。龍泉窯系。15世紀。			
	6	中国産 染付	瓶		8.0	—	—	畳付は露胎。底部内面は釉はじき。ピンホールが内・外面に多い。景德鎮窯系。16世紀。			
	7		碗		口~ 底部	13.4	6.6	5.5			畳付は露胎。ピンホールが外面に少しある。景德鎮窯系。16世紀。
	8	口縁部		13.0	—	—	畳付は露胎。底部外面に「和美」銘。17世紀。				
	9	中国産 三彩	水注	胴部	—	—	—	胎土は灰色でやや砂質。内面は一部露胎。貫入が内面に多い。外面に線刻文。			
	10	中国産 染付	碗	口~ 底部	11.2	5.0	—	畳付は露胎。貫入・ピンホールが内・外面に少しある。外面に鋸歯文・草花文、内面に十字花文。			
	11	中国産 褐釉陶器	袋物	底部	—	6.2	—	胎土はにぶい黄褐色で砂質。また白色粒を少し、半透明粒を多く含む。底部外面は圧痕。			
	12	中国産 陶器	播鉢	底部	—	9.2	—	胎土は橙色・灰色で砂質。また白色粒を少し、黒色・半透明粒を多く含む。内・外面はナデ、底部接地面は圧痕。6本/1.3cmの播り目。			G-7 石積み 外側
	13	タイ産 鉄絵	合子の 蓋	口縁部	10.8	—	—	胎土は灰白色で、黒色粒を少し含む。内面は露胎。貫入が外面に多い。			
	14	タイ産 褐釉陶器	壺		20.0	—	—	胎土は灰赤色(外側は灰色)で、赤色粒を少し含む。シーサッチャナライ窯系。15~16世紀前半。			G-7 石積み 外側
	15	陶器	碗	底部	—	6.4	—	胎土は灰白色でやや砂質。また黒色・半透明粒を少し含む。畳付は所々露胎。			G・H-7
	16	本土産 白磁		口~ 底部	11.4	4.8	3.1	口縁部外面は露胎。疾壺の蓋か。19世紀後半~20世紀。			G-7 石積み 裏込め部
	17	沖縄産 陶器 (荒焼系)	蓋	胴部	—	—	—	胎土は灰色(一部白色と交胎)で、黒色・半透明粒を少し含む。内・外面ともクロナデ。全面露胎。			
	18	中国産 白磁	皿	口縁部	—	—	—	貫入が内・外面に多い。16世紀。			トレンチ 1
	19	沖縄産 陶器 (上焼系)	碗	黒釉 底部	—	6.6	—	底部外面は露胎。底部内面は蛇の目釉剥き。重ね焼きの跡。18世紀~19世紀前半。			

4-1
内部地区



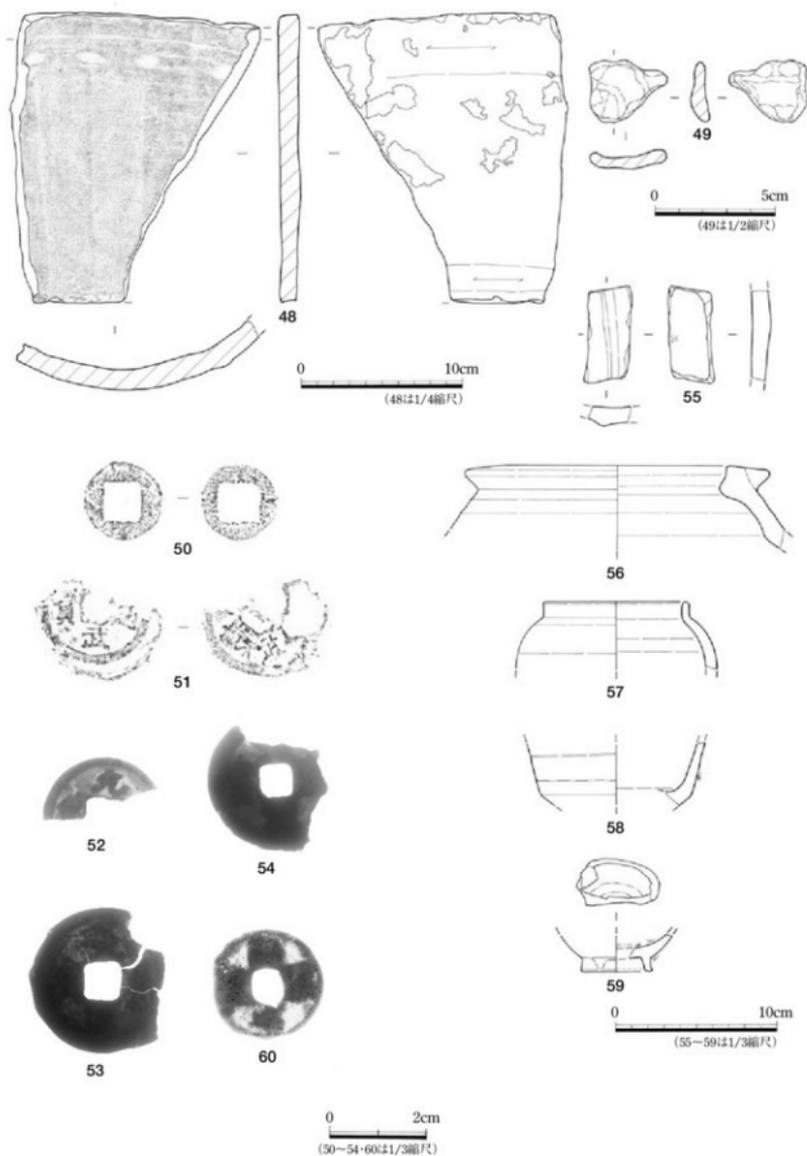
第28图 内郭地区出土遗物(2)

第5表 内郭地区出土遺物一覧(2)

単位: cm, g

図番号	種類	器種	分類	部位・残存	口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	所見	出土地点		
									グリッド・遺構	層序	
第28 園・ 園版 100・ 101	中国産 青磁	碗	直口・ 無文	口縁部	14.2	—	—	胎土は淡黄色。貫入が内・外面に多い。14世紀～16世紀前半。	H-7 石 積み4表 込め部	暗 褐色 土	
				底部	—	7.0	—	胎土は橙色。壘付～高台内は露胎。底部内面は蛇の目釉剥き。重ね焼きの跡。貫入が内・外面に少しある。18世紀。			
				直口・ 無文	口縁部	—	—	—			貫入が内・外面に多い。
						16.0	—	—			胴部内・外面は露胎。貫入が内・外面に多い。邵武窯系。16世紀。
				26	口～ 底部	14.6	8.0	7.9			高台脇～高台内は露胎。ピンホールが外面に少しある。胴部径は15.0cm。
	27	15.4	5.0	5.1		胎土は浅黄色。高台脇～高台内、底部内面は露胎。ピンホールが外面に多く、内面に少しある。貫入が内・外面に多い。					
	28	中国産 白磁	碗か	胴部	—	—	—	胴部外面は露胎。貫入が内面に多い。			
	29	碗	口縁部	9.0	—	—	—				
	30	壺	口縁部	9.8	11.4	—	—	口唇部は露胎。貫入が内・外面に多い。			
	31	皿	口～ 底部	11.6	6.4	3.0	壘付は露胎。ピンホールは内・外面に少しある。景德鎮窯系。16世紀。				
	32			11.0	6.2	2.2	壘付は露胎。高台内に砂が付着。ピンホールは内・外面に少しある。景德鎮窯系。16世紀。				
	33			中国産 瑠璃釉	底部	—	5.4	—			壘付は露胎。15～16世紀。
	34	中国産 染付	碗	口縁部	13.0	—	—	15～16世紀。			
	35			底部	12.6	—	—	16世紀。			
	36			口～ 底部	15.0	5.6	5.7	14世紀後半から15世紀。			
	37			口縁部	13.0	—	—	16世紀。			
	38			口縁部	14.0	—	—	ピンホールが内・外面に多い。16世紀。			
39	瓶	—	—	7.6	—	壘付は露胎。15～16世紀。					
40	碗	底部	—	8.4	—	壘付は露胎。貫入が内・外面に多い。外面に朱雀文、「…明宣…製」銘。15～16世紀。					
41	中国産 褐釉陶器	壺	口縁部	19.0	—	—	胎土は浅黄色で、半透明粒を少し含む。口縁部平坦面は一部露胎。貫入が内・外面に多い。16世紀後半～17世紀前半。				
42	16.0			—	—	胎土は灰色で、半透明粒を少し含む。口縁部平坦面～口縁部内面は所々露胎。					
43	本土産 陶器	底部	—	14.0	—	胎土はにぶい赤褐色(中心は灰色)で、半透明粒を多く、橙色粒を少し含む。内・外面ともナデ。底部接地面は圧痕。					
44	土器	鉢	口縁部	—	—	—	胎土はにぶい黄橙色～灰色で、白色・半透明粒を多く含む。外面はミガキ、内面はナデ。外面には黒斑。				
45	陶質 土器			15.2	17.0	—	胎土は橙色で、赤色・雲母粒を少し含む。				
46	沖縄産 陶器 (荒焼系)			水鉢	—	—	—	胎土は橙色(外側は灰色)で、白色・半透明粒を少し含む。外面に波状文。			
47											

4-1
内部地区



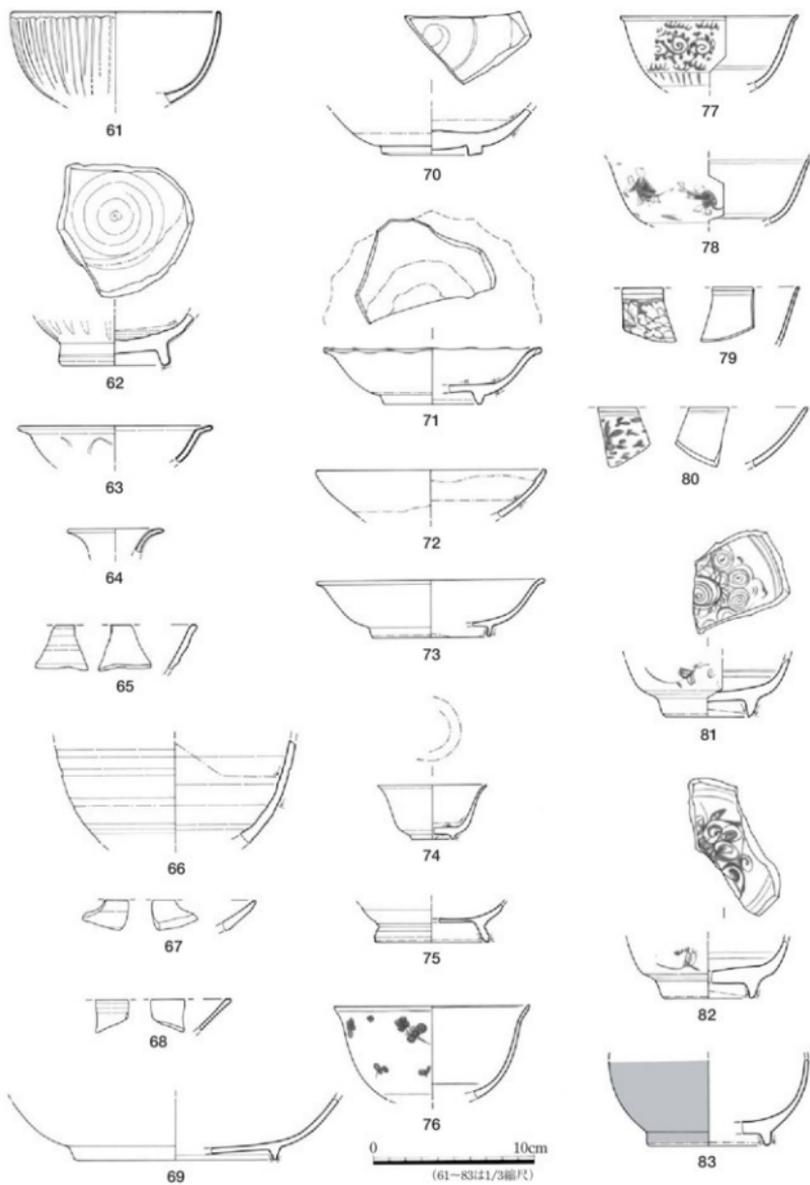
第29图 内郭地区出土遗物(3)

第6表 内郭地区出土遺物一覧(3)

単位: cm, g

図番号	種類	器種	分類	部位・残存	口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	重量	所見	出土地点			
										グリッド・遺構	層序		
第29 図・ 図版 102・ 103	48	瓦	平瓦	明朝系・灰色	破損	24.3	—	—	—	凹面は布目、凸面はナデ。分割面は無調整。凸面上半分に漆喰が付着。胎土は灰色で、黒色・半透明・橙色・灰色粒を少し含む。	トレンチ 1	暗褐色土	
	49	金属製品	不明		完形か	2.527	3.316	—	21.312	表面は焼けており、比較的滑らか。青銅製か。	G-7 石積み裏込め部		
	50	銭貨	無文銭		完形	1.630	1.630	0.89	0.453	孔の法量は8.41×7.95mm。			G-7 石積み裏込め部
	51		有文銭	破損	—	—	0.460	3.460	2枚の洪武通寶が付着した状態である。もう1枚付着しているようだが、破片のため詳細は不明。				
	52				「元〇〇寶」(行書体)								
	53				「元豊通寶」(折二銭行書体北宋1078年初鑄)。								
	54				「熙寧重寶」(折二銭篆書体北宋1071年初鑄)。孔の法量は6.26×6.11mm。								
	55	中国産緑釉陶器	不明		胴部	—	—	—	—	内・外面ともに、白化粧土の上に緑釉をかける。内・外面に貫入が多く、ピンホールが少しある。胎土は橙色で、半透明粒を少し含む。	石積み3外側		
	56	中国産褐釉陶器	壺		口縁部	18.8	—	—	—	内・外面ともに施釉で、貫入が少しある。内面にピンホールが少しある。胎土は灰黄色で、白色・半透明・赤色粒を少し含む。15~16世紀。			
	57	沖縄産陶器(荒焼系)	壺		口縁部	9.0	—	—	—	内・外面ともに露胎。内面はロクロナデ、外面はナデ。胎土は青灰色で、中心部は暗赤灰色。半透明粒を少し含む。			
58	不明			胴部	—	—	—	—	内面はロクロナデ、外面はナデ。外面上半分に灰オリブ色の釉薬をかけ、ピンホールが少しある。胎土はにぶい赤褐色で、半透明粒を少し含む。				
59	沖縄産陶器(上焼系)	小碗	白化粧		底部	—	4.4	—	—	内面は白化粧、外面は鉄釉で、疊付にアルミナ。見込は蛇の目釉剥ぎで、高台脇~高台内は露胎。内面に貫入が多い。胎土は灰色で、黒色粒を少し含む。			
60	銭貨	有文銭		完形	2.369	2.370	1.40	3.342	孔の法量は6.20×4.19mm。「〇〇通寶」(篆書体対読)。「宣和通寶」(北宋1119年初鑄)か。				

4-1
内郭地区



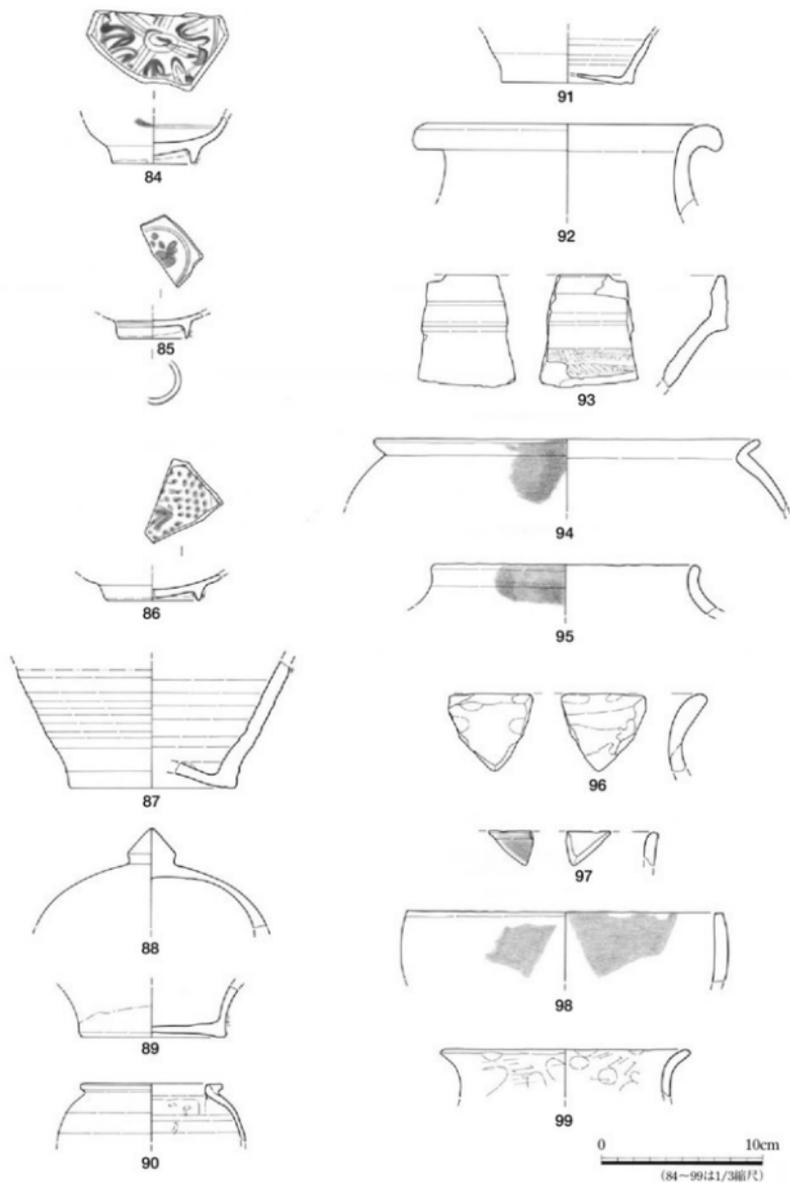
第30图 内郭地区出土遗物(4)

第7表 内郭地区出土遺物一覧(4)

単位: cm, g

図番号	種類	器種	分類	部位・残存	口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	所見	出土地点										
									グリッド・遺構	層序									
第30 園・ 園版 104・ 105	中国産 青磁			碗	直口・ 細連弁	口縁部	12.8	—	—	貫入が外面に少しある。16世紀。	石積み 4外側	暗 褐色 土							
				袋物		底部	—	6.8	—	内面の一部は露胎。高台内は釉剥ぎ。貫入が内・外面に少しある。外面に連弁文か。14世紀後半～15世紀。									
				皿	外反・ 連弁	口縁部	12.0	—	—	貫入が内面に少しある。14世紀後半～15世紀中頃。									
				瓶			3.0	—	—	貫入が内・外面に少しある。16～17世紀。									
				碗				—	—	—									
	碗か		胴部	—	—	—	内面の一部、胴部下半は露胎。貫入が内・外面に少しある。												
	皿		口縁部	—	—	—	胎土は浅黄橙色。貫入が内・外面に少し、ピンホールが内面に少しある。												
	皿			9.4	—	—	内・外面に貫入が多く、ピンホールが少しある。16～17世紀。												
	碗		底部	—	24.6	—	畳付は露胎。ピンホールが外面に少しある。景德鎮窯系。16～17世紀前半。												
	碗			—	6.2	—	底部内・外面は露胎。ロクロは半時計回り。邵武窯系。16世紀。												
	皿		口～ 底部	13.4	6.0	3.5	底部外面は露胎。底部内面は蛇の目状に施釉。重ね焼きの跡。ピンホールが内・外面に少しある。16世紀。												
	皿			口縁部	14.2	—	—	底部内・外面は露胎。貫入が内面に少し、ピンホールが内・外面に少しある。招武窯系。16世紀。											
	杯		口～ 底部	16.0	7.2	3.5	畳付は露胎。ピンホールが外面に少しある。景德鎮窯系。16世紀。												
	杯			6.8	2.5	3.3	畳付は露胎。底部内面は蛇の目軸剥ぎ。ピンホールが内・外面に少しある。景德鎮窯系。16世紀。												
	白磁			底部	—	6.6	—	畳付は露胎。貫入が内・外面に多い。											
中国産 染付																			
													碗	口縁部	12.0	—	—	ピンホールが外面にわずかにある。饅頭心タイプ。景德鎮窯系。16世紀。	
													碗		11.0	—	—	—	
													碗		胴部	—	—	—	17世紀。
													碗		口縁部	—	—	—	ピンホールが外面にわずかにある。景德鎮窯系。16世紀。
													碗			—	—	—	景德鎮窯系。16世紀。
													碗		底部	—	5.2	—	畳付は露胎。貫入が外面に多く、内面に少しある。ピンホールが外面に多い。景德鎮窯系か。15世紀後半～16世紀前半か。
													碗			—	5.8	—	畳付は露胎。ピンホールが外面に少しある。景德鎮窯系か。15世紀後半～16世紀前半か。
													瓶			—	7.6	—	畳付は露胎。底部内面は釉はじき。ピンホールが内・外面に少しある。15～16世紀。

4-1
内部地区



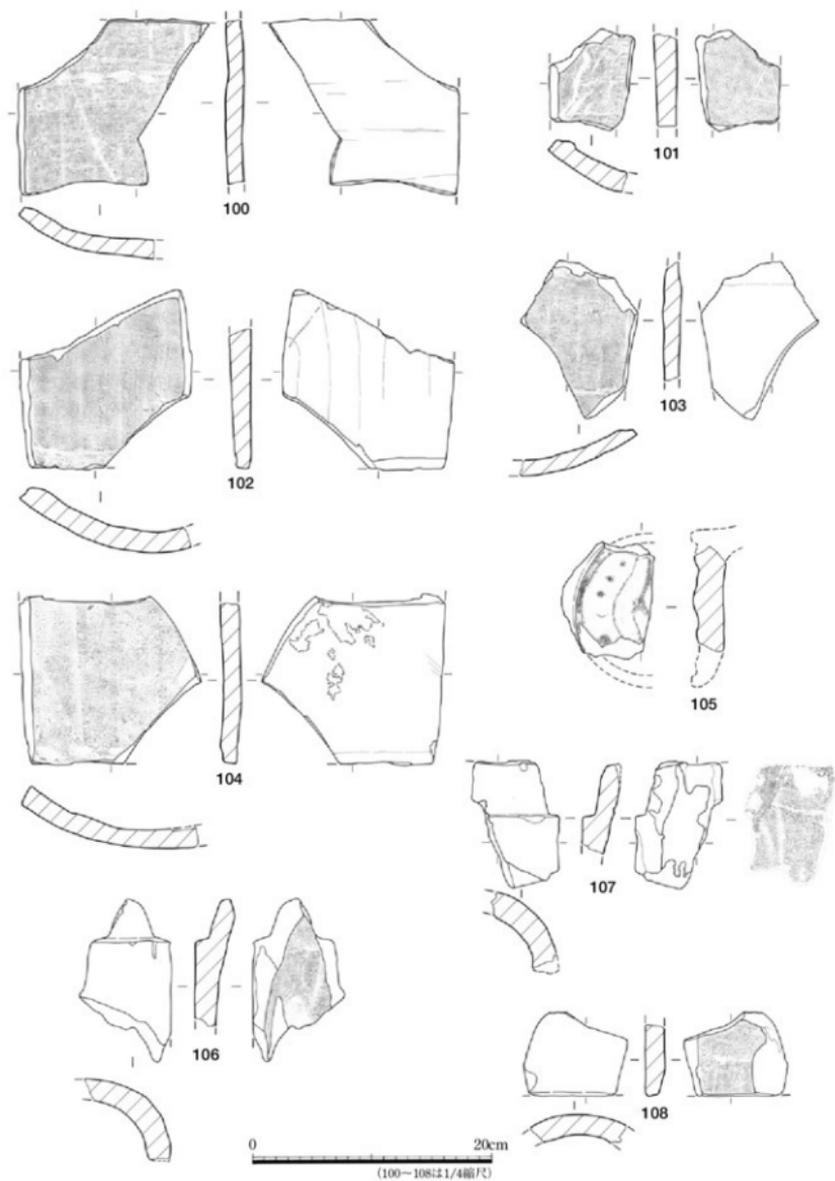
第31图 内郭地区出土遗物(5)

第8表 内郭地区出土遺物一覧(5)

単位: cm, g

図番号	種類	器種	部位・残存	口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	所見	出土地点		
								グリッド・遺構	層序	
第31図・図版106・107	84	中国産 染付	碗	底部	—	5.0	—	豊付は露胎。ピンホールが外面に少しある。景德鎮窯系。15世紀後半～16世紀中頃か。	H-7 石積み 4外側	暗褐色土
	85				—	4.2	—	豊付は露胎。景德鎮窯系。17世紀前半。		
	86				—	6.0	—	豊付は露胎。ピンホールが外面に少しある。景德鎮窯系。16世紀。		
	87	中国産 褐軸陶器	壺	—	10.0	—	胎土は灰色で、半透明粒を少し含む。底部接地面は圧痕。内面、底部外面は露胎。			
	88	白磁	蓋	—	—	—	内面は露胎。貫入が多く、ピンホールが少しある。東南アジア産か。			
	89		底部	—	9.8	—	底部外面・接地面は露胎。貫入が多い。東南アジア産か。釉薬・胎土が88と似る。東南アジア産か。			
	90	沖縄産 陶器 (上焼系)	壺	口縁部	8.8	—	—	胎土は橙色で、白色・半透明粒を少し含む。胴部内面は露胎。		
	91	中国産 褐軸陶器		底部	—	8.2	—	胎土は橙色(外側は暗灰色)、半透明粒を少し含む。底部接地面は圧痕。		
	92	沖縄産 陶器 (荒焼系)		—	19.0	—	—	胎土は赤褐色で、黒色・半透明粒を少し含む。所々に自然釉がかかる。		
	93	本土産 陶器	擂鉢	—	—	—	胎土は赤褐色(外側は暗灰色)で、半透明粒を少し含む。備前産。16～17世紀。			
	94	土器 (宮古式土器)	鉢	—	24.0	—	—	胎土は橙色・にぶい黄褐色・灰色で、白色粒を多く、黒色・半透明粒を少し含む。内・外面ともミガキ・ナデ。外面に黒斑。		
95	壺		口縁部	16.4	—	—	胎土は橙色・にぶい黄褐色・灰色で、白色粒を多く、赤色・半透明粒を少し含む。外面はミガキ・ナデ。内面はナデ。外面に黒斑。			
96	—		—	15.4	—	—	胎土は橙色で、白色粒を多く、橙色・半透明粒を少し含む。内・外面ともミガキ・ナデか。			
97	—	鉢	—	—	—	胎土は橙色・にぶい黄褐色・灰色で、白色粒を多く、橙色・半透明粒を少し含む。内・外面ともミガキ・ナデか。外面に黒斑。				
98	陶質土器	鉢か	—	19.2	—	—	胎土は橙色で、橙色粒を少し含む。全体が黒くすすけている。胴部最大径20.0cm。			
99	土器(バナリ焼)	壺か	—	15.4	—	—	胎土は橙色で、白色・灰色粒を多く、半透明粒を少し含む。内面は工具ナデ、外面は工具ナデか。			

4-1
内部地区



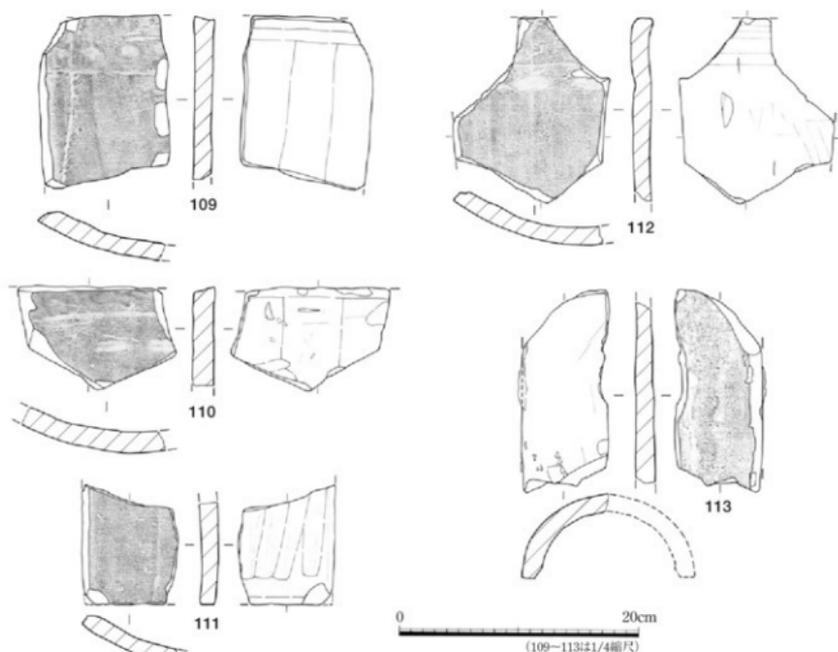
第32图 内郭地区出土遗物(6)

第9表 内郭地区出土遺物一覧(6)

単位: cm, g

図番号	種類	器種	分類	部位・残存	所見	出土地点	
						グリッド・遺構	層序
第32図・ 図版108・ 109	100	平瓦	明朝系・ 灰色	破損	凹面は布目・ナデ。凸面はナデ。分割面は無調整。広端はナデ・圧痕。胎土は灰色で、黒色粒を少し含む。	石積み 4外側	暗褐色 土
	101				凹面は布目。凸面はナデ。分割面は無調整。胎土は灰色。凸面に線刻の記号らしきものがある。		
	102		明朝系か・ 灰色		凹面は布目→一部ナデ。凸面はナデ。分割面は無調整。狭端はナデ。胎土は灰色で、黒色粒を少し含む。		
	103		明朝系・ 陶器質		凹面は布目。凸面はナデ。分割面は無調整。胎土は灰色・赤褐色。外面が黒く焼けてガラス質。		
	104	軒丸瓦	明朝系か・ 橙色		凹面は布目。凸面はナデ。分割面は無調整。狭端はナデ。胎土はにぶい黄橙色で、半透明・橙色・金色粒を少し含む。		
	105		明朝系・ 橙色		胎土は灰色(外側は橙色)で、黒色・橙色・半透明粒を少し含む。		
	106		明朝系・ 灰色		凹面は布目・工具ナデ。凸面はナデ。分割面は無調整。胎土は灰色で、半透明・橙色粒を少し含む。		
	107		明朝系・ 橙色		凹面は布目・工具ナデ。凸面はナデ。分割面は無調整。胎土は橙色(中心は灰色)。		
108	明朝系か・ 灰色	凹面・凸面はナデ。分割面は無調整。胎土は灰色で、半透明粒を少し含む。					

4-1
内郭地区

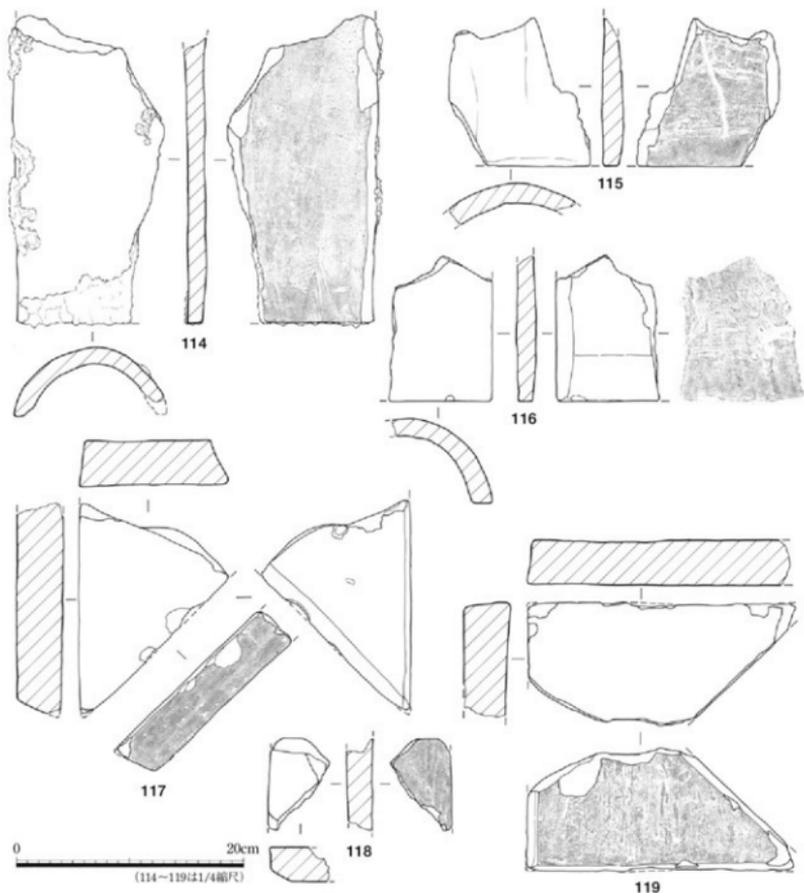


第33図 内郭地区出土遺物（7）

第10表 内郭地区出土遺物一覧（7）

単位：cm、g

図番号	種類	器種・分類	分類	部位・残存	所見	出土地点	
						グリッド・遺構	層序
第33図・図版102・103	109	瓦	平瓦	破損	凹面は布目、凸面・狭端はナデ、分割面は無調整。胎土は灰色で、半透明・黒色粒を少し含む。	トレンチ1	赤褐色土
	110				凹面は布目で広端付近はナデ、凸面はナデ、広端はナデているようであるが、圧痕が目立つ。胎土は鈍い橙色で、白色・半透明・赤色・橙色・灰色粒を少し含む。全体に煤のような黒色の物質が付着している。		
	111				凹面は布目、凸面・狭端はナデ、分割面は無調整。胎土は灰色で黒色粒を少し含む。		
	112				凹面は布目、凸面・ナデ、分割面は無調整、広端は圧痕。胎土は鈍い褐色で半透明・赤色・橙色粒を少し含む。		
	113	凹面は布目、凸面はナデ、分割面は無調整。胎土は鈍い褐色（中心は灰色）で、橙色粒を多く含む。凸面に漆喰が付着。					



第34図 内郭地区出土遺物（8）

第11表 内郭地区出土遺物一覧（8）

単位：cm、g

図番号	種類	器種	分類	部位・残存	器高・厚さ	所見	出土地点	
							グリッド・遺構	層序
第34図・図版108・109	114	瓦	丸瓦	明朝系・灰色	破損	—	石積み4外側	暗褐色土
	115					—		
	116					—		
	117	—	4.1					
	118	—	3.1					
119	—	—	4.0					

第2節 外郭南側地区の遺構と遺物

内郭地区から北側に一段下がった地区で、B～F-1～8グリッドにあたる。この地区は最も客土の量が多い地区で、西側から東側に向かって重機を使い除去していった。西側一帯には遺構保護のための砂が検出されたので、この砂を除去すると石積み11・13、石敷き2、階段2が現れた。これらは平成7年度に調査を行った遺構であり、遺構のつながりを確認するために今回あらためて検出した。

保護砂を目印に順次東側へと客土を除去していくと、石積み1の北側1m付近で、東西に走るコンクリート塀を検出した。これは旧琉球大学時代の構造物と考えられる。旧琉球大学時代にこの地区にはコンクリート製の建物が建っており、固く敷き詰められた造成土や電気ケーブル、コンクリートボックス等も見つかった。標高123.4mより高い部分には旧琉球大学時代の建物の造成工事が及んでおり、首里城の遺構はほとんど残っていないかった。

重機で客土を除去したあと、調査区全域に対して磁気探査を行い不発弾の有無を確認したが、外郭南側地区で特に多くの異常点が確認された。この異常点の正体を探るために人力及び小型重機により掘り下げを行った。その結果E・F-2～8グリッドにおいて、旧琉球大学時代に埋設された水道管を3本検出した。

磁気探査のあと、人力で残りの客土を除去した結果、石積み12・15～20、階段2を検出した。



図版31 旧琉球大学時代の建物跡（北西から）



図版32 旧琉球大学時代のケーブル跡（北東から）

1 石積み10 (F-4~8グリッド 第35・36図 図版33・34)

石積み2に並行して走る石積みである。相方積みで、天端は残っておらず、根石は確認していない。



図版33 石積み10 (北東から)



図版34 石積み10 (北から)

2 石積み11 (B-3・4、C・D-5、E-6~8グリッド 第37~41図 図版35・36)

右掖門から北東に延びる城壁の、内面に相当する石積みである。野面積みで、天端は残っておらず、根石は確認していない。

B-2グリッド部分については、戦後の造成によって石積みが破壊されており、石積み11の外側にある土層の断面が露出していた。土層断面を観察したところ、上から赤褐色粘質土、暗褐色土、黒褐色土の順で堆積していることが確認された (図版84)。

黒褐色土からは貝類、魚・ブタの骨が多く出土し、また15世紀を中心とした中国産青磁・褐陶陶器なども出土している。

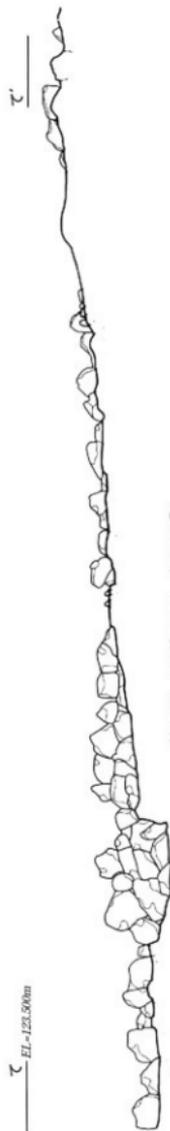


図版35 石積み11 (南から)

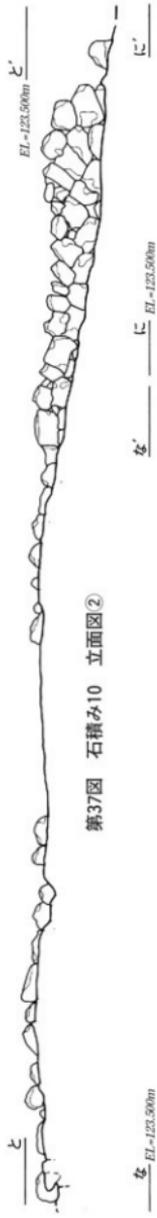


図版36 石積み11・17・18 (南東から)

— τ —
EL.-123.500m



第36図 石積み10 立面図①



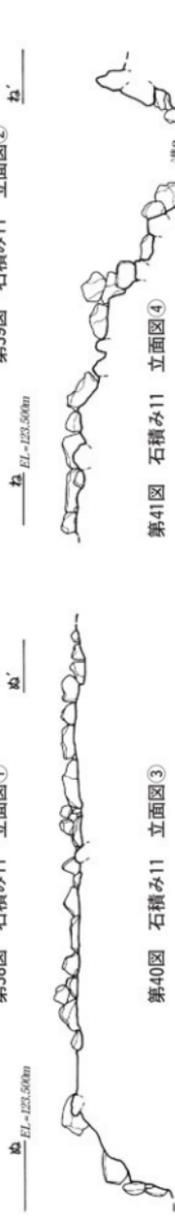
第37図 石積み10 立面図②

— η —
EL.-123.500m



第38図 石積み11 立面図①

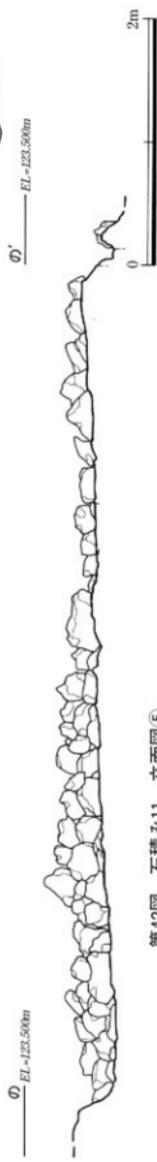
— θ —
EL.-123.500m



第39図 石積み11 立面図②

第40図 石積み11 立面図③

— ι —
EL.-123.500m



第42図 石積み11 立面図⑤

3 石積み13 (B-3~5、C-5、D-5~8

右掖門から北東に延びる城壁の、外面に相当する石積みである。天端は残っており、根石は確認していない。

石積み13は、右掖門から東に20mほどいったところで、カーブを描きながら北に折れていくが、ここまでは切石を布積みしている。しかしカーブ地点から北に10mほどいった東に折れるところまでは、加工が粗い石を相方積みしている。

また東に折れたあとは、下が布積み、上が相方積みという構造の石積みが続き、外郭城壁となる。平成13年度に行った首里城城郭復元整備に伴う発掘調査によると、布積みの下にさらに野面積みの石積みがあることが確認されている。

このように一連の石積みにおいて、上下左右で積み方が異なるのは、地震等によって石積みが崩壊した部分を修復したり、増改築工事を行ったためと考えられる。

第42~45図 図版37~41)



図版37 石積み13 (北から)



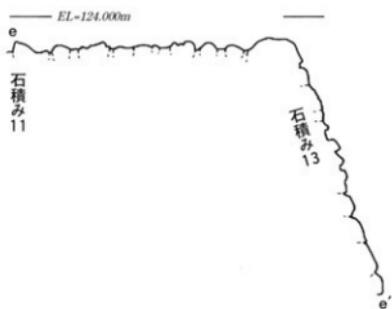
図版38 石積み13 (北西から)



図版39 石積み13（西から）



図版40 石積み13（北西から）

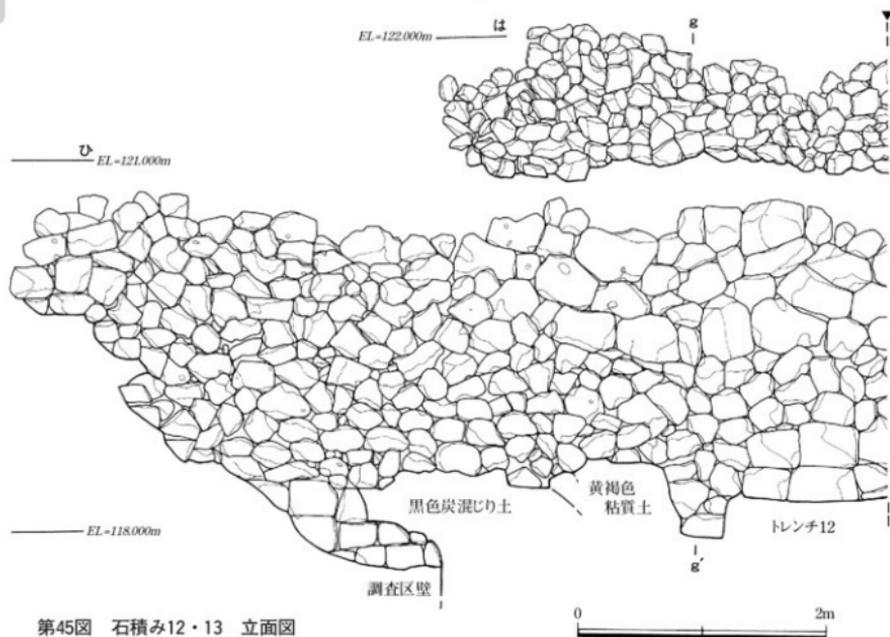


第43図 石積み11・13 断面図



第44図 石積み13 断面図

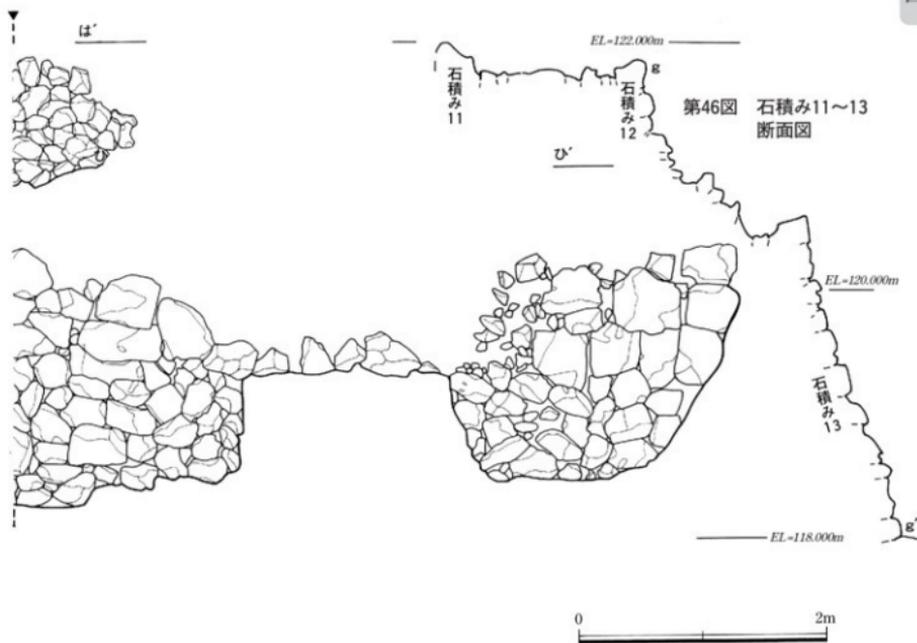
4-2
外郭
地区



第45図 石積み12・13 立面図



図版41 手前から石積み13・石積み12 (北から)



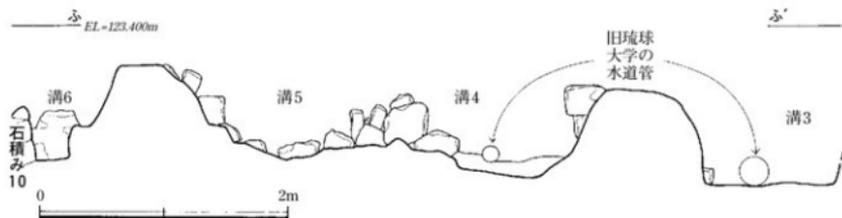
4 石積み14 (E・F-4グリッド 第47図 図版42)

野面積みで、石積み10に対して直角に取り付く。天端は残っておらず、根石は確認していない。旧琉球大学時代の水道管埋設工事の際に掘られた溝3・4の壁面を観察したときに発見した遺構である。

溝3・4北壁土層図(68・69)によると、石積み14の西側(内側)には石灰岩礫を多く含んだ黄褐色砂質土が確認できる。東側(外側)には、階段3構築以前の造成土と考えられる明黄褐色土が確認できる。



図版42 石積み14 (南から)



第47図 石積み14 立面図

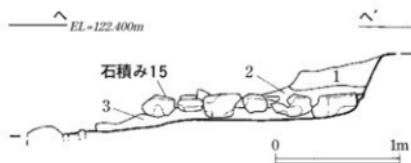
5 石積み15 (B・C-2グリッド 第47図 図版43)

ほぼ南北方向に延びる石積みである。下部構造を確認するためにトレンチ4を設定した。その結果石積みは一段分しか残っていないことが分かった。また炭を大量に含んだ黒褐色土の上に石積みが造られていることが確認できた。黒褐色土からは15世紀頃の中国産青磁・褐釉陶器や金属製品、貝殻、魚・ブタの骨などが出土した。本来の高さは不明であり、一段しかない石列の可能性もある。

石積みの北端を確認するためにトレンチ5を設定したが、破壊されたためか確認できなかった。

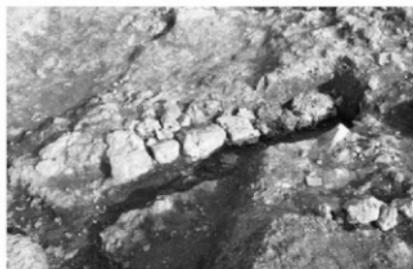
石積み15はさらに南側に延びることが予想されたので、トレンチ4を南に延長して掘削を行った。その結果、石積みはトレンチの範囲よりさらに南に延びることがわかった。

この遺構は戦前の首里城の図面・絵図に記載されていない遺構の1つである。



第48図 トレンチ4 東壁土層図

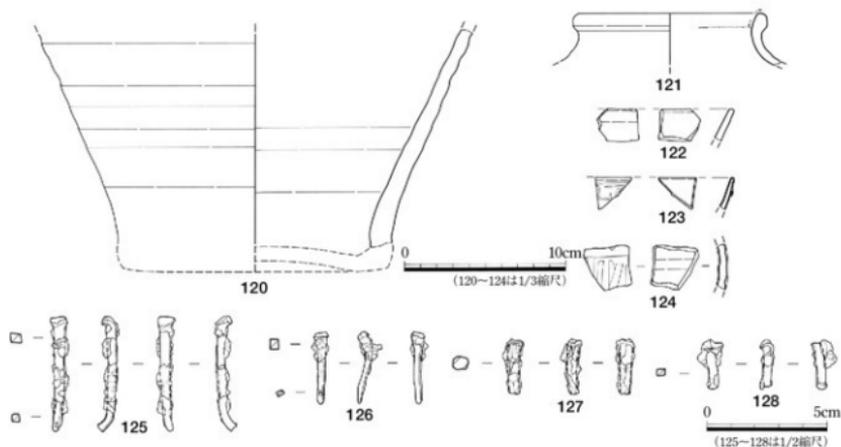
図番号	層序	色調	厚さ (cm)	土質・混入物	備考
48	1	明赤褐色 5YR 5/6	25	粘質土。	
	2	灰褐色 7.5YR 4/2	15	砂質土。	「トレンチ4 暗褐色土」で遺物を取り上げる。第49図、図版110・111。
	3	黒褐色 5YR 2/1	10	砂質土で、きめ細かい炭が大量に混じる。中国産褐釉陶器、金属製品、貝類、魚・ブタの骨等を多く含む。	トレンチ4・5黒褐色土、B-3グリッド黒褐色土と同一。「トレンチ4 黒褐色土」で遺物を取り上げる。第49図、図版110・111。



図版43 石積み15 (西から)



図版44 トレンチ5 褐釉陶器検出状況



第49図 外郭南側地区出土遺物（1）

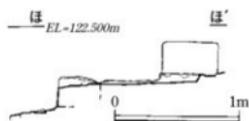
第12表 外郭南側地区出土遺物一覧（1）

単位：cm、g

図番号	種類	器種	分類	部位・ 残存	口径・ 長さ	底径・ 幅	器高・ 厚さ	重量	所見	出土地点	
										グリッド・ 遺構	層序
第49 図・ 図版 110・ 111	120	中国産 褐釉陶器	壺	胴部	—	—	—	—	全面施釉。胎土は褐灰色で、半透明・赤色粒を少し含む。	トレンチ 4	
	121	中国産 褐釉陶器	壺	口縁部	12.0	—	—	—	全面施釉で、内・外面に貫入が多い。胎土は灰色で、白色・黒色・半透明粒を少し含む。風化が進んでいる。	B-3	黒褐色土
	122	沖縄産 陶器 (荒焼系)	碗	口縁部	—	—	—	—	内・外面ともロクロナデ。胎土は暗赤褐色（外側は暗灰色）。全面露胎。	トレンチ 4	
	123	中国産 青磁	碗	直口・ 雷文帯	口縁部	—	—	—	全面施釉。胎土は灰白色。外面の一部に、胎土が貼りついている部分がある。14世紀後半～15世紀前半。	トレンチ 5	
	124		袋物	胴部	—	—	—	—	外面に連弁文か。全面施釉。15世紀か。	トレンチ 4	暗褐色土
	125	金属製品	釘	破損	4.814	0.717	0.326	3.515	鉄製。	トレンチ 4	
	126		完形	2.971	0.549	0.492	1.004				
	127		破損	2.299	0.523	—	1.554	鉄製。耳かき状。	トレンチ 5		
128	破損		2.070	0.808	0.486	1.543					

6 石積み16 (C・D-2グリッド 第50図 図版45)

布積みで2段分を検出した。南北の長さは約1.2mで、本来はさらに長かった可能性がある。戦前の首里城の図面等に記載されていない遺構の1つである。



第50図 石積み16 立面図



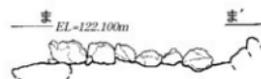
図版45 石積み16 (西から)

7 石積み17 (B・C-3グリッド 第51・53図 図版46)

石積み18と対をなす石積みである。北端は石積み11に接しており、南端および根石は確認していない。石積み17と石積み11とに囲まれた部分には褐色土が堆積しており、屋根瓦等の遺物が多く出土した(第54・55図 図版110~113)。石積み17・18は戦前の首里城の図面に記載されていない。石積み19・20のように外郭地区の区画を目的として造られた石積みであろうか。

8 石積み18 (B-3グリッド 第52・53図 図版46)

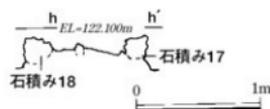
石積み17と対をなす石積みである。野面積みで、北端は石積み11に接しており、南端および根石は確認していない。



第51図 石積み17 立面図



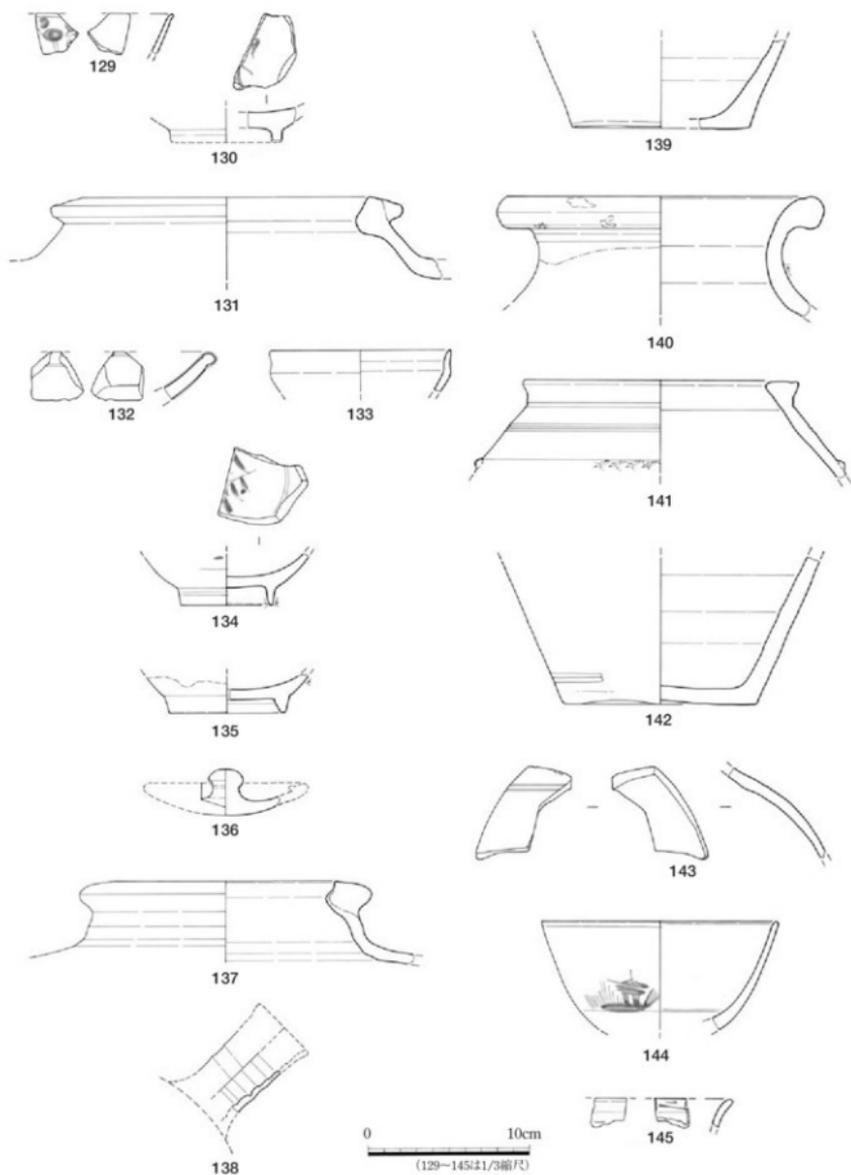
第52図 石積み18 立面図



第53図 石積み17・18 断面図



図版46 石積み13・17・18 (南東から)



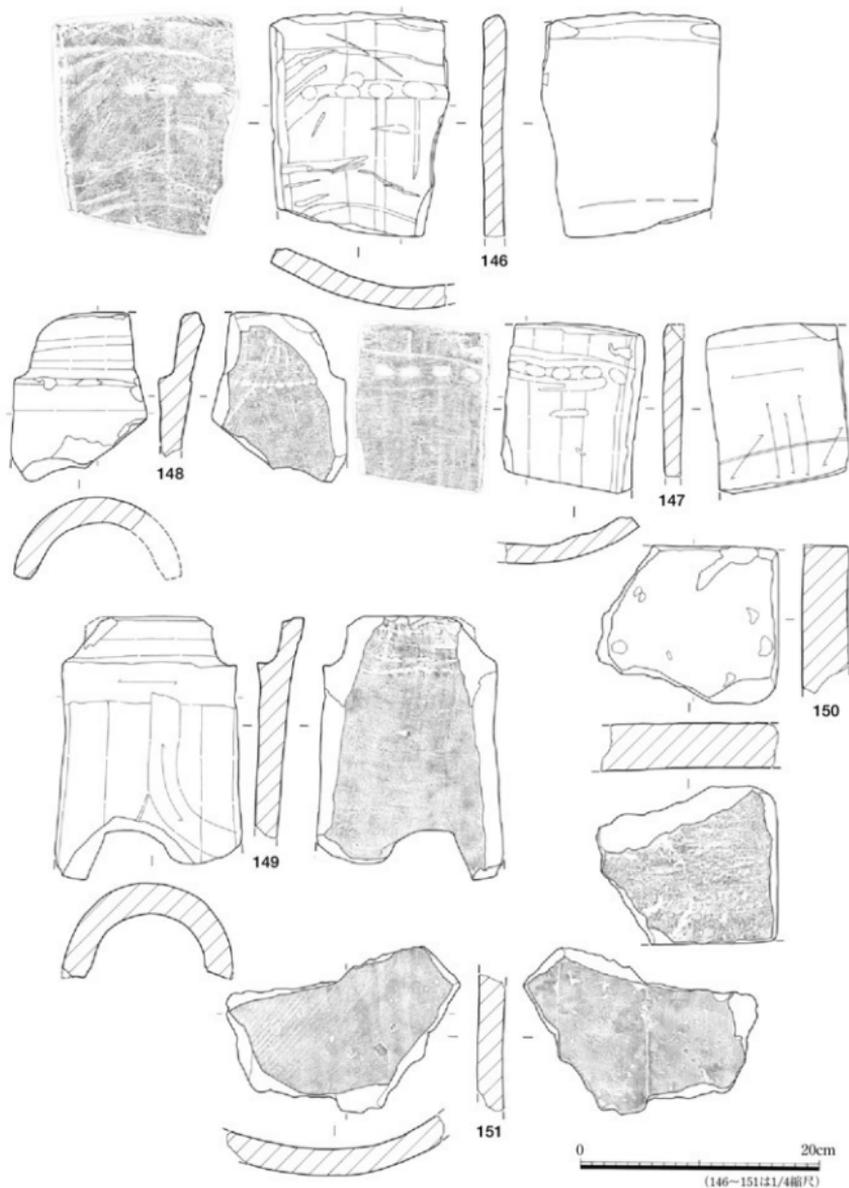
第54図 外郭南側地区出土遺物(2)

第13表 外郭南側地区出土遺物一覧(2)

単位: cm, g

図番号	種類	器種	分類	部位・残存	口径・長さ	底径・幅	所見	出土地点			
								グリッド・遺構	層序		
第54図・ 図版110、 113	129	中国産染付	碗	—	口縁部	—	全面に施軸。17世紀。	石積み13表込め部	褐色土		
	130	本土産染付	碗	—	底部	—	畳付は露胎。ピンホールが内・外面に少しある。肥前系。				
	131	中国産褐釉陶器	壺	—	口縁部	20.8	—			胎土は灰赤色で、白色・半透明粒を少し含む。全面に施軸。内・外面にピンホールが少し、貫入が多くある。16～17世紀前半。	
	132	中国産青磁	皿	直口・無文		—	—	貫入が外面に少しある。			
	133	本土産黒釉陶器	碗	—	底部	10.6	—	胎土はにぶい黄橙色。畳付は露胎。ピンホールが内・外面にわずかにある。15世紀か。			
	134	本土産染付		—		—	5.6	—	畳付は露胎。ピンホールが内・外面に多く、貫入が外面に少しある。肥前(伊万里か)。		
	135	中国産白磁		—		—	—	7.0	胎土は浅黄色。畳付は露胎。		
	136	タイ産土器	蓋	—	—	—	—	つまみ径2.2cm。胎土は灰色(外側はにぶい黄橙色)で、半透明・赤色・橙色粒を少し含む。外面はナダ、内面はケズリに近いナダ。	石積み17外側	褐色土	
	137	中国産褐釉陶器	壺	—	口縁部	18.0	—	胎土は黄灰色で、白色・半透明・赤色粒を少し含む。ピンホール・貫入が内・外面に少しある。16世紀後半～17世紀前半。			
	138	沖縄産陶器(荒焼系)	急須	—	把手	—	—	胎土は暗灰色で、半透明・橙色粒を少し含む。全面露胎。			
	139		—	—	底部	—	10.8	胎土はにぶい赤褐色(外側は暗灰色)で、白色・半透明粒を少し含む。底部接地面には圧痕。			
	140		タイ産褐釉陶器	—	—	口縁部	20.2	—			胎土はにぶい赤褐色で、赤色・半透明粒を少し含む。頸部に施軸。メナムノイ窯系。15～16世紀。
	141	沖縄産陶器(荒焼系)	壺	—	—	—	17.0	—			胎土は灰色(外側は暗赤灰色)。口縁部平坦面に目跡のようなものが1か所ある。
	142			—	—	底部	—	12.0			胎土は灰赤色・灰色・黒色で、白色粒を少し含む。底部接地面は圧痕、ナダ。
	143			—	—	胴部	—	—	胎土は暗赤褐色・灰色で、半透明粒を少し含む。外面に2本の沈線。		
144	本土産染付	碗	—	口縁部	7.3	—	ピンホール・貫入が内・外面に多い。肥前系。17世紀。	石積み18外側			
145	ベトナム産染付		—		—	—	—			ピンホール・貫入が内・外面に多い。	

4-2
外郭
地区南



第55図 外郭南側地区出土遺物(3)

第14表 外郭南側地区出土遺物一覧（3）

単位：cm、g

図番号	種類	器種	分類	部位・残存	所見	出土地点		
						グリッド・遺構	層序	
第55図・図版112・113	146	瓦	平瓦	明朝系・灰色	破損	凹面は布目→ナデ。凸面はナデ。広端はナデ・圧痕。分割面は無調整。胎土は灰色で、赤色・橙色粒を少し含む。	石積み17外側	暗褐色土
	147							
	148	丸瓦	明朝系・橙色	凹面は布目・工具ナデ。凸面はナデ。分割面は無調整。胎土は灰色で、橙色粒を少し含む。				
	149			凹面は布目・工具ナデ。凸面はナデ。分割面は無調整。胎土は灰色で、白色・半透明粒を少し含む。		石積み18外側		
	150	埴	橙色	上面・側面はナデ。下面は圧痕。胎土は灰色。厚さは4.0cm。				
	151	瓦	平瓦	大和系・灰色		凹面は糸切り→砂目。凸面は砂目→ナデ。胎土は灰色（外側は橙色）で、白色・橙色粒を少し含む。	石積み17外側	



図版47 石積み11～13・15～19（東から）

9 石積み19 (C・D-4 グリッド 第56・58図 図版48・89)

石積み20と対をなす石積みである。相方積みで、天端は残っておらず、根石は確認していない。石積み19の前面には炭が多く混じった暗褐色土が堆積している。

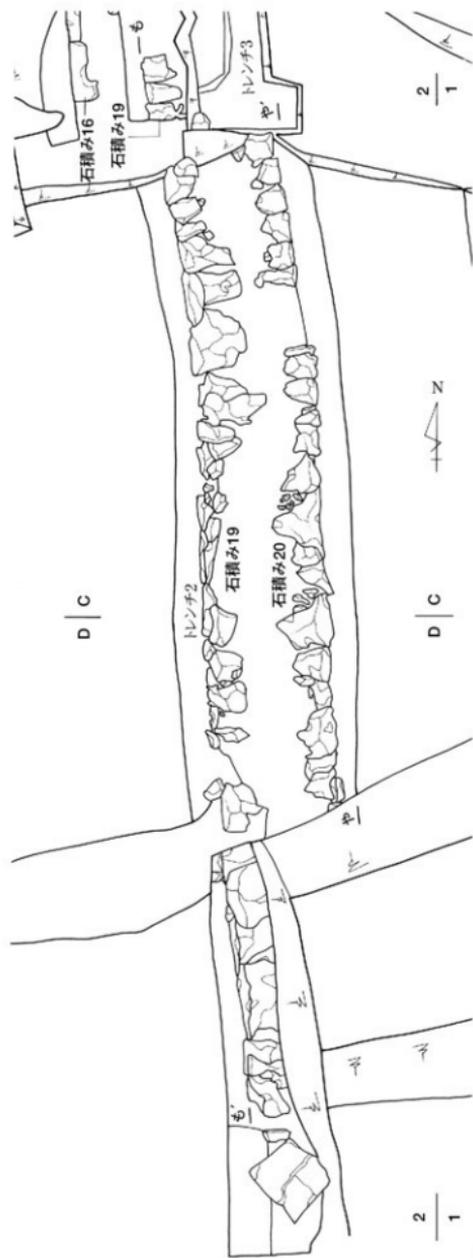
石積み19に並行してトレンチ2を設定したところ、暗褐色土の下には褐色土が堆積していることがわかった。この両土層から出土した遺物から、石積み19が造られた時期は、17世紀を下らないと考えられる。

また石積み19南端の土層堆積状況を確認するためにトレンチ11を設定した(第59図 図版86～88)。トレンチ11の5層は、石積み19が壊された後の地表面であった可能性があり、6層は石積み19が機能していた頃の地表面であった可能性がある。5・6層から出土した遺物などから(第61・62図 図版114～117)、石積み19の廃絶時期は18・19世紀頃と考えられる。また6層の直下には、石灰岩の小礫を含む赤褐色粘質土があることが溝3パイプ付近で確認できた。

石積み19・20は外郭地区を東西に分ける石積みである。第113図「首里城付近之図」を見ると南北両端については外郭城壁(石積み11)と内郭城壁(石積み2)に接しており、内郭よりの1か所に門が描かれている。ところが第114図「沖縄県首里旧城図」を見ると、南端については内郭城壁の北側に沿って走る石積み(石積み10)に接しているが、北端は外郭城壁には接しておらず、5m前後の空間がある。さらに第115図「首里城熊本鎮台沖繩分遣隊配置図」や第116図「旧首里城図」では、石積み19・20はまったく描かれていない。以上のことから、石積み19・20は築造後に一部規模を縮小し、最後には廃棄された可能性がある。



図版48 石積み19・20 (東から)



第566図 石積み19・20 平面図



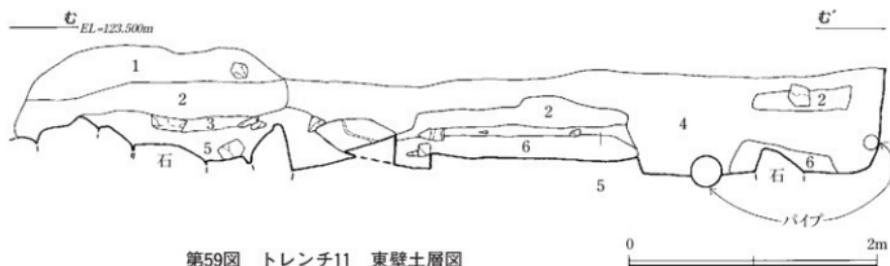
第577図 石積み19 立面図



第588図 石積み20 立面図



図版49 石積み20 (東から)



第59図 トレンチ11 東壁土層図

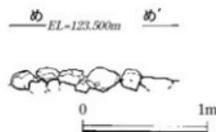
図番号	層序	色調	厚さ (cm)	土質・混入物	備考
59	1	灰黄褐色 10YR 5/2	37	砂質土で、礫・遺物を含む。	砂質土で、礫・遺物を含む。
	2	明赤褐色 5YR 5/6	35	砂質土で、ケーブル等を含む。	砂質土で、ケーブル等を含む。
	3	明黄褐色 10YR 6/6	10	砂質土。	砂質土。
	4	灰褐色 7.5YR 5/2	80	粘質土。	粘質土。
	5	暗灰黄色 2.5YR 5/2	50	砂質土で、瓦・礫を含む。石積み19が壊された後の地表面か。	「トレンチ11 暗褐色土」で遺物を取り上げる。第68図の12層と同一。分析試料番号7を採取。
	6	黒褐色 2.5YR 2/1	25	粘質土で、瓦・炭を含む。下位に石灰岩礫を含む。	「トレンチ11 黒褐色土」で遺物を取り上げる。第68図の12層と同一。分析試料番号7を採取。

10 石積み20 (C・D-4グリッド 第56・57図 図版48・49・89)

石積み19と対をなす石積みである。相方積みで、天端は残っておらず、根石は確認していない。石積み20の北端を確認する目的でトレンチ3を設定したが、確認できなかった。

11 石積み22 (E-7グリッド 第60図)

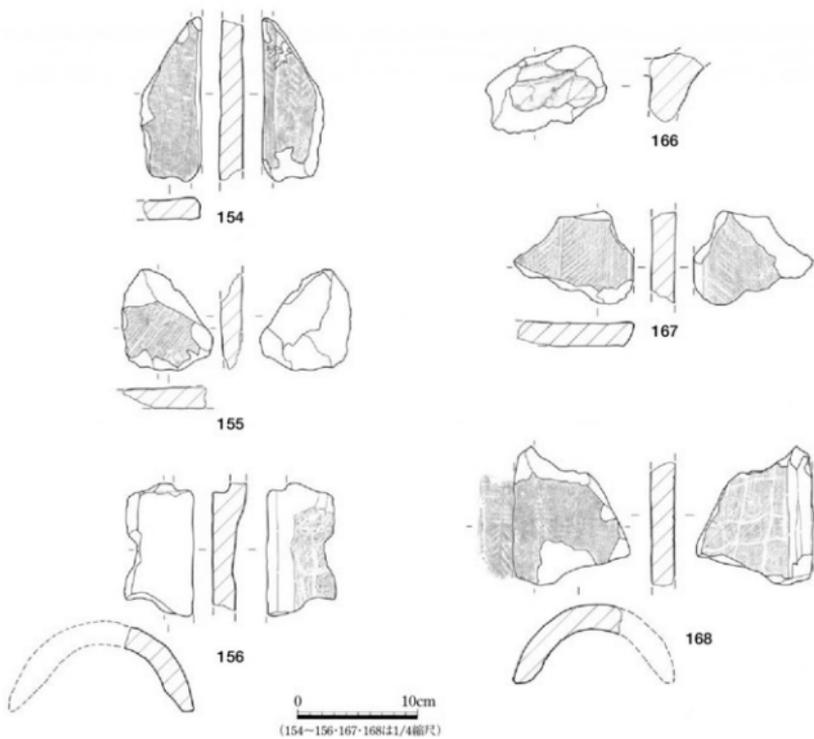
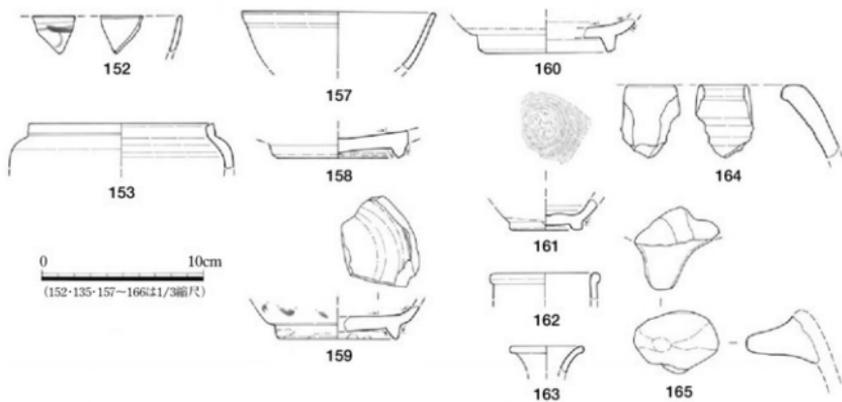
石積み11・13の中込め石部分で検出した。3個の石が東西に並んでおり、南側に面を持っているように見える。城壁の内部構造である可能性があるが、規模が小さく1段分しか確認していないため詳細は不明である。



第60図 石積み13 立面図

12 石積み23 (E・F-6グリッド)

西側に面を持ち、南北方向に走る石積みである。天端は残っておらず、根石と考えられる1段を確認した。相方積みで、北端・南端はそれぞれ石積み11・10に取り付くようである。石積みの裏側(東側)には褐色粘質土(炭・赤褐色粘質土混じり)が確認された。この土は外郭整備時の造成土と考えられる。石積み23と先述した石積み14とは、直線距離で7.5m離れており石の面も反対だが、①石積み10に取り付き南北に走っていること、②造成に伴う土留めの石積みと考えられること、という共通点がある。また遺構平面図に「沖縄県首里旧城図」を重ねてみると、石積み14が階段3の西端に、石積み23が階段2の東端に重なる。言いかえると、踊り場の東西の端が石積み14・23と重なるということである。この踊り場とは、淑順門へと上る6段の階段が始まる所である。



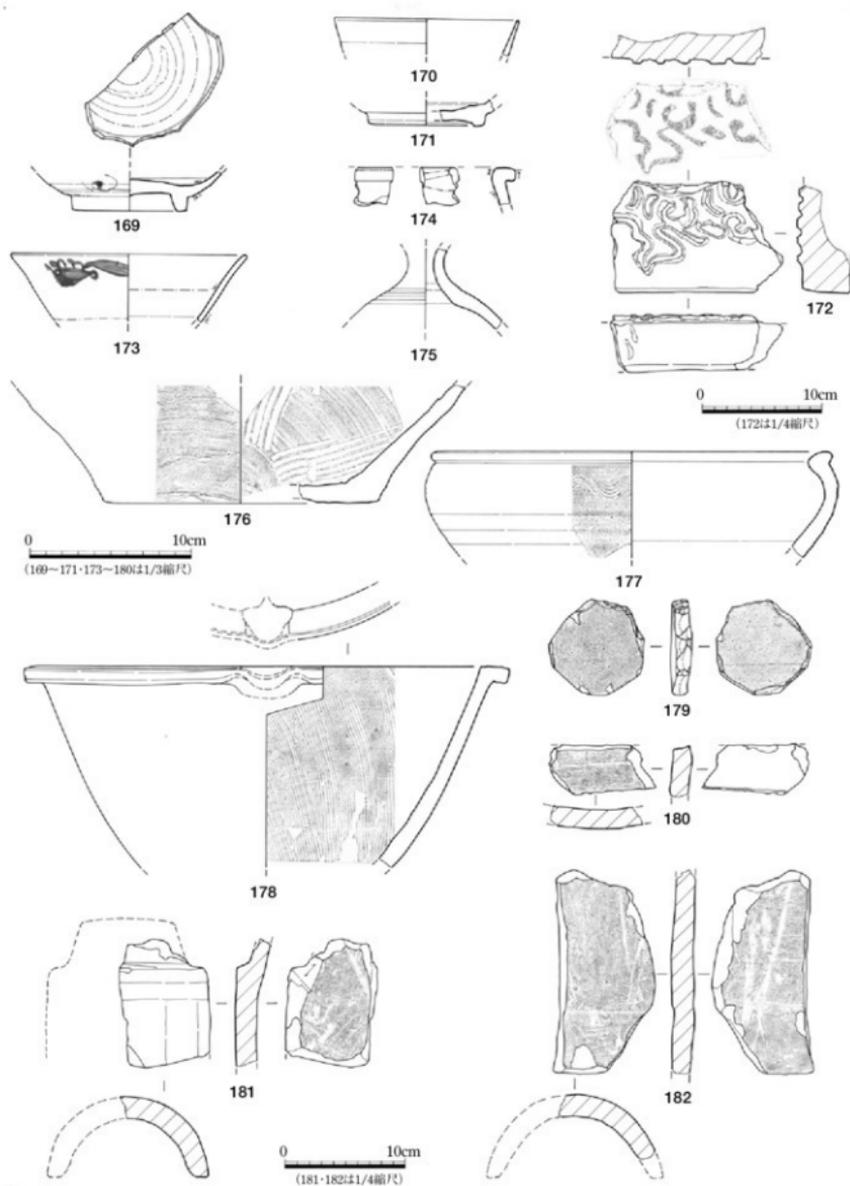
第61图 外郭南侧地区出土遗物(4)

第15表 外郭南側地区出土遺物一覧(4)

単位: cm, g

図番号	種類	器種	分類	部位・残存	口径・長さ	底径・幅	所見	出土地点			
								グリッド・遺構	層序		
第61 図・ 図版 114 、 117	152	本土産 染付	碗		口縁部	—	—	全面に施釉。肥前産か。	トレンチ 2	褐色土	
	153	沖縄産 陶器 (荒焼系)	壺		口縁部	18.4	—	胎土は赤褐色で、白色・半透明粒を少し含む。全面露胎。			
	154	瓦	平瓦	高麗系・ 灰色	破片	—	—	凹面は矢羽状タタキ目→一部ナデ。凸面は布目→一部ナデ。分割面はナデ。胎土は灰色(外側はにぶい黄褐色)で、白色・半透明粒を少し含む。			
	155					—	—	凹面は糸切り痕→砂目。凸面は砂目。胎土は灰色で、白色・橙粒を少し含む。			
	156					—	—	凸面は格子状タタキ目→ナデ。凹面は糸切り痕→布目→端部ナデ。胎土は灰色(外側はにぶい黄褐色)で、白色・赤色・半透明粒を少し含む。			
	157	中国産 白磁	碗		口縁部	12.0	—	全面に施釉。釉に透明感がない。ピンホールが内・外面に少しある。	トレンチ 2	褐色土	
	158				—	8.4	—	畳付は露胎。底部内面は蛇の目軸剥ぎ。外面に貫入が多く、内・外面にピンホールが少しある。			
	159	中国産 染付	碗		底部	—	7.2	—			胎土は淡黄色。高台は雑な露胎。底部内面は蛇の目軸剥ぎ。外面に貫入が多く、ピンホールが少しある。福建・広東系。18世紀。
	160				—	8.4	—	底部外面は露胎。底部内面は蛇の目軸剥ぎ。福建・広東系。18世紀。			
	161	沖縄産 陶器 (上焼系)	袋物			—	—	胎土は黄褐色で、白色・黒色・赤色粒を少し含む。底部内面に工具痕。ロクロは反時計回り。内面・底部外面は露胎。			
	162	沖縄産 陶器 (荒焼系)	壺		口縁部	6.8	—	胎土はにぶい赤褐色(外側は暗青灰色)。			
	163		袋物		—	4.6	—	胎土はにぶい赤褐色(外側は暗青灰色)。			
	164		不明		—	—	—	胎土はにぶい赤褐色で、半透明・赤色粒を少し含む。			
	165	陶質 土器			耳	—	—	胎土は橙色で、白色・半透明・赤色粒を少し含む。			
	166	瓦	軒平瓦	明朝系・ 橙色	破片	—	—	胎土はにぶい橙色で、赤色・橙色・灰色粒を少し含む。			
	167					平瓦	—	—	凹・凸面は糸切り痕→砂目・ナデ。胎土は青灰色で、半透明粒を少し含む。		
	168					丸瓦	大和系・ 灰色	—	—	凸面は矢羽状タタキ目→ナデ。凹面は糸切り痕→布目。端部周辺はナデ。胎土は灰色(外側は黄褐色)で、白色・赤色・橙色粒を少し含む。	

4-2
外郭
地区



第62図 外郭南側地区出土遺物 (5)

第16表 外郭南側地区出土遺物一覧(5)

単位: cm, g

図番号	種類	器種	分類	部位・残存	口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	所見	出土地点		
									グリッド・遺構	層序	
第62図・図版114、117	169	中国産染付	碗	底部	—	7.2	—	底部内面、高台脇～高台内は露胎。底部内面に重ね焼きの跡。ピンホールが外面に多く、内面に少しある。ロクロは時計回り。広東系。18世紀。	トレンチ11	暗褐色土	
	170			口縁部	11.6	—	—	全面施釉。ピンホールが内面に少しある。福建・広東系。			
	171	沖縄産陶器(荒焼系)	不明	底部	—	7.2	—	胎土は黒色(外側は暗赤褐色)で、白色・半透明粒を少し含む。ロクロは反時計回り。			
	172	磚	灰色	破片	—	—	4.5	胎土は灰色で、白色・黒色・赤色粒を少し含む。文様表面・文様間平坦面には、施文道具?の細かな凹凸あり。			
	173	中国産染付	碗		口縁部	14.6	—	—	内・外面の胴部下半は露胎。ピンホールが内面に少しある。広東系。18世紀。	E-2	黒褐色土
	174	中国産褐釉陶器	壺		—	—	—	胎土は灰色(外側は橙色)で、半透明粒を多く含む。内面～口縁上面は露胎。全体に風化している。			
	175		瓶	胴部	—	—	—	胎土はにぶい赤褐色。外面に波状文。			
	176	沖縄産陶器(荒焼系)	播鉢	底部	—	8.5	—	播り目は深く、3本/cm。底部外面は圧痕。胎土はにぶい赤褐色。			
	177		水鉢		24.8	24.4	—	外面に波状文。			
	178		播鉢	口縁部	30.0	—	—	播り目は19本/3.5cm。胎土はにぶい赤褐色で、黒色・半透明粒を少し含む。口縁部平坦面に沈線。			
	179	円盤状製品		完形	5.9	5.9	0.9	沖縄産陶器の胴部を転用。重量は51.650g。			
	180	瓦	平瓦	明朝系・陶器質		—	—	—	凹面は布目、ナデ。凸面はナデ。胎土は鈍い赤褐色で、陶器のように硬く焼き締まる。		
	181		丸瓦	明朝系・灰色	破片	—	—	—	凸面はナデ。凹面は布目。胎土は灰色で、半透明・赤・橙粒を少し含む。		
	182					—	—	—	凸面はナデ。凹面は布目→ナデ→ケズリ。胎土は灰色。		

4-2 外郭南側地区

12 石敷き2 (E・F-7・8グリッド 第63~66図 図版50・51・90・91)

右掖門から東へ延びる石畳道である。道幅は約5.4mで、北側は石積み11、南側は石積み10に接する。東側は階段2に続く。

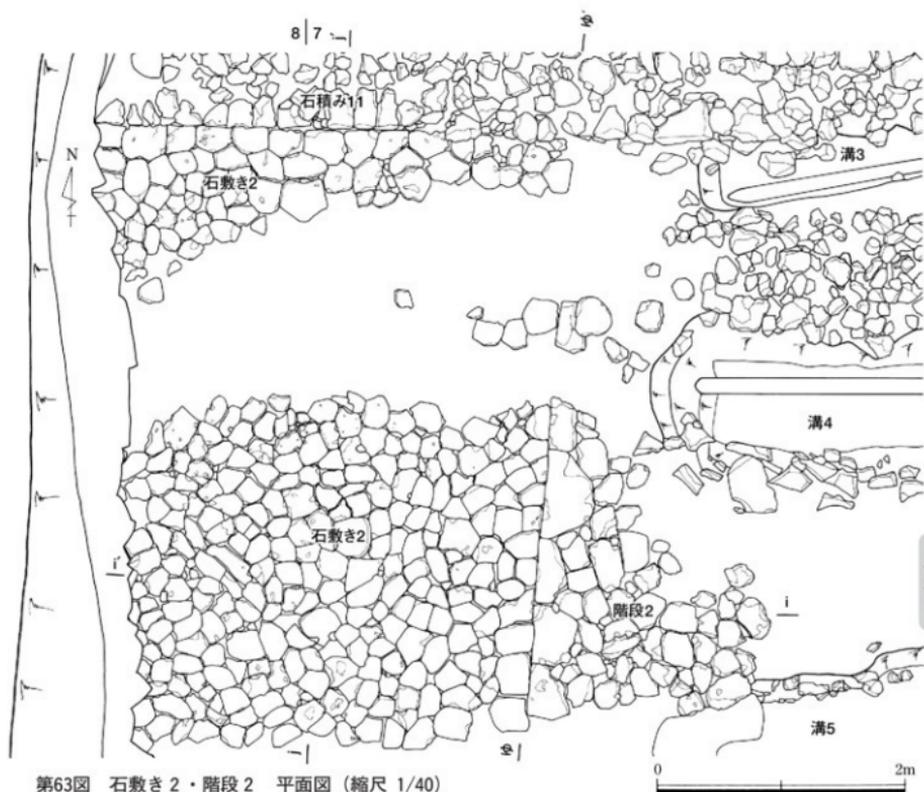
13 階段2 (E・F-7グリッド 第63~66図 図版50・51・90・91)

石敷き2から東へと延びる階段である。最下段の一部が残っているのみである。蹴上げには長方形の切石を使い、約10°の傾斜で東へと上がっていく。第112図によると東に3段上ったところで踊り場となる。踊り場から南には淑順門へと至る階段が6段延びている。

階段2は旧琉球大学時代の工事で大きく破壊されているが、溝5の南壁を観察した結果、階段2の下には若干の暗褐色土を挟んで大量の石灰岩礫からなる造成層があることがわかった。



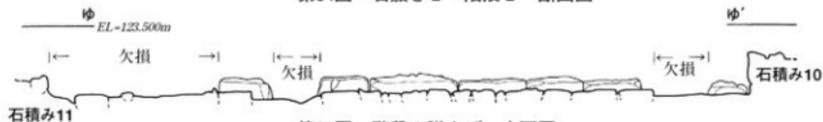
図版50 石敷き2・階段2 (北西から)



第63図 石敷き2・階段2 平面図 (縮尺 1/40)



第64図 石敷き2・階段2 断面図



第65図 階段2 蹴上げ 立面図



第66図 石敷き2 断面図

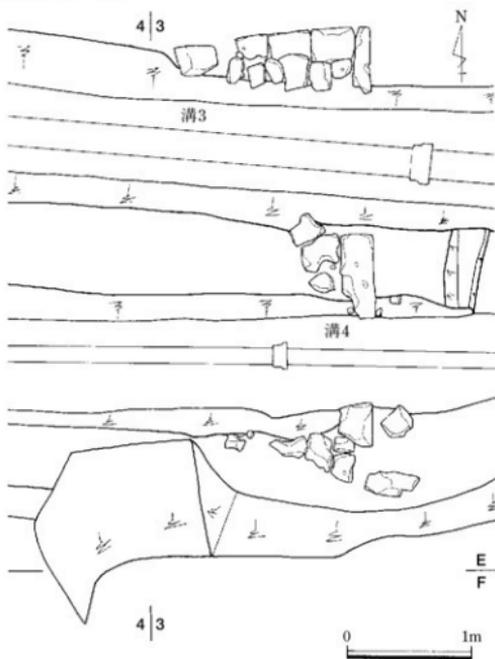


図版51 石敷き 2・階段 2 (北西から)

15 階段 3 (E-3 グリッド 第67図 図版52・92・93)

階段 2 に対応する階段である。最下段の一部が残っているのみである。旧琉球大学の水道管によって破壊された部分の土層断面を見ると(第68・69図)、サンゴ片を含んだ黒褐色土上に造られていることがわかる。また階段 3 の直上・周辺には近代の遺物を含む黒褐色土(「D-2 黒褐色土」)が堆積していた。

階段 3 は戦前の資料である第113・114・116図に描かれているが、第116図では南北の幅が半分ほどになっている。さらに第112図には、階段 3 が描かれていない。このように資料によって描かれ方が違うことは、先述の石積み 19・20 と同様である。階段 3 は規模を縮小しつつ、最後には廃棄されたという歴史的な流れを想定することもでき、先述した黒褐色土は、階段 3 が廃棄された後の地面を構成していた土であった可能性も指摘できる。ただ第112図は、首里城を真上からではなく北西方向から描いた絵図であることから、踊り場から東に向かっていく階段 3 は隠れて見えないという解釈に基づき描かれなかったのかもしれない。資料の製作者や製作方法(測量方法情報の取捨選択、描写方法、製作の際参考とした資料)、製作目的、製作年代等の検討が不十分であるので、可能性を指摘するに留める。



第67図 階段 3 平面図 (縮尺 1/40)



図版52 階段3 (北から)

16 石敷き3 (D-2～5グリッド 第35図 図版53・54・94)

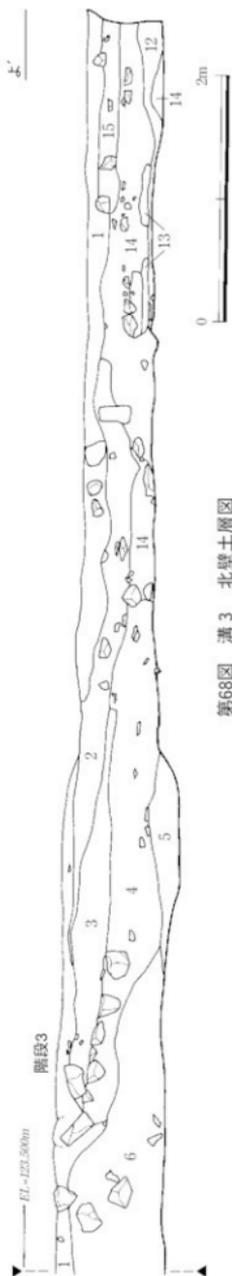
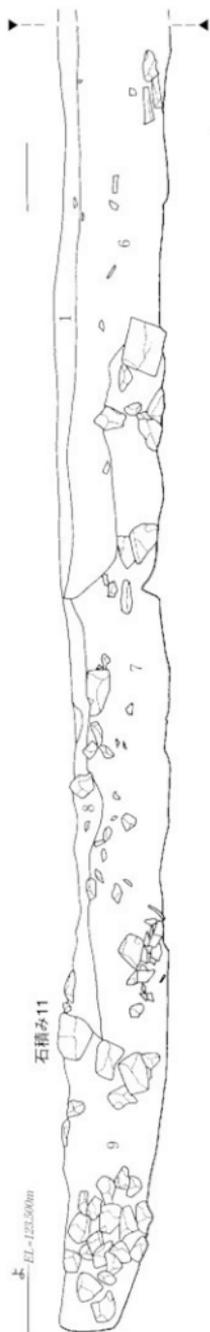
幅約80cmで東西に延びる石敷きであり、所々に南北方向の張り出しがある。首里城当時の遺構である石積み19・20の上を横切って造られていること、また旧琉球大学の図面に記されている建物と場所が一致することから、旧琉球大学建物の基礎工事跡と考えられる。



図版53 石敷き3 (東から)



図版54 石敷き3 (北から)



第68図 溝3 北壁土層図



第69図 溝4 北壁土層図

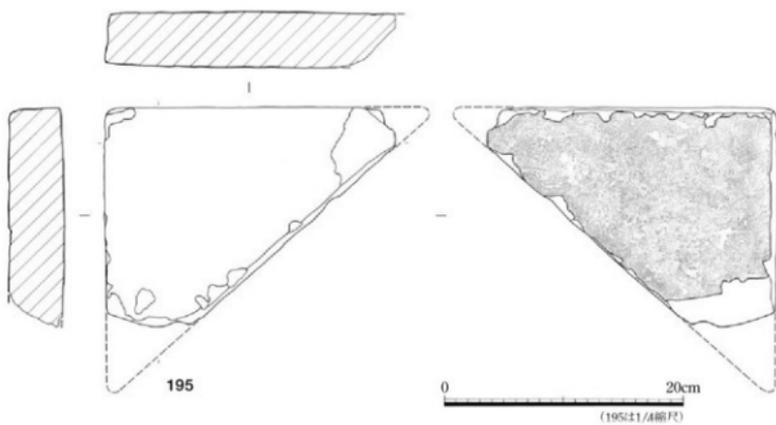
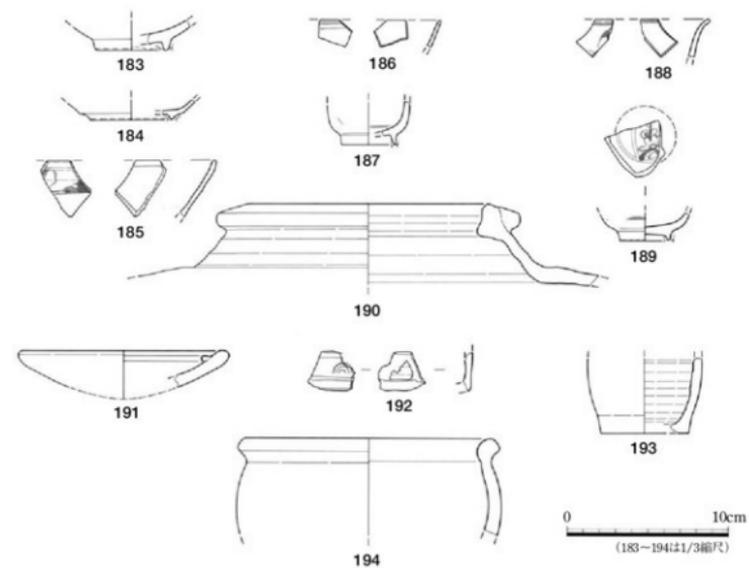
石敷き3の南北には、石造遺構がない地面が広がっている。この地面は首里城当時の人が目にした地面ではなく、戦後の造成工事によって削られた結果出来た地面である。ただし階段3の東側については、少なくとも階段3が機能していた当時の地面がわずかに残っている。第68・69図の4層がそれに該当するが、東側は上部を削られている。第59図の6層も当時の地面であった可能性があるが、同様に上部は削られているようである。

階段3と石敷き3との間には第59図の5層が堆積している。この5層は石積み19・20が壊された上に堆積している造成土であり、第59図の6層の直上にある。このような状況から、5層は石積み19・20を壊した後の地面をなしていた層であると判断した。ただし戦後の工事によって上部を削られ、その時の状態が今回の発掘調査で検出されたようである。

石敷き3とその北側にある溝2に囲まれた部分には、上から「トレンチ2 暗褐色炭泥じり土」、「C-3 黄褐色土」、「溝2 暗褐色土」の順で3つの層が堆積していることがトレンチ2・溝2の壁面観察で確認された。このうち「C-3 黄褐色土」は、20cm前後の石灰岩を大量に含んだ造成層である。特に石積み11付近については石が地表面に露出しており、その上を歩くごとツゴツツして、足をくじきそうになるくらいである。

戦前の絵地図をみると、石敷き3があるところは空き地となっている。ただし第114図については、石積み11に接するようにして長方形の建物が描かれているが、発掘調査ではその痕跡を検出することはできなかった。

図番号	層序	色調	厚さ (cm)	土質・混入物	備考
68 ・ 69	1	黄橙色 10YR 7/8	42	砂質土。	
	2	明黄褐色 7.5 YR	28	砂質土で、鉄筋を含む。	
	3	暗褐色 10YR 8/8	30	砂質土で、礫を含む。	
	4	黒褐色 5YR 1.7/1	44	砂質土で、炭・遺物を含む。	サンゴ片を含む。階段3が機能していた時期の地表面か。分析試料番号8を採取。
	5	褐灰色 10YR 4/1	25	砂質土で、礫を含む。	
	6	明黄褐色 10YR 6/8	75	砂質土で、礫・遺物・炭を含む。	
	7	黄褐色 10YR 5/6	71	砂質土で、礫・炭・遺物を含む。	石積み14の裏込め層。分析試料番号9を採取。
	8	灰色 5YR 6/1	24	粘質土。	
	9	礫層	82		石積み11・13の裏込め層。
	10	赤褐色 2.5YR	18	粘質土で、炭・遺物を含む。	
	11	オリーブ灰色 10Y 4/2	12	粘質土。	
	12	黒褐色 5Y	21	粘質土。	第59図の6層と同一。
	13	明黄褐色 2.5Y	7	砂質土。	
	14	暗褐色土	10		
	15	明赤褐色砂質土	17		



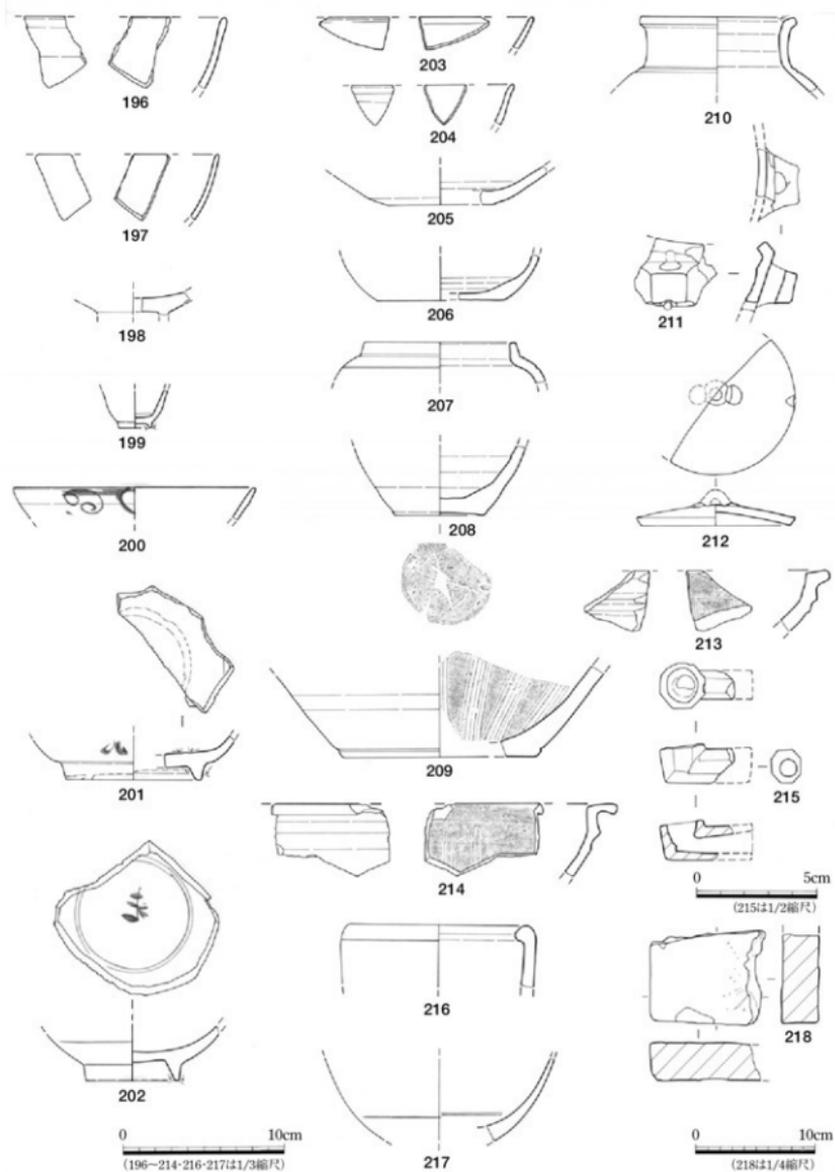
第70図 外郭南側地区出土遺物(6)

第17表 外郭南側地区出土遺物一覧(6)

単位: cm, g

図番号	種類	器種	分類	部位・ 残存	口径・ 長さ	底径・ 幅	器高・ 厚さ	所見	出土地点	
									グリッド・ 遺構	層序
第 70 図 ・ 図 版 116 ・ 117	183	中国産 白磁	碗	底部	—	4.6	—	畳付は露胎。	C-3	黄 褐 色 土
	184		皿		—	5.2	—	畳付は露胎。景徳鎮系か。16~17世紀か。		
	185	中国産 染付	碗	口縁部	—	—	—	全面施軸。ピンホールが外面に少しある。		
	186				—	—	—	全面施軸。ピンホールが外面にわずかにあり、貫入が内・外面に多い。		
	187		小杯	底部	—	7.4	—	畳付は露胎。		
	188		碗	口縁部	—	—	—	全面施軸。		
	189	底部		—	3.2	—	畳付は露胎。貫入が内・外面に多い。16世紀。			
	190	中国産 褐釉陶器	壺	口縁部	17.2	—	—	胎土はにぶい黄橙色で、半透明・赤色粒を少し含む。全面施軸。16世紀前半~17世紀前半。		
	191	タイ産 土器	蓋	—	13.0	—	—	胎土はにぶい黄褐色(外側は橙色)で、半透明・赤色・橙色粒を少し含む。上面はナデ、下面はケズリに近いナデ。		
	192	沖縄産 陶器 (上焼系)	不明	胴部	—	—	—	胎土はやや砂質で灰白色。内面は露胎で、外面に貫入が多い。黒褐色の象嵌→透明軸。		
193	沖縄産 陶器 (荒焼系)	瓶	底部	—	5.6	—	胎土はやや砂質で橙色。また白色・半透明・赤色粒を含む。内面・底部外面は露胎。胴部径は6.4cm。			
194		壺	口縁部	18.0	—	—	胎土はにぶい赤褐色で、半透明粒を少し含む。口縁部内面は露胎で、他の部分は泥釉のようなものがかけられている。胴部径は18.2cm。			
195	埴	橙色	破損	28.0	24.5	4.8	胎土は灰黄色~浅黄色で、半透明・橙色粒を少し含む。上面はナデ、下面は圧痕。			

4-2
外郭
南側



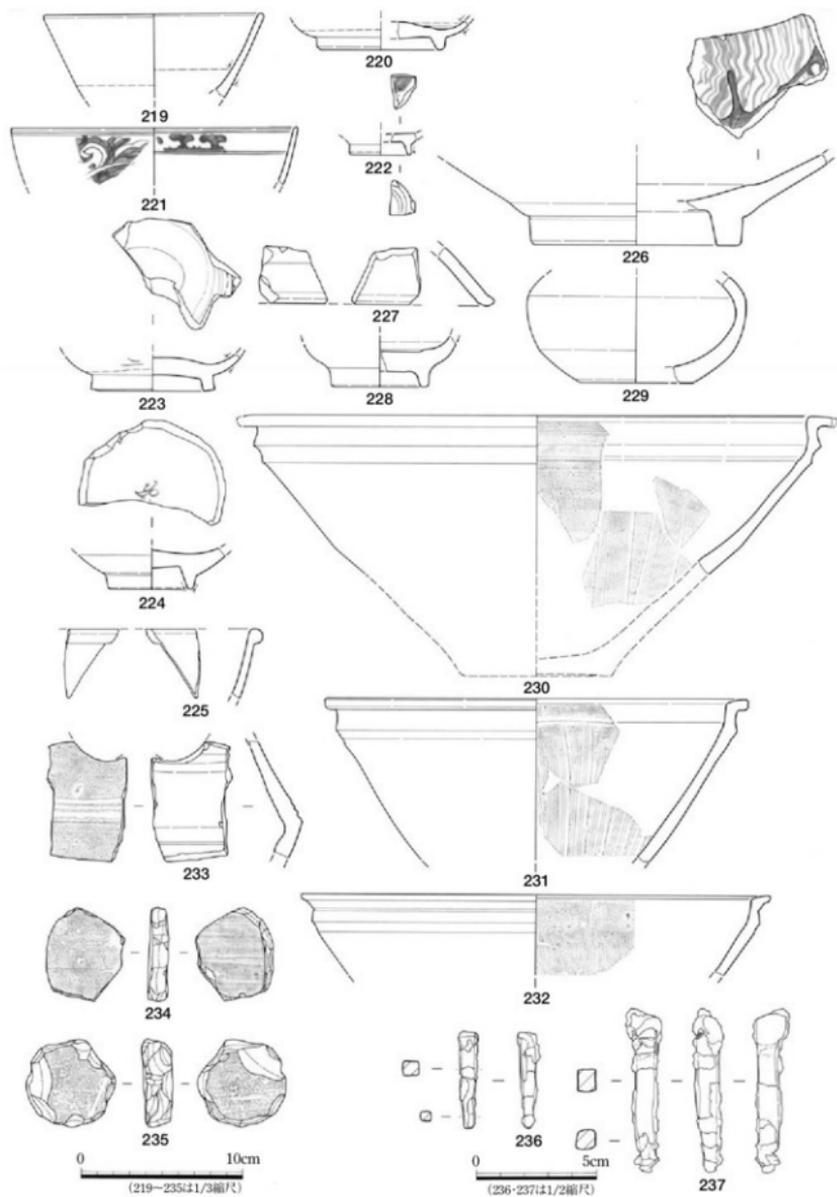
第71図 外郭南側地区出土遺物(7)

第18表 外郭南側地区出土遺物一覧(7)

単位: cm, g

図番号	種類	器種	分類	部位・残存	口径・長さ	底径・幅	所見	出土地点			
								グリッド・遺構	層序		
第71 図・ 図版 118・ 119	196	中国産 白磁	碗	口縁部	—	—	胎土はやや砂質。貫入が内・外面に多い。	溝2	暗褐色土		
	197				—	—	貫入が内・外面に多く、ピンホールが内面にわずかにある。				
	198		碗か	底部	—	4.4	貫入が内・外面に多く、ピンホールが内面にわずかにある。				
	199		小杯		—	—	畳付は露胎。貫入が内・外面に多くある。				
	200	中国産 染付	碗	底部	口縁部	15.0	—	胎土は灰白色。ピンホールが内・外面に少しある。17世紀。			
	201				—	8.6	高台胎・畳付は露胎。内・外面に貫入が多く、ピンホールが少しある。底部内面に重ね焼きの跡。17~18世紀前半か。福建・広東系。				
	202	本土産 染付	碗	底部	—	—	5.8	畳付は露胎。貫入・ピンホールが内・外面に少しある。肥前系。17世紀。			
	203				口縁部	—	—	—	ピンホールが内・外面に少しある。肥前系。17世紀。		
	204	本土産 陶器	壺	底部	—	—	—	胎土はやや砂質で、貫入が内・外面に多い。肥前系。			
	205	—			—	—	—	—	胎土は灰褐色・灰黄褐色・白色の交胎で、半透明・橙色粒を少し含む。		
	206	—			—	—	—	—	胎土は赤褐色で、白色・半透明粒を少し含む。		
	207	—			—	—	—	—	胎土は明赤褐色・にぶい赤褐色で、半透明粒を少し含む。		
	208	沖縄産 陶器 (荒焼系)	搦鉢	底部	—	—	5.6	胎土は暗赤褐色で、白色・半透明粒を少し含む。底部接地面に線刻記号。			
	209				—	—	12.0	胎土は暗赤褐色で、白色・黒色・橙色・半透明粒を少し含む。搦り目は6本/1.3cm。			
	210				壺	口縁部	9.8	—	胎土は暗赤褐色で、白色・橙色・半透明粒を少し含む。口縁部内面~外面には泥軸。		
	211	火炉	耳	—	—	—	—	胎土はにぶい赤褐色で、白色・半透明・橙色粒を少し含む。内面に自然軸。孔径は1.3cm。			
	212							蓋	9.8	—	胎土は赤褐色。
	213							搦鉢	口縁部	—	—
	214	—	—	—	胎土は赤褐色で、白色・半透明・橙色粒を少し含む。搦り目上端はナデ消されていない。						
215	煙管	雁首	—	—	—	胎土は赤褐色で、半透明粒を少し含む。高さ1.655cm。重量6.4739g。陶器製。					
216	沖縄産 陶器 (荒焼系)	火取	口縁部	10.8	—	—	胎土はにぶい赤褐色で、半透明粒を少し含む。				
217	本土産 染付	碗	胴部	—	—	—	ピンホールが内・外面にわずかにある。肥前系。17世紀。				
218	磚	陶器 質	破損	—	—	—	厚さ3.2cm。胎土は赤褐色・灰色で、橙色粒を少し含む。表面が少し熔けてガラス質となっている。				

4-2
外郭
地区南



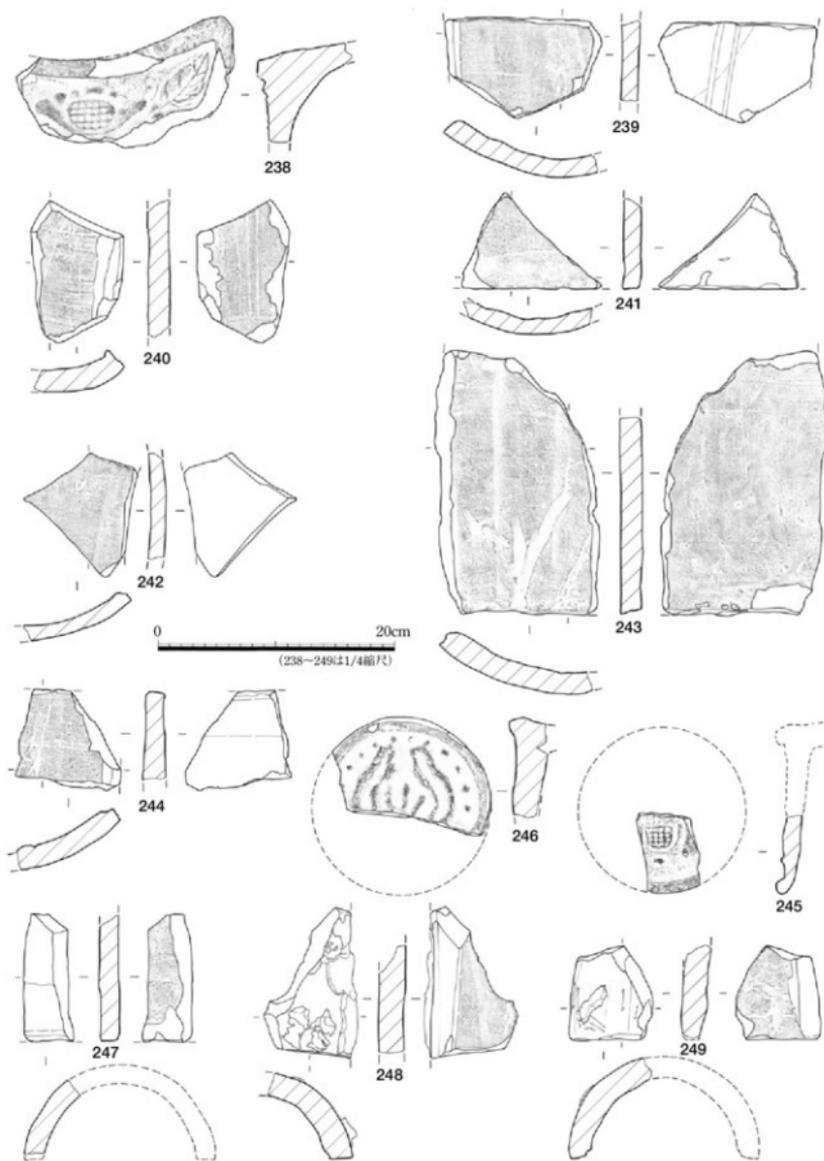
第72图 外郭南側地区出土遺物(8)

第19表 外郭南側地区出土遺物一覧(8)

単位: cm, g

図番号	種類	器種	部位・ 残存	口径・ 長さ	底径・ 幅	器高・ 厚さ	所見	出土地点		
								グリッド・ 遺構	層序	
第72 図・ 図版 120・ 121	219	中国産 白磁	碗	口縁部	15.6	—	—	内・外面の胴部下位は露胎。内・外面に貫入が多く、ピンホールが少しある。福建系。17世紀後半～18世紀。	D-4	暗 褐 色 土
				底部	—	7.2	—	底部内・外面は露胎。重ね焼きの跡。福建系。17世紀後半。	D-3	
	221	中国産 染付	杯	口縁部	17.8	—	—	景德鎮窯系。16世紀。	D-4	
	222	中国産 褐釉染付		碗	—	3.8	—	畳付は露胎。16・17世紀。	D-3	
	223	中国産 染付			—	7.6	—	底部内・外面は露胎。重ね焼きの跡。ピンホールが外面に少し、貫入が内面に少しある。広東系。17世紀後半～18世紀。	D-3	
	224	本土産 染付	—	5.4	—	—	畳付は露胎。ピンホールが内・外面に少しある。肥前系。	D-4		
	225	沖縄産 陶器 (荒焼系)	鉢	口縁部	—	—	—	胎土は明赤褐色で、半透明粒を少し含む。	D-4	
	226	沖縄産 陶器 (上焼系)		底部	—	6.5	—	胎土はにぶい赤褐色で、やや砂質。外面は露胎。	D-4	
	227	沖縄産 陶器 (荒焼系)	蓋か 碗か 壺	底部	—	—	—	胎土は明赤褐色で、半透明・赤色粒を少し含む。外面に泥軸がかけられているように見える。	D-3	
	228				—	3.0	—	胎土は赤褐色で、白色・半透明粒を少し含む。	D-3	
	229				—	3.5	—	胴部径13.6cm。胎土は赤褐色で、橙色・半透明粒を少し含む。	D-3	
	230	沖縄産 陶器 (荒焼系)	搦鉢	口縁部	—	—	—	搦り目は16本/2.1cm。胎土は赤褐色で、橙色・半透明粒を少し含む。17世紀後半～18世紀。	D-4	
	231				—	—	—	搦り目は10本/1.3cm。胎土は赤褐色である。搦り目上端はナデ消されていない。17世紀後半～18世紀。	D-4	
	232				29.0	—	—	搦り目は10本/1.2cm。胎土は赤褐色で白半透明粒を少し含む。搦り目上端はナデ消されていない。17世紀後半～18世紀。	D-4	
	233	金属 製品	釘	破損	—	—	—	外面に線刻文様。	D-3	
234	円盤状 製品	—	完形	5.819	4.853	1.0	重量39.3735g。沖縄産陶器(荒焼系)の胴部を転用。	D-4		
235				5.404	5.348	1.8	重量50.7840g。平瓦(明朝系)を転用。			
236	金属 製品	釘	破損	4.016	0.885	—	重量6.4396g。鉄製。	D-4		
237	金属 製品	釘	破損	6.591	1.479	—	重量20.0152g。鉄製。	D-4		

4-2
外郭
区南



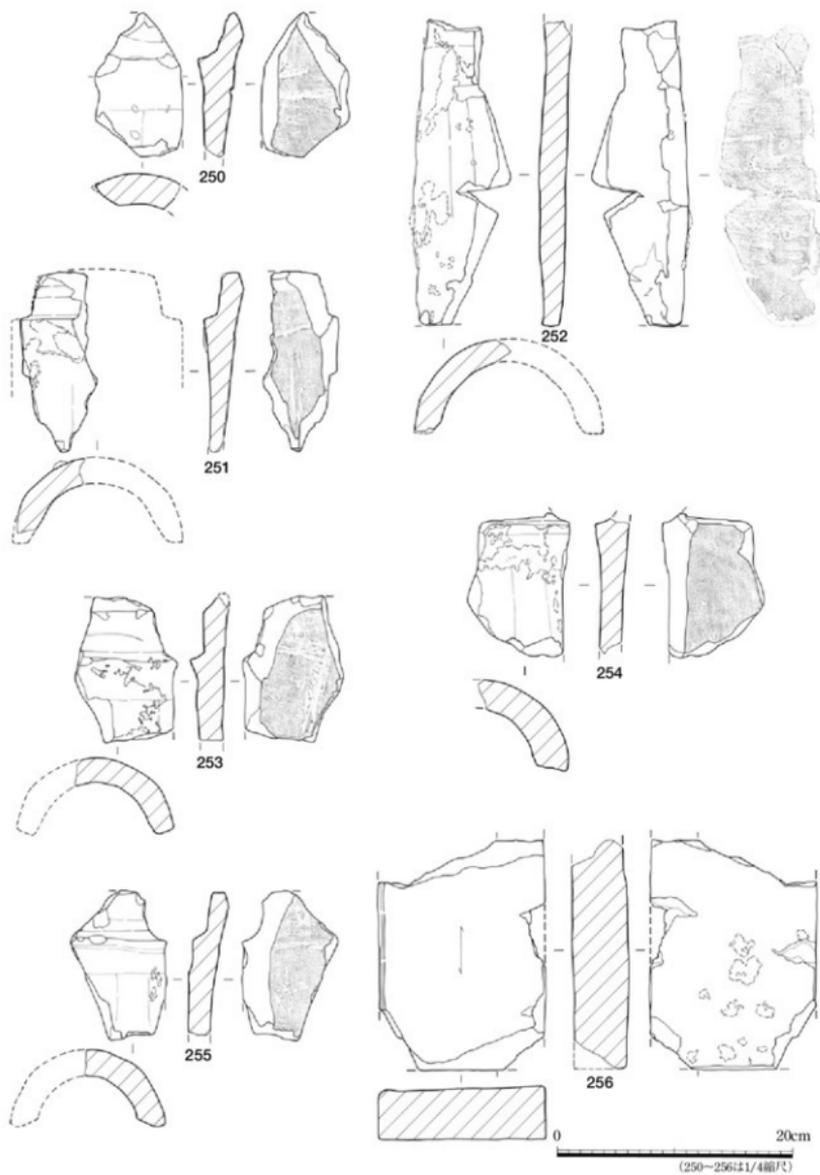
第73図 外郭南側地区出土遺物(9)

第20表 外郭南側地区出土遺物一覧(9)

単位: cm, g

図番号	種類	器種	分類	部位・残存	所見	出土地点	
						グリッド・遺構	層序
第73図・図版122・123	瓦	軒平瓦	明朝系・灰色	破片	凹面は布目→ナデ。凸面はナデ。胎土はにぶい黄橙色で、赤色・橙色・灰色粒を少し含む。	D-3	暗褐色土
					凹面は布目、凸面はナデ。分割面は無調整。胎土は灰色で、黒色粒を少し含む。		
					凹面は布目→ナデ。凸面はナデ。分割面は半分が工具ナデ。胎土は灰色で、白色粒を少し含む。		
					凹面は布目。凸面はナデ。広端はナデ。胎土は灰色(外側は橙色)で、半透明・橙色粒を少し含む。		
		平瓦	明朝系・陶器質		凹面は布目。凸面はナデ。分割面は無調整。胎土はにぶい赤褐色(外側は暗灰色)で、半透明粒を少し含む。特に分割面部分は、胎土中の鉱物分が焙けだしたためか、釉を厚くかけたようになっている。	D-4	
					凹面は布目→一部ナデ。凸面はナデ。広端はナデ。分割面は無調整。胎土は灰色で、白色・橙色粒を少し含む。		
					凹面は布目。凸面はナデ。広端はナデ(一部圧痕)。胎土は黒色・にぶい赤褐色で、灰色粒を少し含む。		
					胎土は灰黄色で、橙色粒を少し含む。		
		軒平瓦	明朝系・灰色		胎土は灰色で、黒色粒を少し含む。破損部からは、瓦当部との接合面が観察できる。	D-4	
					胎土は灰色で、黒色粒を少し含む。凸面に漆喰が付着。		
		丸瓦	灰色		胎土は灰黄色で、橙色・雲母粒を少し含む。凹面は布目→工具ナデ。凸面は布目。	D-3	
					凹面は布目。凸面はナデ。分割面は工具ナデ。胎土は灰色で、橙色粒を少し含む。凸面に漆喰が付着。		
凹面は布目。凸面はナデ。端部は無調整。胎土は灰色で、黒色粒を少し含む。凸面に漆喰が付着。							

4-2
外郭
区南



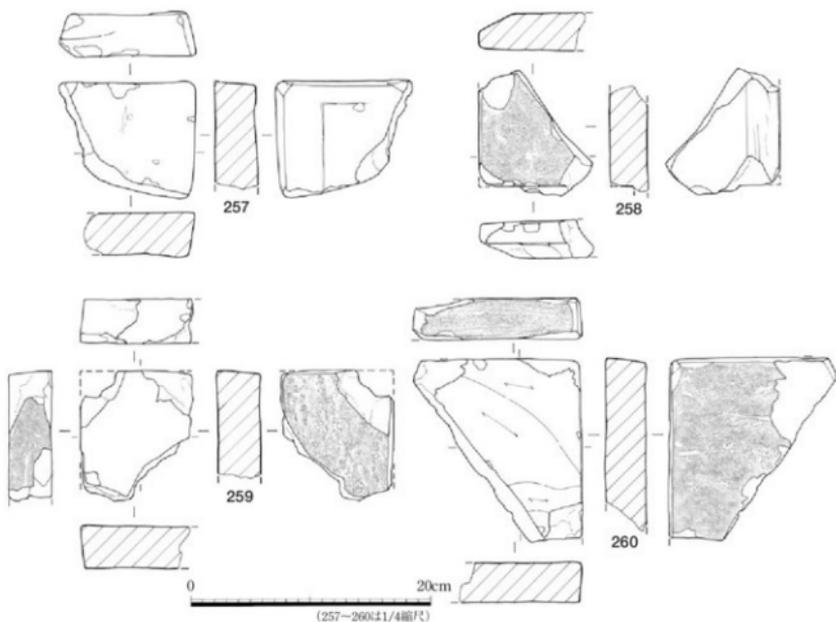
第74图 外郭南侧地区出土遗物 (10)

第21表 外郭南側地区出土遺物一覧 (10)

単位: cm, g

図番号	種類	器種	分類	部位・残存	所見	出土地点		
						グリッド・遺構	層序	
第74図・図版122\125	250	瓦	丸瓦	破片	凹面は布目→ナデ。凸面はナデ。胎土は黄灰色(外側はにぶい橙色)で、赤色・橙色・雲母粒を少し含む。	D-3	暗褐色土	
	251				凹面は布目・工具ナデ。凸面はナデ。胎土は灰色で、黒色粒を少し含む。凸面に漆喰が附着している。			
	252				明朝系・灰色	凹面は布目→工具ナデ。凸面はナデ。端部は圧痕。分割面は無調整。胎土は灰色で、黒色粒を少し含む。		D-4
	253					凹面は布目→工具ナデ。凸面はナデ。端部は圧痕。分割面は無調整。胎土は灰色で、黒色・赤色・橙色粒を少し含む。玉縁部に線刻の傷らしきものがある。凸面に漆喰が附着。		
	254					凹面は布目。凸面はナデ。胎土は灰色で、灰色・橙色粒を少し含む。		
	255				明朝系・橙色	凹面は布目・ナデ。凸面はナデ。胎土は灰色(外側はにぶい橙色)で、半透明粒を少し含む。		D-4
	256	磚	灰色	上面・側面・下面ともナデ。下面には圧痕が少しある。胎土は灰色・にぶい赤褐色で、黒色粒を少し含む。厚さ4.5cm。				

4-2
外郭
区南

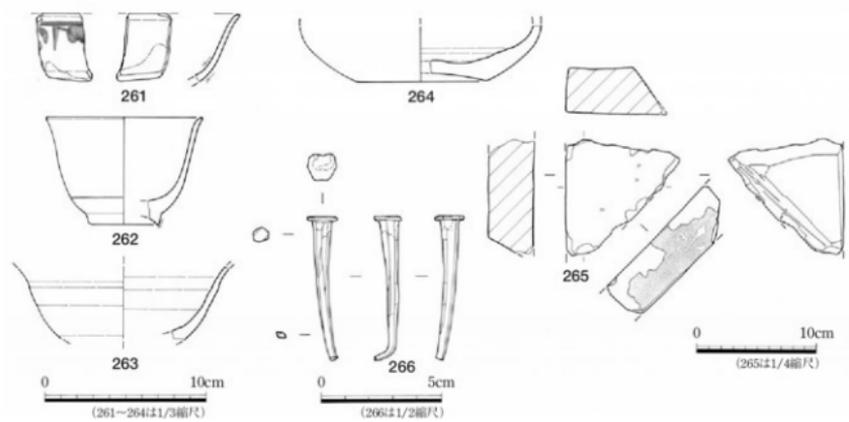


第75図 外郭南側地区出土遺物 (11)

第22表 外郭南側地区出土遺物一覧 (11)

単位: cm, g

図番号	種類	器種	分類	部位・残存	厚さ	所見	出土地点	
							グリッド・遺構	層序
第75図・図版124・125	257	埴	灰色	破片	3.8	上面・側面はナア。下面是ナア・圧痕(矩形の圧痕あり)。胎土は灰色で、赤色・橙色粒を少し含む。	D-4	暗褐色土
	258				3.2	全面ナア。胎土は灰色で、半透明・赤色粒を少し含む。		
	259				3.7	上面・側面はナア。下面是圧痕。側面に線刻の傷らしきものがある。胎土は灰色(中心にはふい赤褐色)で、黒色・灰色粒を少し含む。	D-3	
	260				3.5	上面・側面はナア。下面是ナア・圧痕。胎土は灰色で、白色・橙色粒を少し含む。	D-4	



第76図 外郭南側地区出土遺物 (12)

第23表 外郭南側地区出土遺物一覧 (12)

単位：cm、g

図番号	種類	器種	分類	部位・残存	口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	所見	出土地点	
									グリッド・遺構	層序
第76 図・ 図版 124・ 125	261	中国産 染付	碗	口縁部	—	—	—	内・外面の胴部下半は露胎。外面にピンホールが少しある。17世紀後半。	D-2	黒褐色土
	262	中国産 白磁	小碗	口～底部	9.6	6.4	6.7	全面に施釉。全体が風化している。徳化窯系。18～19世紀か。		
	263	沖縄産 陶器 (荒焼系)	碗	胴部	—	—	—	胎土は赤褐色で、白色・赤色・橙色粒を少し含む。		
	264		壺	底部	—	8.0	—	胎土は赤褐色（外側は暗褐色）である。底部外面は圧痕。		
	265	埴	灰色		—	—	3.9	胎土は灰色で、スサ痕がある。上・側面はナデ、下面は圧痕。		
	266	金属製品	釘		6.095	1.250	—	表面を削って面取り。頭は六角形。青銅製。重量10.990g。		

第3節 外郭北側地区の遺構と遺物

右掖門から北東に延びる城壁と、外郭城壁とに囲まれた部分である。南北方向に2本の土層観察用の畦を残しつつ、旧地表面を検出する目的で掘り下げを行った。

その結果、トレンチ14の4層黒褐色土が沖繩戦以前の地面に相当する層と考えられたが、上面は削平されているようである。4層直下の黄褐色粘質土は固くしまり、瓦・漆喰などを含んでいる。造成土と考えられるが、やはり上面は削平されている。トレンチ13ではこの黄褐色土は確認できなかった。

トレンチ13・14では確認できなかったが、トレンチ14の東側では黄褐色土の直下に旧粉末状の炭を多く含んだ黒色土を確認した（第45図）。



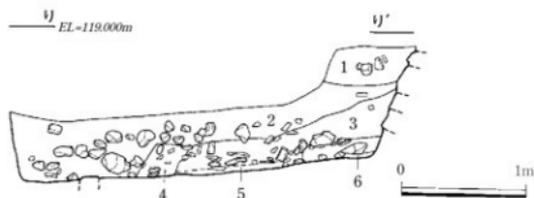
図版55 外郭地区（北から）



図版56 トレンチ14（北西から）

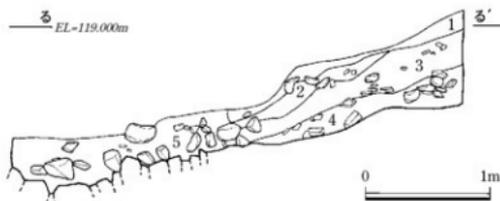


図版57 トレンチ14（西から）



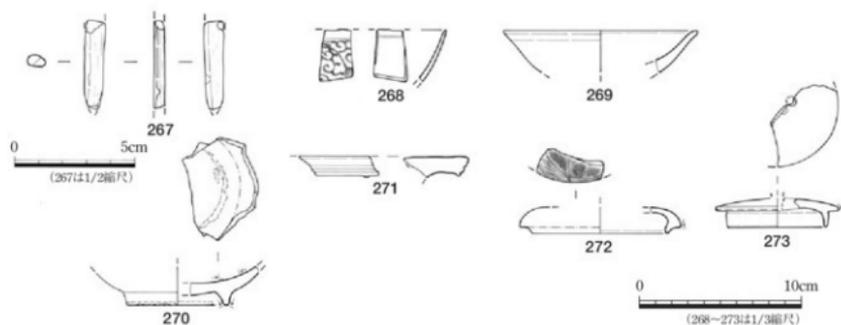
第77図 トレンチ14 東壁土層図

図番号	層序	色調	厚さ (cm)	土質・混入物	備考
77	1	褐色 Hue 10YR 4/4	33	砂質土で、遺物を含む。	
	2	灰黄褐色 Hue 10YR 4/2	57	粘質土で、礫・遺物・炭を含む。	
	3	黄褐色 Hue 10YR 5/6	30	粘質土で固くしまる。礫・瓦・漆喰・クチャを含む。	分析試料番号1を採取。
	4	黒褐色 Hue 10YR 3/1	28	粘質土で、礫・遺物・炭・ガラスを含む。	第78図2層と同一。沖縄戦以前の地表面か。
	5	暗褐色	18	砂質土でしまりは弱い。礫を多く含む。	第78図4層と同一か。分析試料3を採取。
	6	黒褐色土	4	しまりは弱い。	



第78図 トレンチ13 東壁土層図

図番号	層序	色調	厚さ (cm)	土質・混入物	備考
78	1	褐灰色 Hue 10YR 4/1	15	砂質土。	
	2	黒褐色土 Hue 5YR 2/1	15	炭・ガラス・沖縄産陶器・本土産磁器など遺物を多く含む。	第77図4層と同一。沖縄戦以前の地表面か。「トレンチ13 黒褐色土」で遺物を取り上げる。第79図 図版124・125。
	3	暗褐色 Hue 10YR	35	砂質土で、遺物・炭を含む。	「トレンチ13 褐色土」で遺物を取り上げる。第79図、図版124・125。
	4	暗褐色 Hue 10YR	30	砂質土で、瓦・礫を多く含む。	第77図5層と同一か。
	5	灰褐色 Hue 7.5YR 4/2	45	砂質土で、礫を多く含む。	



第79図 外郭北側地区出土遺物

第24表 外郭北側地区出土遺物一覧

単位：cm、g

図番号	種類	器種	分類	部位・残存	口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	所見	出土地点	
									グリッド・遺構	層序
第79図・図版124・125	267	骨製品	不明	破片	3.654	0.803	0.466	重量は1.448g。	トレンチ13	褐色土
	268	中国産染付	碗		-	-	-	16~17世紀。		黒褐色土
	269	沖縄産陶器(上焼系)	皿	口縁部	12.0	-	-	胎土は浅黄色。ピンホールが外面に少し、貫入が内・外面に多い。18世紀後半~19世紀。		
	270	沖縄産陶器(上焼系)	碗	底部	-	6.2	-	胎土はにぶい褐色。畳付にアルミナ。底部内面は蛇の目軸剥ぎ。重ね焼きの跡。18世紀後半~19世紀。		
	271	沖縄産陶器(荒焼系)	甕	口縁部	-	-	-	胎土は明赤褐色で、黒色粒を少し含む。		
	272	沖縄産陶器(上焼系)	蓋	白化粧	10.0	-	-	胎土はにぶい黄色。内面は白化粧土。外面は白化粧土・呉須・褐色軸→透明軸。貫入が外面に少しある。外面に線刻文様。18世紀後半~19世紀。		
	273	沖縄産陶器(上焼系)	蓋	褐色軸	7.6	-	-	胎土は浅黄色。ピンホールが外面に少しある。内面は露胎。		

第4節 攪乱層等の出土遺物

ここでは沖繩戦以後の客土や表採資料の中から、残りの良い遺物や特徴的な遺物をピックアップして報告する。

<陶磁器>

312・314は沖繩産陶器の小碗で、破片資料であるが外面には「沖繩神社」と書かれているようである。沖繩神社は沖繩県の県社として、首里城内に建てられた神社である。1924年、首里城正殿を拝殿にして創立されたが、沖繩戦によって消滅した。

315は陶器の碗で、外面には朱色で三つ巴文が描かれている。沖繩産と考えられるが、胎土は白くきめ細かい。

<瓦>

323はやや形がゆがんだ平瓦である。土圧でゆがむ可能性もあるが、323は陶器のように固く焼き締まっており、土圧でゆがむ可能性は低い。おそらく焼成時もしくは焼成後に火災等に見舞われたときの焼ひずみと考えられる。瓦の表面は熔けてガラス質になっており、その焼成温度が高かったことが伺える。このように高温のため焼ひずんだ瓦の例は首里城跡書院・鎮之間地区においても確認されている。

324は平瓦に似ているが、端部が短く屈曲しているという特徴がある。通常の平瓦とは違う使用方法が考えられる。

325は平瓦であるが、凹面狭端側に泥軸がかけられ、それと同じ泥軸で凸面に文字らしきものを書いている。

327・328は丸瓦であるが、玉縁部に線刻がある。

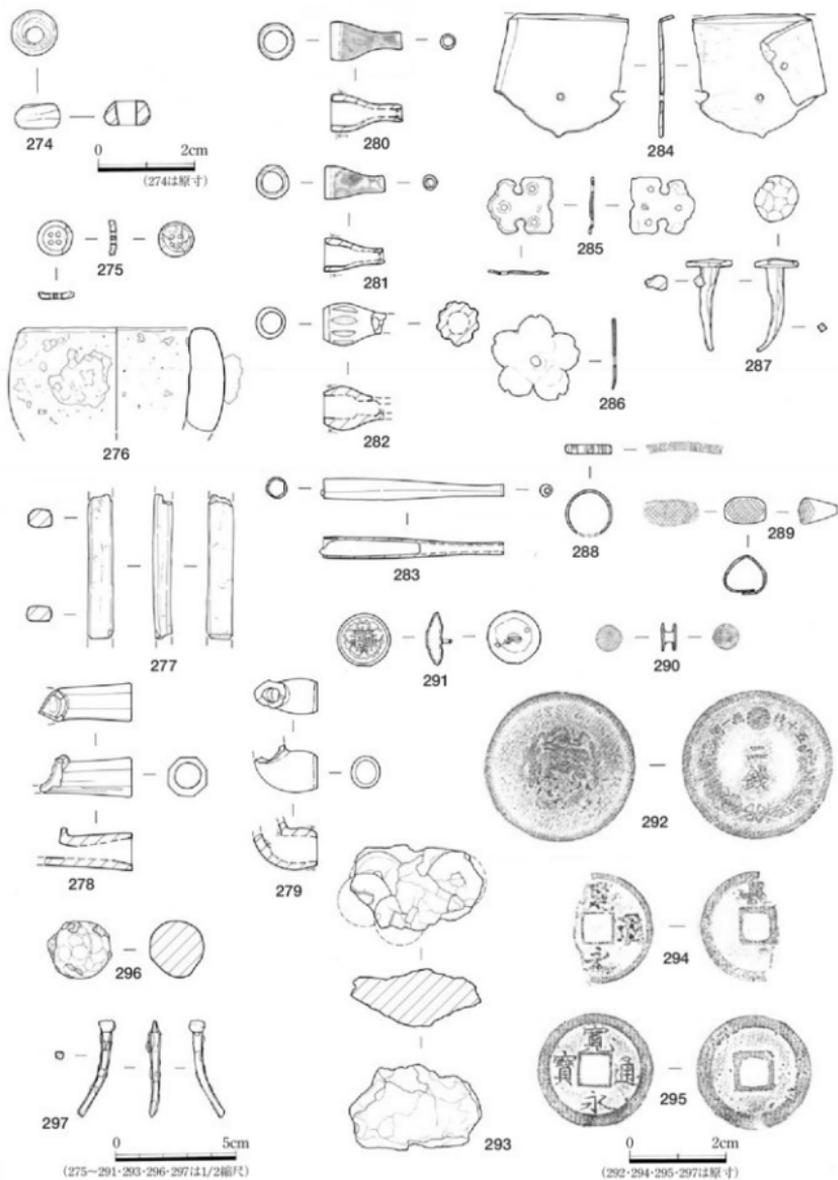
<その他>

276は埴埴と考えられる。断面を観察すると黒色でスポンジのように多孔質であり、表面には黒色ガラス質の付着物がある。

288は三つ巴文がある指輪である。

291は制服のボタンである。表面に「師」の文字がある。戦前に首里城内外にあった沖繩県立師範学校、同付属小学校のものであろうか。

293は銭貨が数枚付着したものである。青銅器製作の材料として利用しかけた結果なのか、偶然の産物なのかは判然としない。



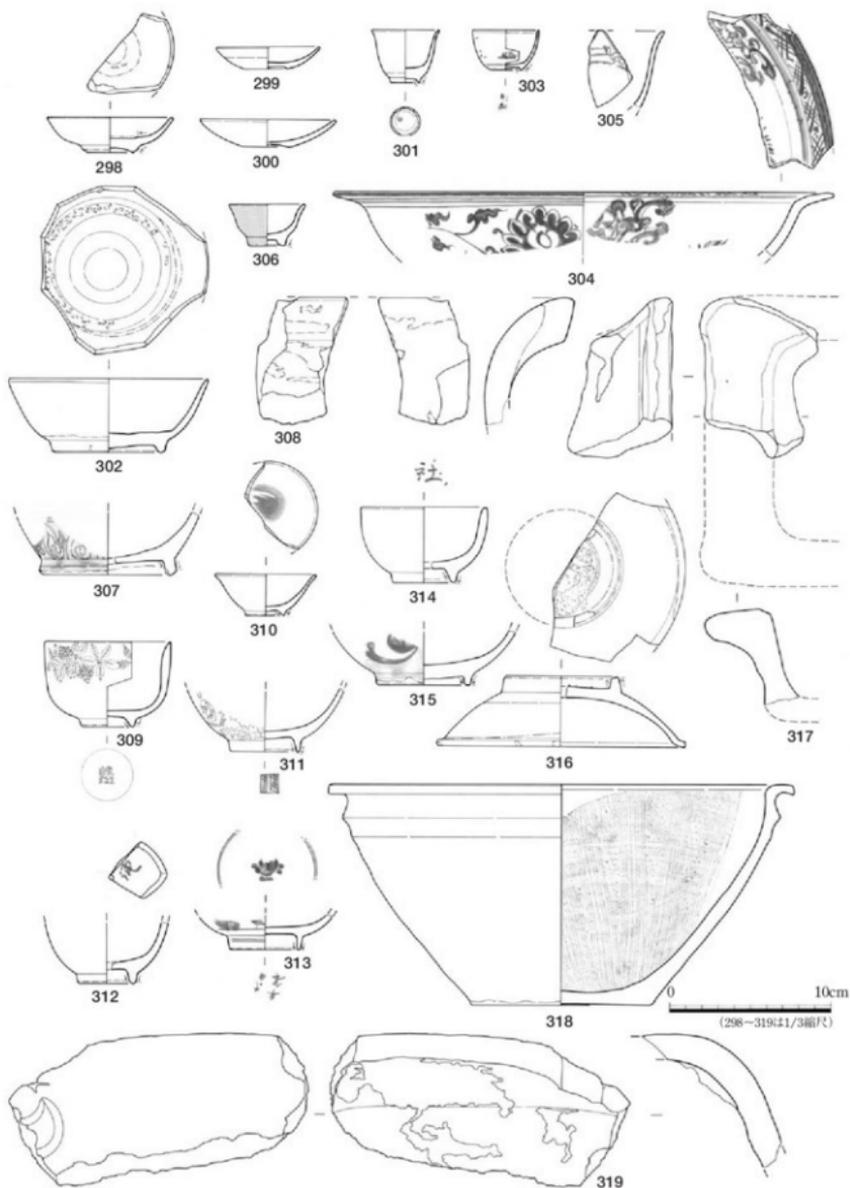
第80図 攪乱層等の出土遺物 (1)

第25表 攪乱層等出土遺物一覧(1)

単位: cm, g

図番号	種類	器種	部位・残存	口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	重量	所見	出土地点		
第80 国・ 図版 126・ 127	274	ガラス製品	玉	完形	0.939	0.949	0.531	0.561	表面には横方向に走る筋がある。孔内には白い付着物。	客 土	
	275	骨製品	ボタン	破損	1.476	1.471	0.310	0.698	孔径1.73mm。		
	276	土製品	埴塀か		9.0	9.8		25.858	断面は黒色で、スポンジのように多孔質。表面に黒色ガラス質の付着物。		
	277	骨製品	不明		5.979	1.108	0.812	6.822			
	278	煙管	雁首		3.384	1.651	—	8.991	無軸陶器製。断面は八角形。		
	279			2.614	—	—	4.913	小口最大外径1.710cm、小口最大内径0.970cm。内面～小口外面は露胎。胴部は断面楕円形。磁器製。			
	280	煙管	吸い口	完形	2.951	—	—	4.007	小口外径1.669cm、小口内径0.998cm。先端外径0.725cm、先端内径0.417cm。内面～小口外面は露胎。緑軸陶器製。		
	281				2.527	—	—	2.693	小口外径1.361cm、小口内径0.872cm。先端外径0.615cm、先端内径0.294cm。小口内面に段がある。内面～小口外面は露胎。緑軸陶器製。		
	282			破損	2.655	—	—	5.764	小口外径1.328cm、小口内径0.952cm。胴部外径1.819cm。内面に段がある。内面～小口外面は露胎。白磁製。		
	283			完形	7.452	—	—	8.898	小口外径0.861cm、小口内径0.734cm。先端外径0.551cm、先端内径0.241cm。小口・先端ともに内面に金属らしきものが詰まっている。		
	284			破損	—	—	—	31.185	孔径0.263cm。裏面には幅1mmほどの溝状の傷が横方向に走っている。		
	285	金属製品	完形	—	—	—	2.730	鋸の痕跡あり。			
	286			—	—	—	3.632	孔径0.446cm。			
	287			釘	—	—	—	10.684			
	288			指輪	破片	—	—	—	1.042		三つ巴文と沈線(8本1組)が交互に並ぶ。
	289			指貫	—	—	—	2.601	最大径1.759cm。幅1.115cm。		
	290			不明	1.117	—	0.667	2.289	軸直径0.415cm。表面に溝状の浅い傷。		
	291	ボタン	完形	2.156	—	1.056	2.608	ボタンを留めていた糸が一部に残る。花びらの中央に「師」の文字。			
	292	有文銭	—	3.175	—	2.210	13.207	表に「二銭」「五十枚換一圓」。裏に「大日本……2」			
293	銭貨	破片	不明	5.511	3.653	2.606	83.012	銭貨が5枚以上と、金属・砂粒がくっついている。			
294			有文銭	2.325	—	—	1.197	「寛永通寶」1697～1747・1767～1781年初鋳。孔5.65mm。			
295			有文銭	2.408	—	—	2.637	「寛永通寶」1697～1747・1767～1781年初鋳。孔6.07mm。			
296	金属製品	球状	完形	2.552	2.734	2.315	57.231	完全な球形ではなく、凹凸がある。	黒 褐色 土		
297			釘	4.004	0.688	0.609	1.995				

4-4
の
攪
乱
層
等

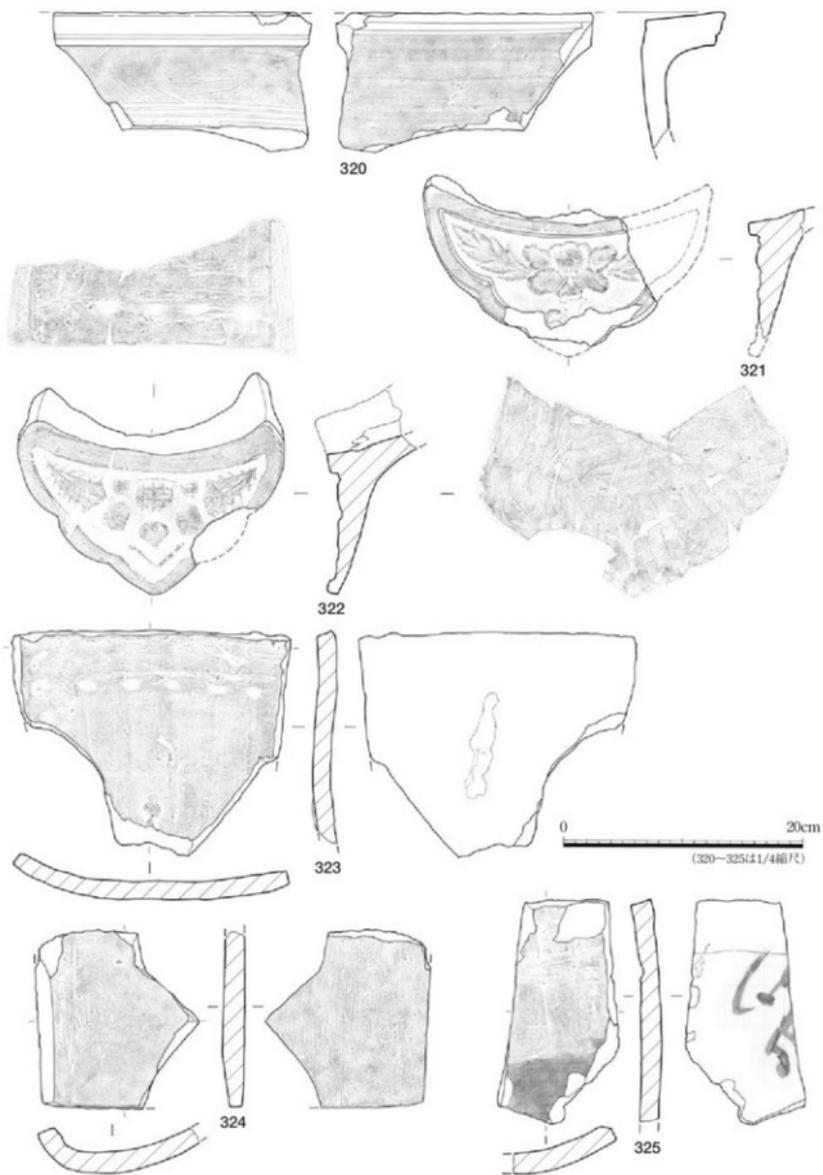


第81図 攪乱層等の出土遺物（2）

第26表 攪乱層等出土遺物一覧(2)

単位: cm, g

図番号	種類	器種	部位・ 残存	口径・ 長さ	底径・ 幅	器高・ 厚さ	所見	出土 地点	
第 81 図 ・ 図 版 128 ・ 129	298	中国産 白磁	皿	口～ 底部	9.8	3.7	2.2	畳付～高台内は露胎。底部内面は蛇の目割ぎで、重ね焼の跡がある。景徳鎮窯系。16～17世紀前半。	客土
	299				6.4	2.4	1.4	胎土は灰白色。碁筒底。無軸。ロクロは時計回り。外面はケズリ。明代。	
	300				8.4	2.8	1.7	胎土は灰白色。碁筒底。無軸。外面はケズリ。明代。	
	301				小杯	4.2	1.8	3.3	
	302	中国産 染付	皿	口縁部	12.2	7.0	4.6	底部内面と、高台脇～高台内は露胎。重ね焼の跡。ピンホールが内・外面に少しある。福建・広東系。17～18世紀。	
	303				小杯	4.2	1.8	2.4	
	304		皿		31.0	—	—	全面に施軸。ピンホールが内面に少しあり、貫入が内・外面に多くある。口唇部は口紅。15世紀。	
	305		碗		—	—	—	全面に施軸。風化が進む。徳化窯系。18世紀か。	
	306	中国産 瑠璃釉	小杯	口～ 底部	4.2	2.2	2.6	畳付～高台内は露胎。	
	307	中国産 三彩	瓶か	底部	—	4.4	—	内面・畳付は露胎。胎土は灰色。胴部外面に緑釉、底部外面には黄釉。貫入が外面に多い。	
	308	タイ産 褐釉 陶器	壺か	口縁部	—	—	—	胎土は赤灰色からにぶい橙色で、白色・黒色・半透明・赤色粒を少し含む。全面施軸。	
	309	本土産 色絵	小碗	口～ 底部	7.6	3.2	5.4	畳付は露胎。上絵は全て剥落している。底部外面に「岐522」のスタンプ。美濃系。近現代。	
	310	本土産 染付			6.2	2.4	2.6	畳付は露胎。底部内面に吹き墨による文様。近現代。	
	311	本土産 瑠璃釉	袋物	底部	—	4.2	—	畳付は露胎。底部外面に銘。外面に蜻蛉草文を線彫り。19世紀。	
	312	沖縄産 陶器 (上焼系)	小碗		—	3.6	—	胎土は黒褐色。畳付は露胎。内・外面に白化粧を施し、貫入が多い。内面に「…繩…」の文字。20世紀前半か。	
	313	本土産 染付	碗		—	3.6	—	畳付は露胎。内・外面にピンホールが少し、貫入が多くある。底部外面に「大明年製」。肥前系。17世紀。	
	314	沖縄産 陶器 (上焼系)	小碗	口～ 底部	7.2	4.0	4.7	畳付は露胎。内・外面に白化粧。貫入が内・外面に多い。内面に「…社…」の文字。20世紀前半か。	
	315		碗	底部	—	5.8	—	畳付は露胎。胎土は白色。透明軸の上から三つ巴文を描く。	
	316		蓋	15.4	7.1	4.4	胎土は灰黄色。内面・口唇部・畳付は露胎。高台内に貫入が多く、砂が付着。		
	317	陶質土器	火炉	口縁部	—	—	—		
318	沖縄産 陶器 (荒焼系)	搦鉢	口～ 底部	28.8	11.0	13.7	胎土は赤褐色で、白色・半透明粒を少し含む。12本/1.7cmの掃り目。掃り目上端はナデ消し。		
319	本土産 陶器	不明	—	—	—	—	内面に漆喰が付着。		

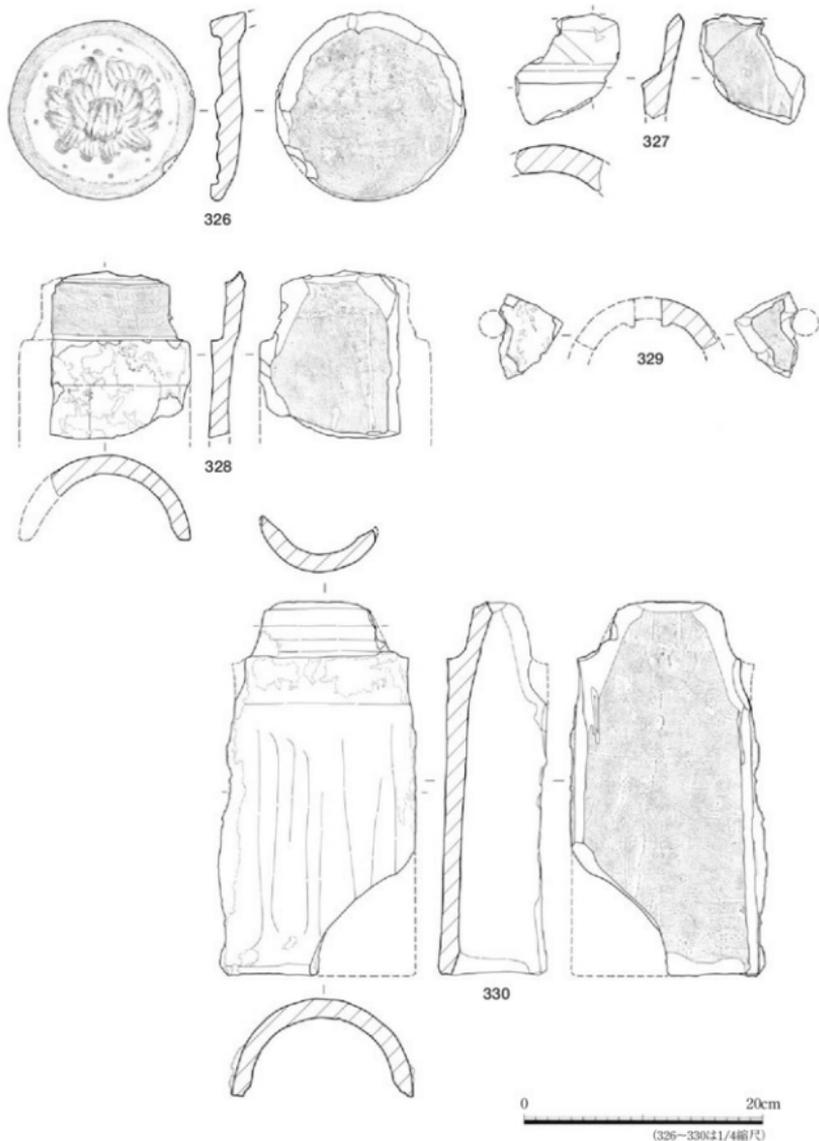


第82図 縄乱層等の出土遺物（3）

第27表 攪乱層等出土遺物一覧(3)

単位: cm, g

図番号	種類	器種	分類	部位・ 残存	口径・ 長さ	底径・ 幅	所見	出土 地点	
第 82 図 ・ 図 版 130 ・ 131	320	沖縄産 陶器 (荒焼系)	甕		口縁部	72.0	胎土は明赤褐色で、白色・半透明粒を少し含む。口縁部・胴部に沈線。	客土	
	321	瓦	軒平瓦	明朝系 ・灰色		—	胎土はにぶい黄橙色。		
	322			明朝系 ・橙色		—	瓦当高さ14.5cm、瓦当幅22.0cm。胎土は明赤褐色。凹面は布目→ナデ。凸面はナデ。		
	323		平瓦	明朝系・ 陶器質	破片	—	23.9		瓦当高さ14.5cm、瓦当幅22.1cm。胎土は暗赤褐色で、陶器のように焼き締まる。凹面は布目→ナデ。凸面はナデ。分割面・広端は無調整。表面には自然釉がかかったように熔けてガラス質。全体に少しゆがむ。別の瓦の付着痕。
	324		不明	灰色		—	—		胎土は灰色で、白色・半透明粒を少し含む。凹面は布目→ナデ→端部は工具ナデ。凸面はナデ。
	325		平瓦	明朝系・ 橙色		—	—		胎土は橙色で、赤色粒を少し含む。凹面は布目。凸面はナデ。端部は丘痕。分割面は無調整。凹面には泥釉のようなものがかけられ、凸面にも文字のようなものがある。明朝系。



第83図 攪乱層等の出土遺物（4）

第28表 攪乱層等出土遺物一覧(4)

単位: cm, g

図番号	種類	器種	分類	部位・ 残存	口径・ 長さ	底径・ 幅	器高・ 厚さ	所見	出土 地点
第 83 図 ・ 図 版 130 ・ 131	瓦	軒丸瓦 丸瓦	明朝系 ・ 橙色	破片	—	—	—	凹面は布目。凸面はナデ。胎土は橙色で、 白色粒を少し含む。瓦当表面・筒部凸面に 泥釉。瓦当径15.4cm。	客土
					—	—	—	凹面は布目・工具ナデ。凸面はナデ。胎土 は橙色で、カワニナ(巻貝)を一点含む。 玉縁部に線刻の記号らしきものがある。	
					—	—	—	凹面は布目・工具ナデ。凸面はナデ。胎土 は灰色。玉縁部に線刻の記号らしきもの がある。凸面に漆喰が付着している。	
					—	—	—	凹面は布目。凸面はナデ。胎土は赤色・灰 赤色・黄橙色の交胎で、半透明粒を少し含 む。筒部に孔がある。	
					31.3	—	8.8	凹面は布目→工具ナデ。凸面はナデ。分割 面は無調整。胎土は橙色。凸面に漆喰が付 着している。	

第5節 遺物の種類別概観

発掘調査で出土した遺物は各遺構ごとに遺物を選別し、実測・撮影を行った。選別からもれた遺物については、産地・種類・器種・器形・部位等で分類し、集計をおこなった。小破片や攪乱層等の遺物については集計を行わなかった。ただし重量については全て計量した。

1 中国産陶磁器

青磁は76点出土している。碗が39点と最も多く、皿・盤が続く。壺は少量である。14世紀後半～15世紀頃のもが主体である。

白磁は90点出土しており、皿が35点と最も多く、碗が続く。16～17世紀のもが主体である。

染付は158点出土しており、碗が120点と最も多い。15～16世紀頃のものが多いが、17～18世紀頃の福建・広東系のももある。

褐釉陶器は832点出土している。ほとんどが大型の壺で、15世紀～17世紀前半頃のものと考えられる。他にも色絵・瑠璃釉・三彩・黒釉陶器があるが、いずれも少量である。

2 東南アジア産陶磁器

タイ産褐釉陶器は160点出土している。シーサーチャナライ窯とメナムノイ窯のものがあるが、いずれも壺が大半を占める。15～16世紀のもが主体と考えられる。

そのほかにタイ産鉄絵の合子と、ベトナム産染付が1点ずつ出土している。

3 日本産陶磁器

沖繩産陶器には、釉薬をかける上焼系のもものと、釉薬をあまりかけない荒焼系のもがある。前者は154点出土しており、碗・皿など小型品が多く、18世紀後半以降のもが主体である。後者は250点出土しており、壺・甕など大型品が多い。

沖繩産以外では、肥前産の染付や、備前産の播鉢が多い。

4 金属製品・土製品・骨製品・ガラス製品・銭貨

金属製品には武器の飾り金具や釘、指輪、指拵、ボタンなどがある。

土製品には、埴塼と考えられるものが1点出土している。

銭貨には5枚以上の銭貨がくっついているものがある。これは青銅製品を作るための地金として用いようとした痕跡である可能性がある。

5 瓦・埴

瓦は1698点出土している。明朝系・高麗系・大和系の3つがあるが、明朝系が1603点と大半を占める。また瓦同土をつなぎとめていた漆喰が、内部地区の造成土である赤褐色土から多く出土している。

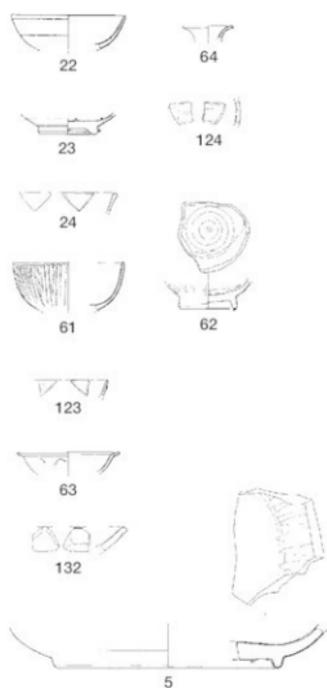
埴は219点出土している。灰色系と橙色系があるがほぼ同量出土している。

瓦・埴をとおして、焼き締め陶器のような質感の一群が少量ではあるが確認された。

6 自然遺物

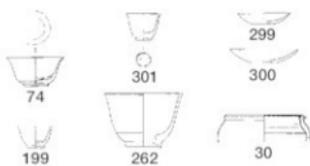
貝類は728点(個体数599)出土している。ヤコウガイの蓋が183点と最も多く、カンギク、アラスジケマンガイが続く。

脊椎動物依存体は614点出土している。魚骨が494点と最も多く、トレンチ4・5黒褐色土や内郭地区の暗褐色土からの出土が目立つ。

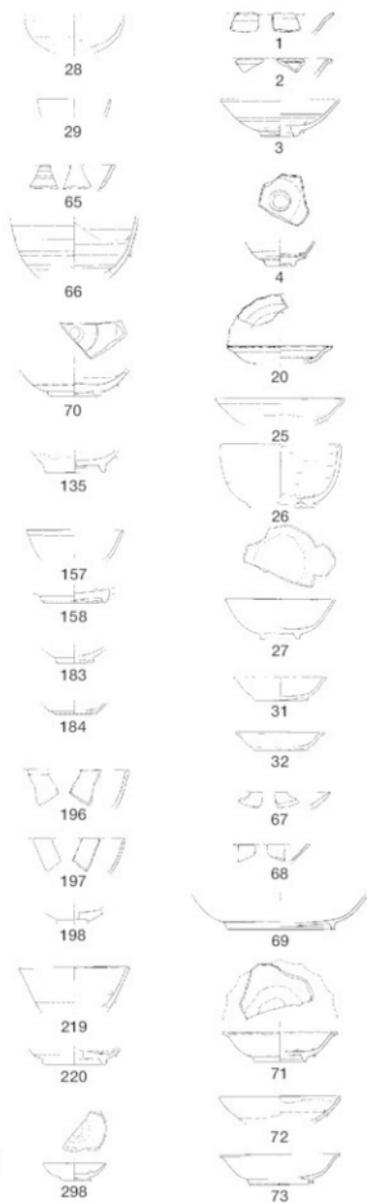


第84図 中国産青磁

0 10cm

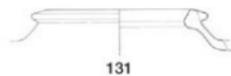
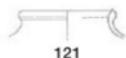
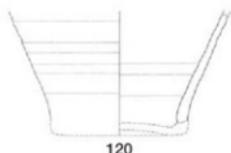
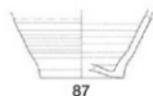
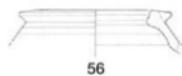
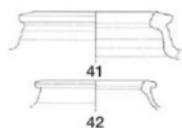


第85図 中国産白磁





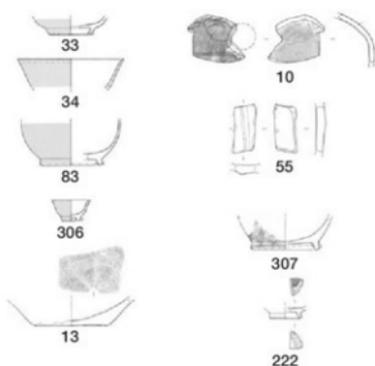
第86図 中国産染付



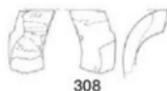
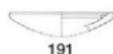
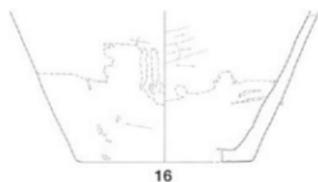
第87図 中国産褐釉陶器



第90図 ベトナム産染付

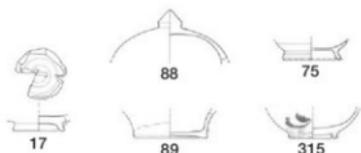


第88図 中国産三彩・瑠璃釉・緑釉陶器・褐釉陶器・陶磁器

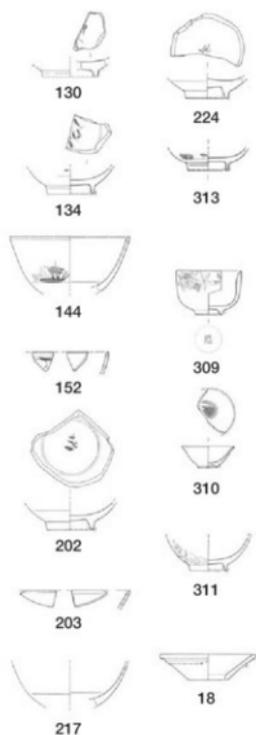


第89図 タイ産鉄絵・褐釉陶器・土器

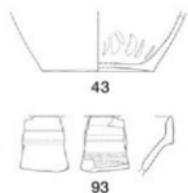
0 10cm



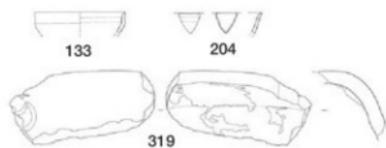
第91図 産地不明陶磁器



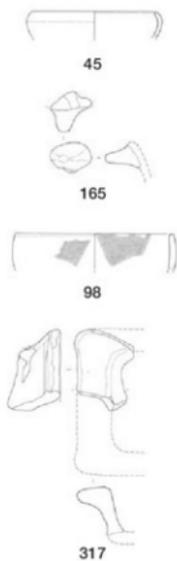
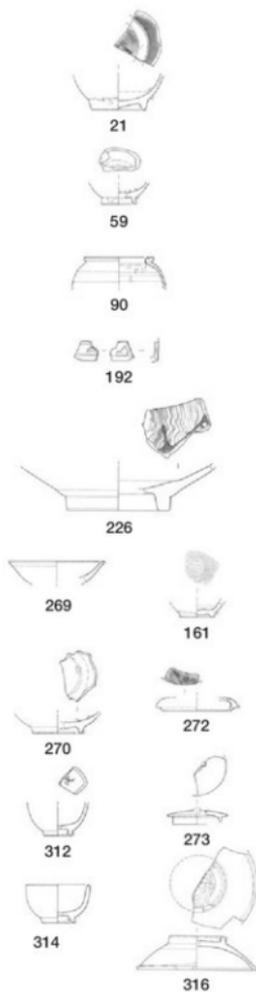
第92図 本土産磁器



第93図 本土産陶器

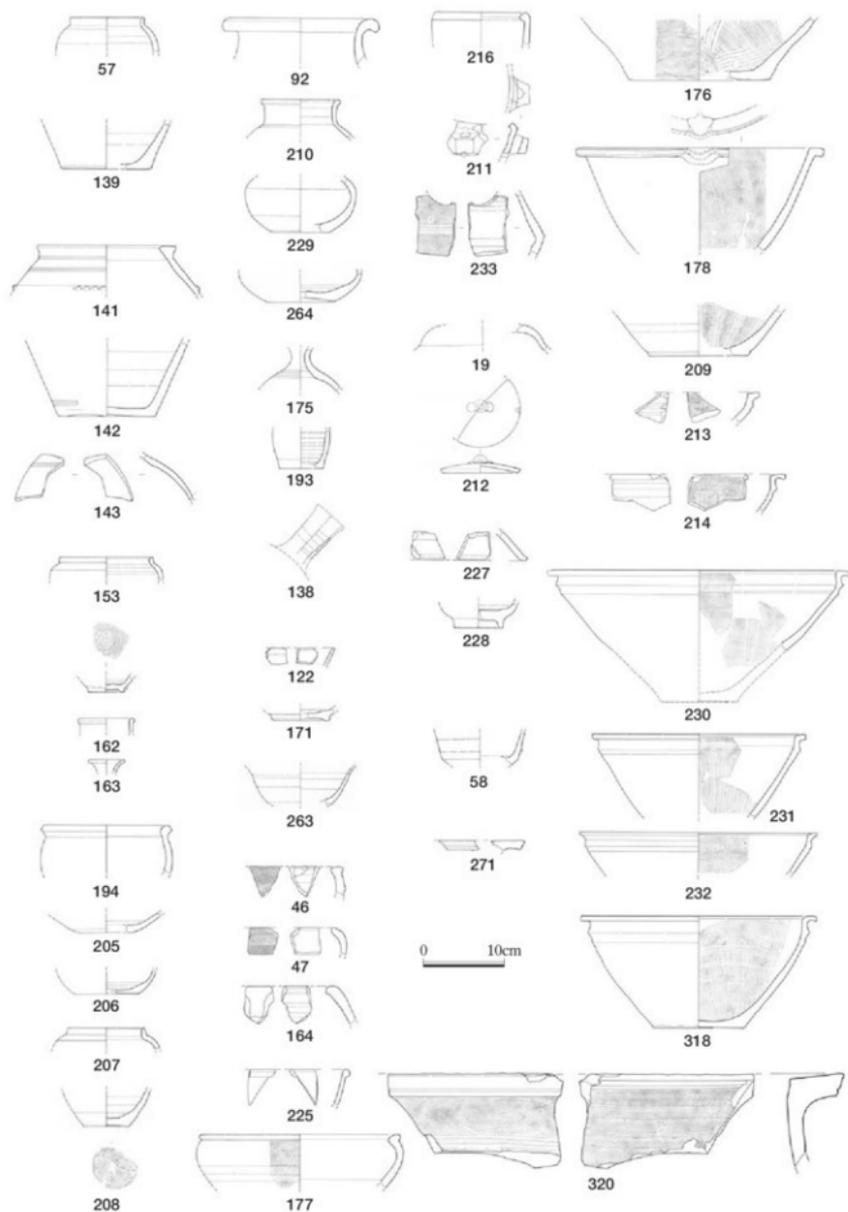


第94図 沖縄産陶器（上焼系）

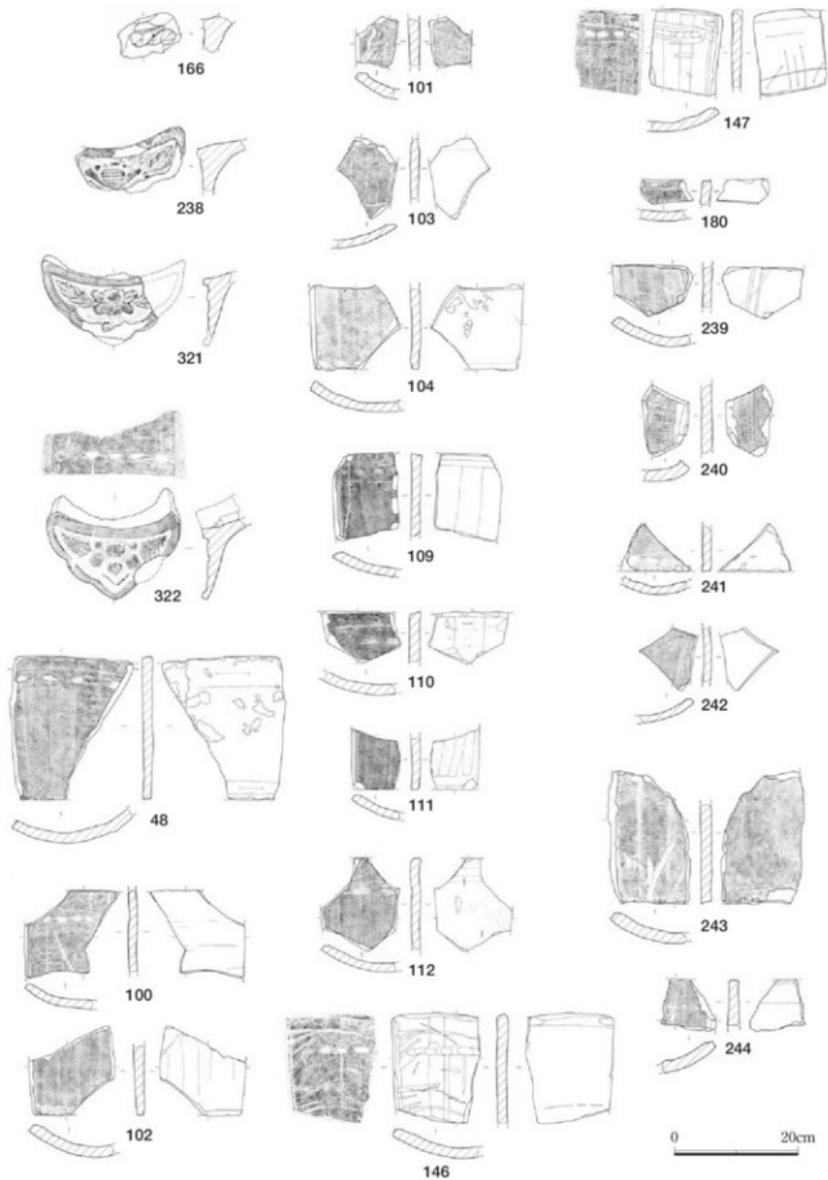


第95図 陶質土器

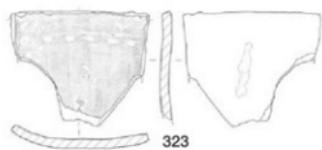
第96図 土器



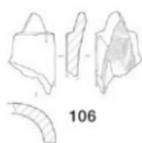
第97図 沖縄産陶器（荒焼系）



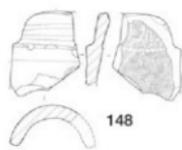
第98図 瓦（明朝系）①



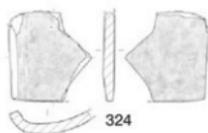
323



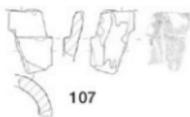
106



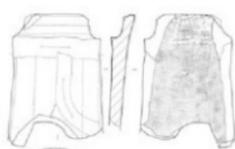
148



324



107



149



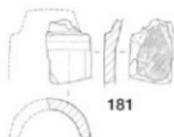
325



108



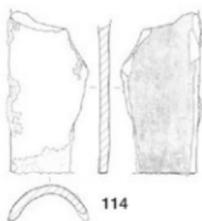
113



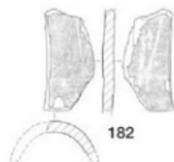
181



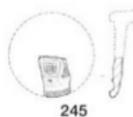
105



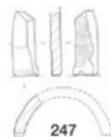
114



182



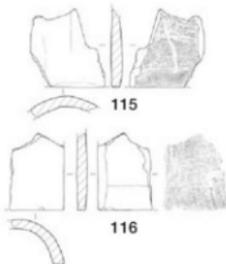
245



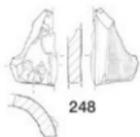
247



246



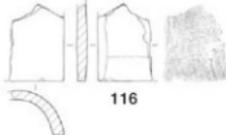
115



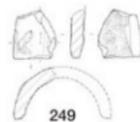
248



326



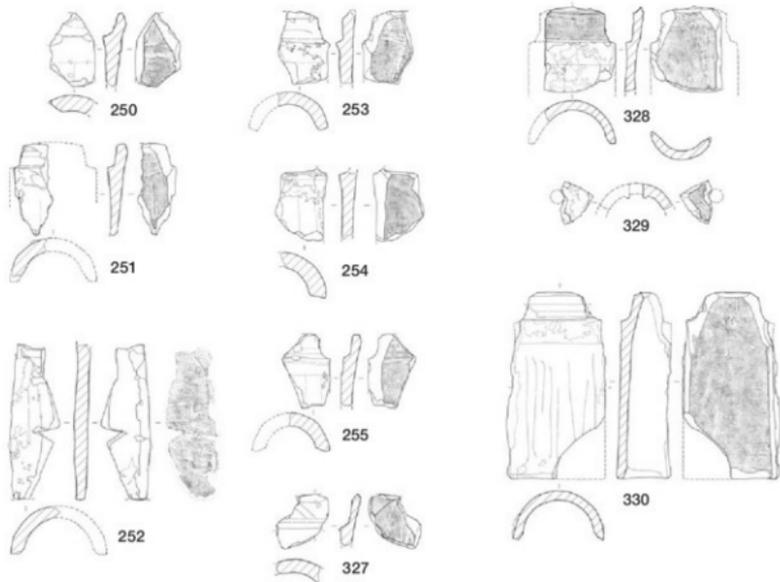
116



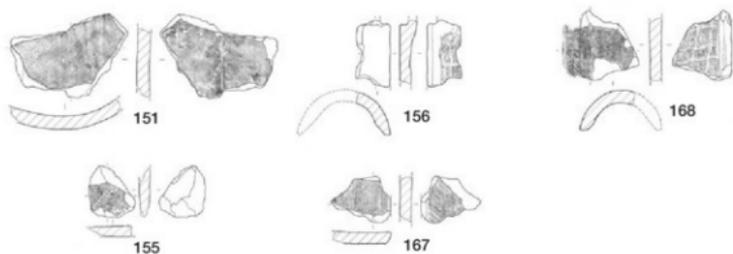
249

0 20cm

第99図 瓦（明朝系）②



第100図 瓦 (明朝系) ③

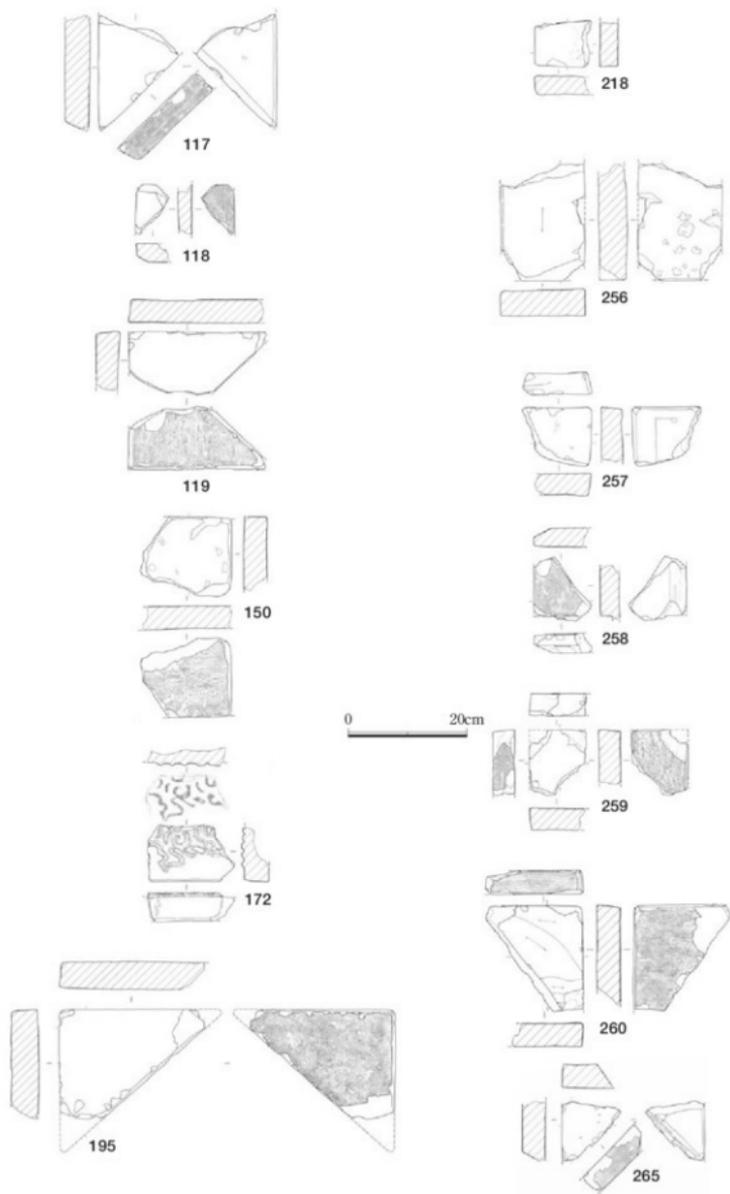


第101図 瓦 (大和系)

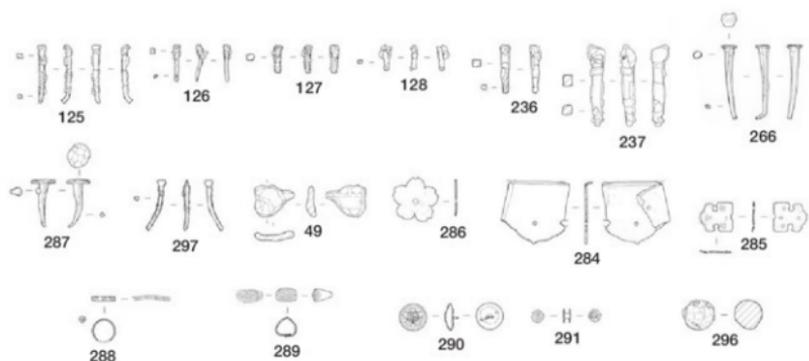


第102図 瓦 (高麗系)





第103図 埴



第104図 金属製品



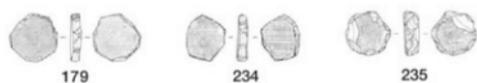
第105図 土製品



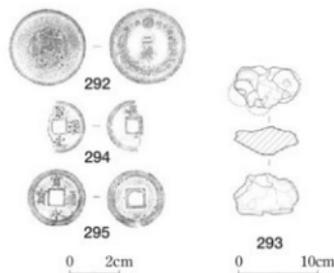
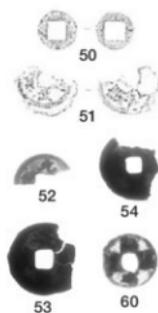
第106図 骨製品



第108図 煙管



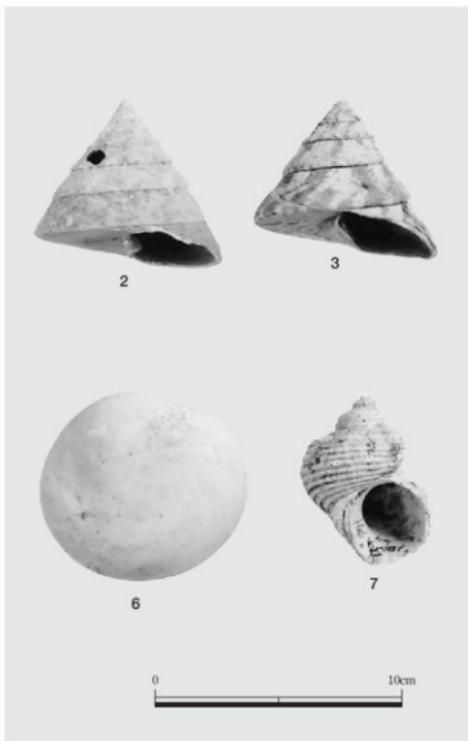
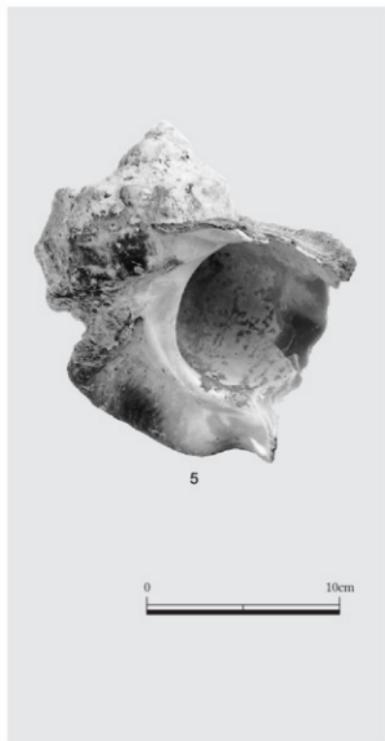
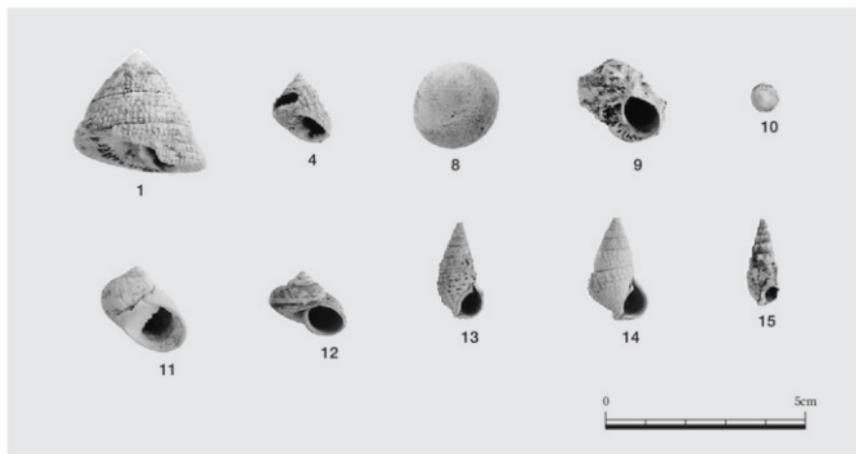
第107図 円盤状製品



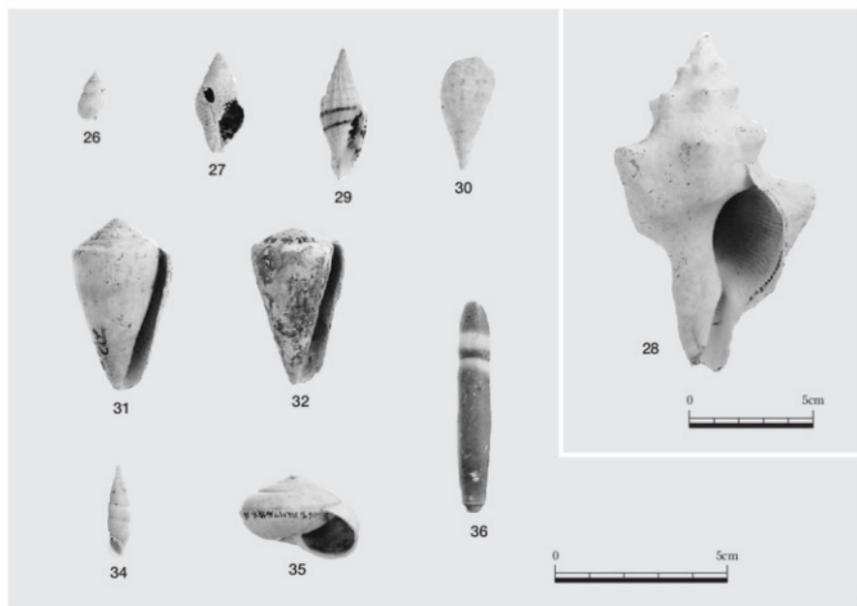
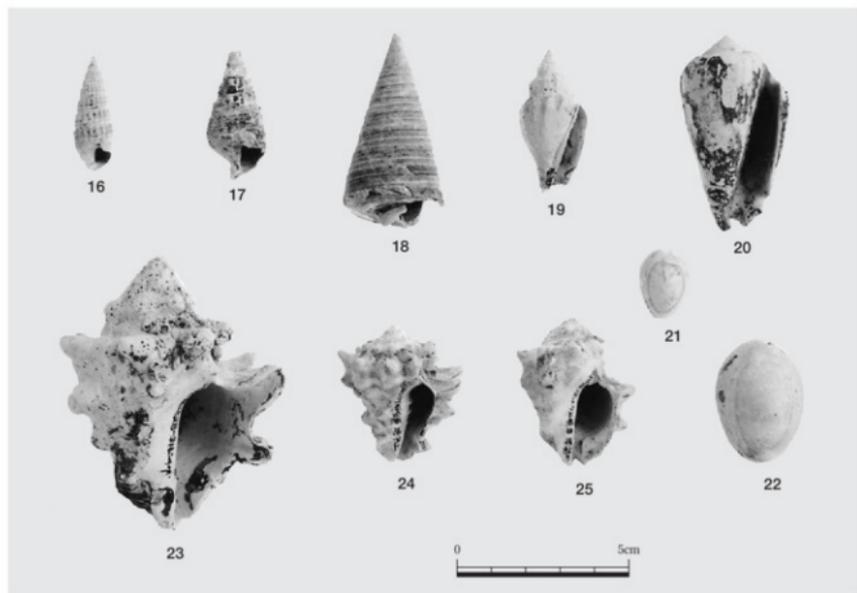
第109図 銭貨



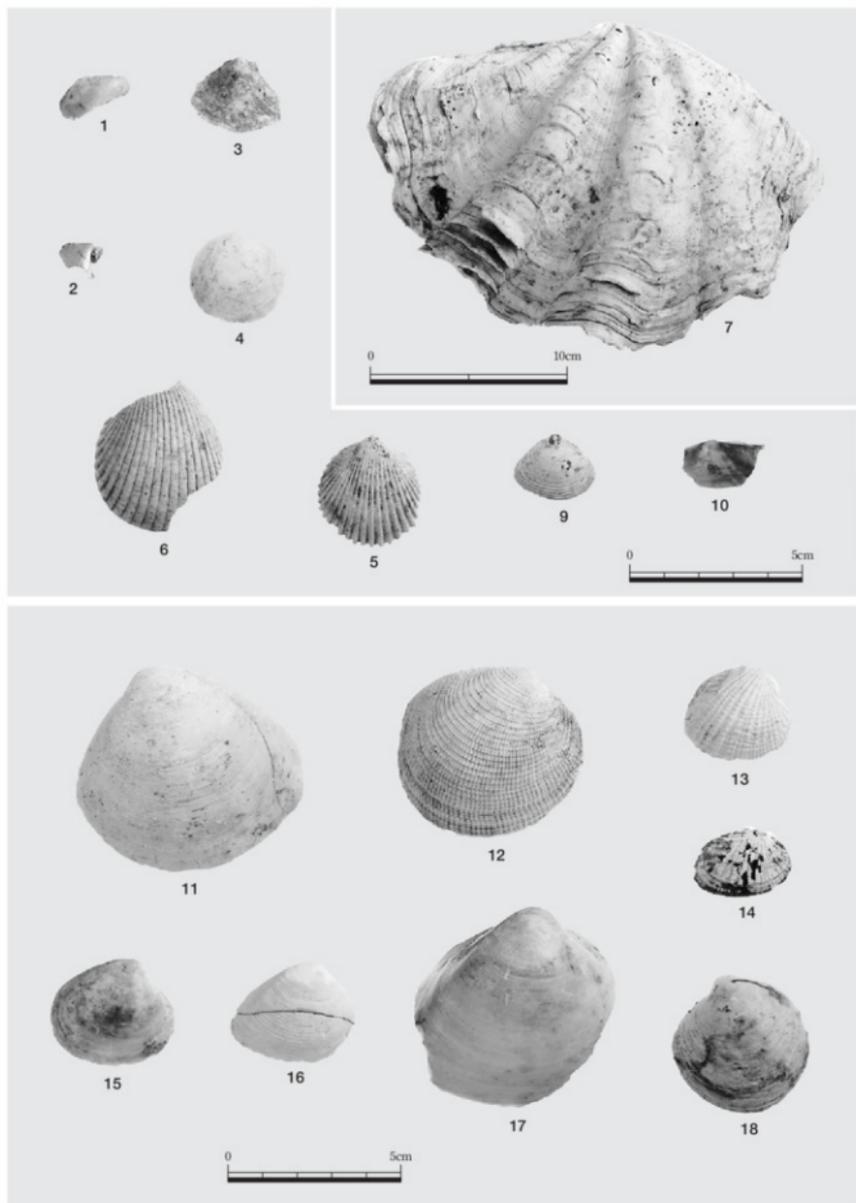
第110図 ガラス製品



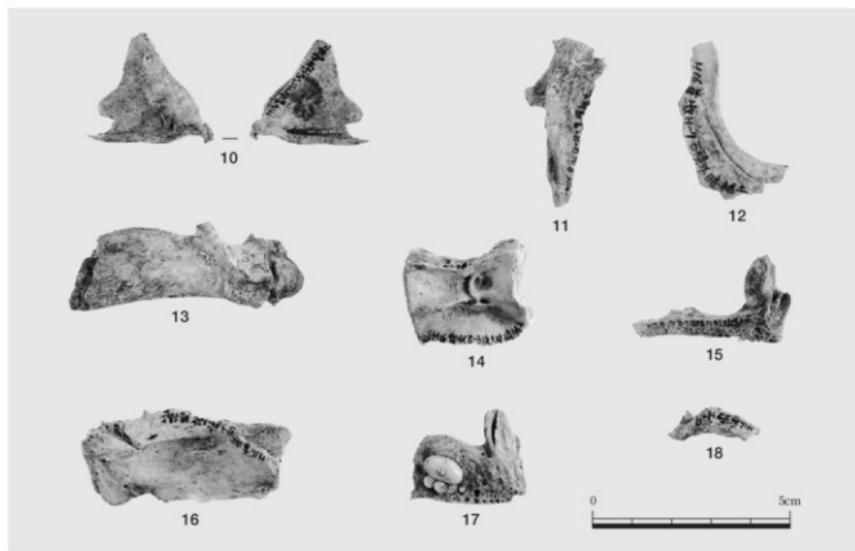
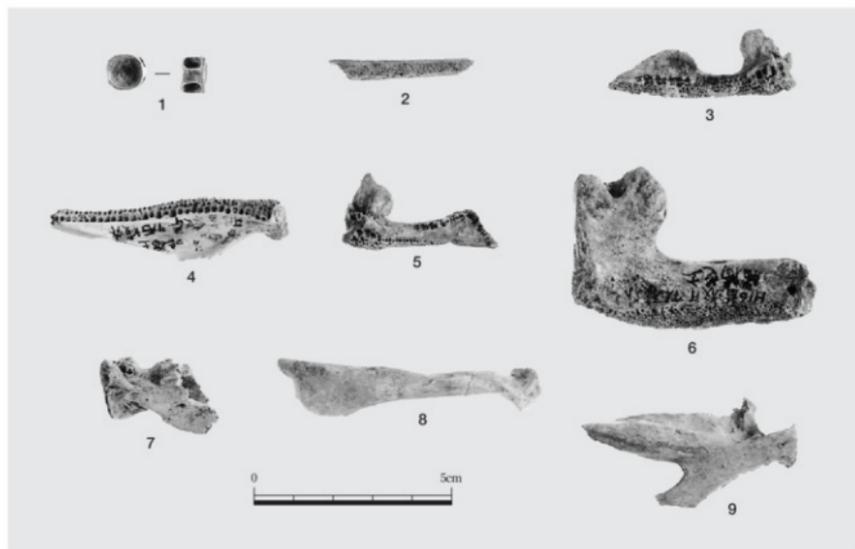
図版58 貝1 巻貝 (番号は表と一致)



図版59 貝2 巻貝 (番号は表と一致)



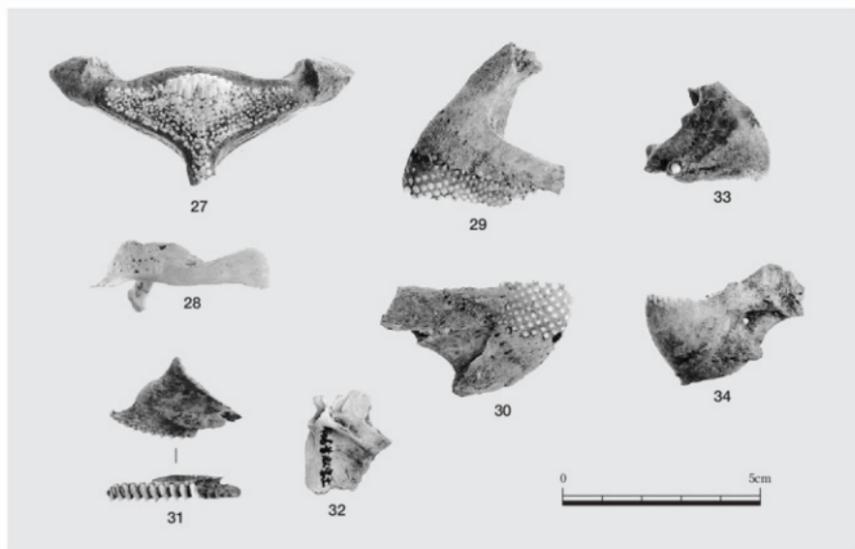
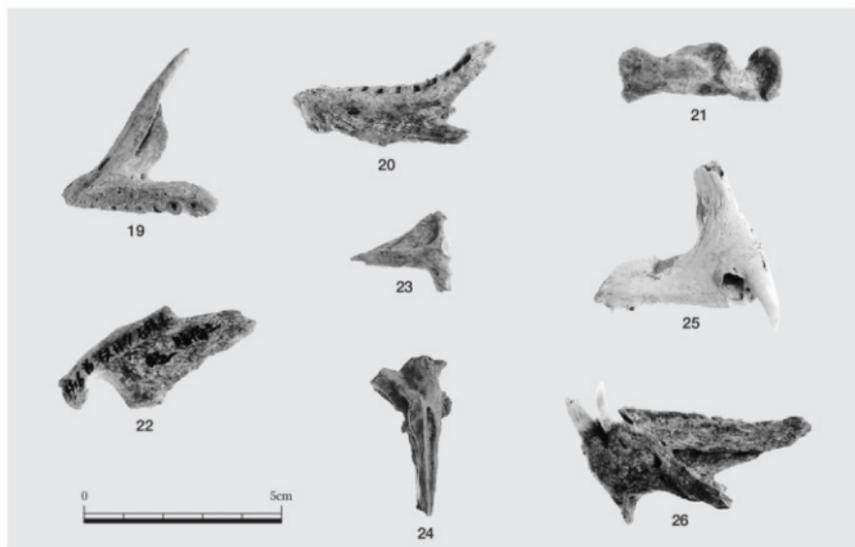
図版60 貝 3 二枚貝 (番号は表と一致)



図版61 骨1

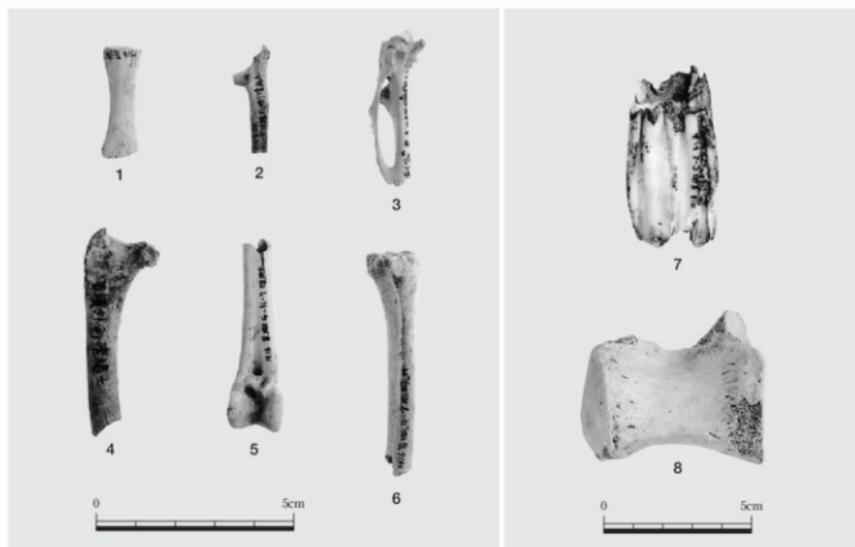
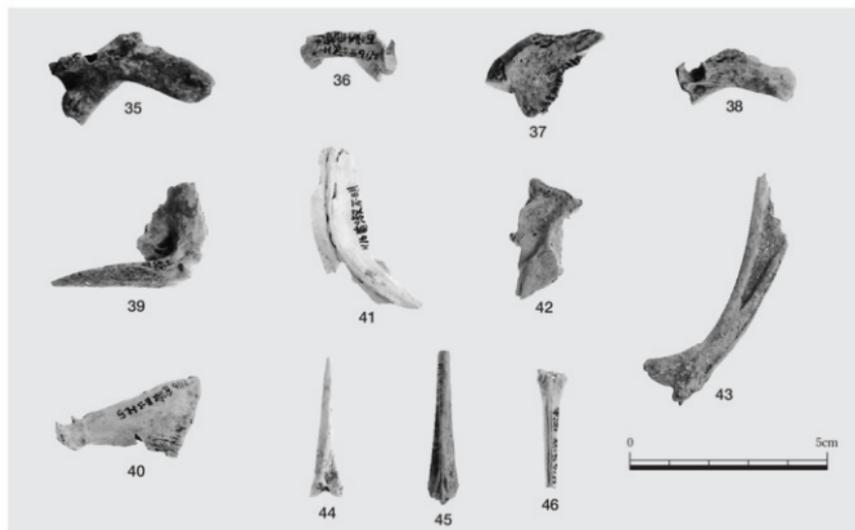
サカナ 上:メジロザメ 1.椎体 ダツ科の一種 2.右 前上顎骨 ハタ科A 3.左 前上顎骨 4.左 歯骨
ハタ科B 5・6.右 前上顎骨 7.右 歯骨 ハタ類 8.右 主上顎骨 9.左 角骨

下:ハタ類 10.右 方骨 11.右 舌顎 12.右 擬頰骨 ギンガメアジ属 13.右 主上顎骨 14.椎体
フエダイ類 15.左 前上顎骨 16.右 歯骨(キズあり) ヘダイ 17.左 前上顎骨 クロダイ 18.左 主上顎骨



図版62 骨 2

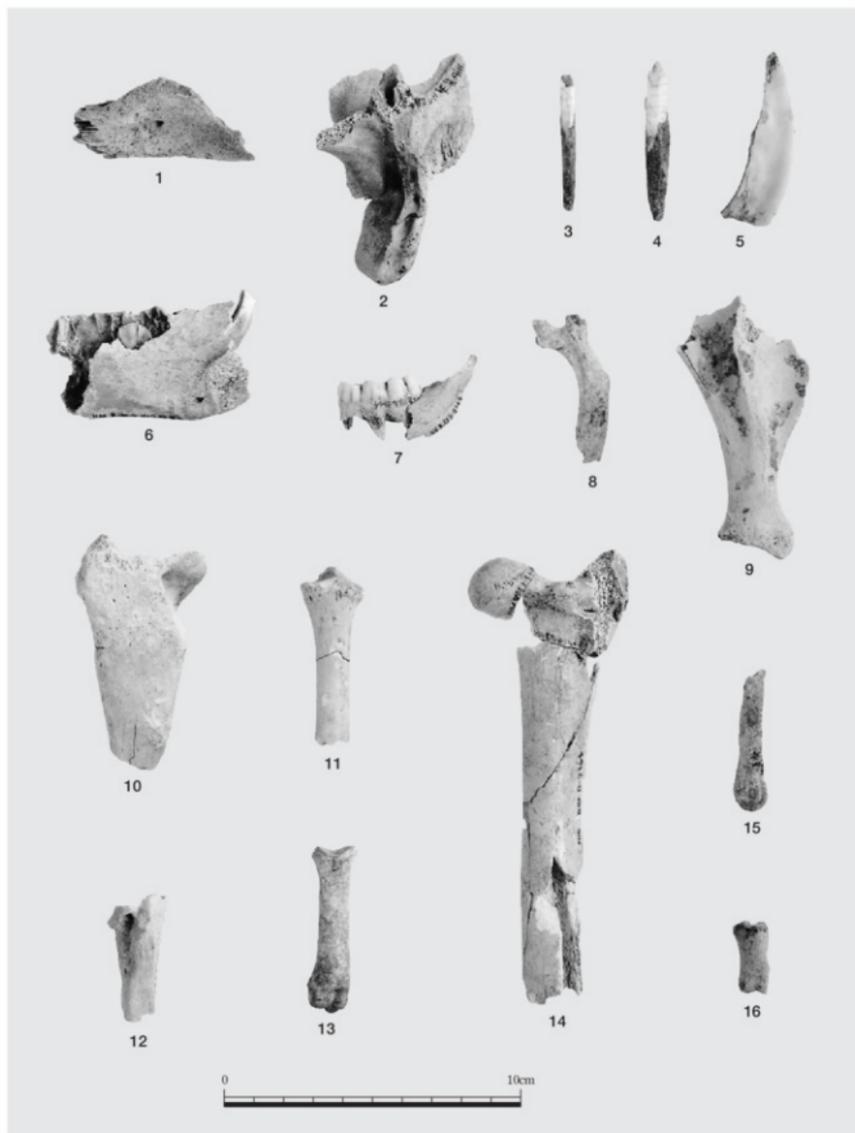
サカナ 上：ハマフエフキ 19. 右 前上顎骨 20. 右 歯骨 21. 左 主上顎骨 22. 左 口蓋 23. 左 角骨
フエキタイ科？ 24. 左 舌顎 コブダイ 25. 右 前上顎骨 26. 左 歯骨
下：コブダイ 27. 下顎頭骨 ベラ類 28. 左 主上顎骨 イロブダイ 29. 左 前上顎骨 30. 右 歯骨
ナガブダイ 31. 右 上顎頭骨 32. 右 主鰓顎骨 ブダイ類 33. 右 前上顎骨 34. 左 歯骨



図版63 骨 3

上：サカナ フダイ科A 35. 左 主上顎骨 フダイ科B 36. 右 主上顎骨 フダイ類 37. 左 口蓋 38. 右 角骨
 39. 右 方骨 フダイ科？ 40. 尾椎 スズキ目 41. 前鰓蓋骨 モンガラカワハギ科 42. 右 舌顎
 カワハギ科の一種 43. 股帯 種不明 44. 背鰭棘 45. 腎鰭血管棘 46. 第2腎鰭棘

下左：ウミガメ 1. 指骨 ニワトリ 2. 右 肩甲骨 3. 左 中手骨 4. 右 大腿骨 5. 左 頸骨 ネコ 6. 右 頸骨
 下右：ウシ 7. 右 上顎骨 M3 8. 胸椎



図版64 骨4

ブタ 1. 右前頭骨 2. 左側頭骨 3. 左下顎骨 I; 4. 左下顎骨 I; 5. 左下顎骨 C♂
6. 左下顎骨 C・P3♂ 7. 右下顎骨 M; 8. 左肋骨 9. 右肩甲骨 10. 左上腕骨 11. 右橈骨
12. 左尺骨 13. 左中手骨 III 14. 左大腿骨 15. 左中足骨 V 16. 右基節骨

内 郭 地 区													重 量 (kg)							
C-1 3溝2暗褐色土	D-1 2黒褐色土	D-2 黒褐色土	D-4 暗褐色土+	E-2 トレンチ11 黒褐色土	F-5 寒込め部 褐色土	F-6 トレンチ8	G-6・7 石積み3 外側 暗褐色土	G-7 石積み 寒込め部 暗褐色土	G・H -7 石積み 暗褐色土	H-6 外側 石積み3 黄褐色土	H-6 トレンチ1 赤褐色土	H-6・7 石積み4 寒込め部 暗褐色土	H-7 外側 石積み4 暗褐色土	G-1 7石積み 石部暗褐色土	G-1 6石積み 3外側黄褐色土+	H-1 7石積み 4外側暗褐色土+	合計	集計分	未集計分	合 計
				1				3	2	5		1	8	18			76	1.421	1.758	3.179
				2				1	3		1	18	35			90	1.096	0.318	1.414	
				1	3			3	18	3	1	35	46			159	1.641	1.151	2.792	
				1								1	1			4	0.008	0.044	0.052	
							1	1	1	1		3	1			7	0.084	0.008	0.092	
							1							2		3	0.008	0.048	0.056	
									1							1	0.056	0	0.056	
				1				1	1	1						3	0.029	0	0.029	
						1										1	0.056	0.054	0.110	
																1	0.018	0	0.018	
				9	8	1	14	49	33	187	9	2	126	173		832	19.864	2.170	22.034	
				3		1	4	10	4	30	2		13	11	1	160	5.996	0.130	6.126	
							1									1	0.005	0	0.005	
																2	0.051	0	0.051	
																1	0.003	0	0.003	
	1			7								1	1			41	0.632	0.520	1.152	
				2			1						4			7	0.097	0.091	0.188	
				9												1	0.002	0.116	0.118	
																11	0.009	0.276	0.285	
																8	1.754	0.815	2.569	
				3	26		4	6	19	5	3		12	11	1	154	1.592	1.216	2.808	
1				2	19		4	11	4	7	1		14	3		250	8.333	9.771	18.104	
				8			7	1	15	3			8	2		91	0.540	0.593	1.133	
														1		3	0.303	1.392	1.695	
									2				15			30	0.399	0	0.399	
														3		3	0.165	0	0.165	
				1		1		4				4	3			13	0.046	0.090	0.136	
	1	57		2			12	54	43	54	25	192	123			1698	173.557	27.446	201.003	
		4	1				5	4	5	2		40	37			219	74.110	9.000	83.110	
										28	107	2				138	15.280	9.630	24.910	
				1			1	8	2	2		1	6	19		76	0.913	3.893	4.806	
																1	0	0.124	0.124	
																1	0.001	0.110	0.111	
																2	0.028	0.034	0.062	
				1							1					5	0.259	0.000	0.259	
																0	0	0.001	0.001	
																0	0	0.026	0.026	
																7	0.009	0.100	0.109	
				1			4	6	4	5	3		18	18		221				
	1	3					15	23	19	14		226	254			728	53.790	6.000	59.790	
							13	10	1			48	116			494				
				3	1		2	1				10	9			93				
							2	3				3	8			19				
																1				
								1								1				
																3				
																1				
																1				
1	1	10	160	12	2	37	155	207	319	119	136	803	900	7	1	5663	363.229	77.090	440.319	

第30表 中国産青磁出土状況

器種			出土地		外郭南側地区							
					外郭北側地区		B-3					B-4
					A-5	トレンチ13	トレンチ4	トレンチ5	石積み13裏込め部	石積み18外側	石積み17外側	
					褐色土	暗褐色土	黒褐色土	褐色土	褐色土	褐色土		
碗 (39点)	直口	無文	14c後半～15c前半									
			14c後半～15c									
			14c～16c前半									
		雷文帯	口縁部	14c後半～15c前半				1				
				15c～16c前半			1					
				15c～16c								
	連弁文	口縁部	16c									
			不明							1		
	外反	無文	口縁部	16e～17c								
				15c								
		連弁文	胴部	15c後半～16c								
				16c								
		無文	胴部	14c後半～15c前半								
				不明			1	3		2		
底部		胴部	18c									
			不明							1		
皿 (8点)	外反	有文	14c後半～15c									
		連弁文	口縁部	14c後半～15c中頃								
		無文	口縁部	15c			1					
	直口	無文	口縁部	不明							1	
				菊花文	15c							
	盤 (7点)	不明	口縁部	不明							2	
14c後半～15c										1		
不明		口縁部	14c後半～15c									
			15c～16c									
不明	胴部	不明	1									
		14c後半～15c										
不明	底部	不明	14c後半～15c									
		15c										
壺 (2点)	不明	底部	不明	1								
			15c									
壺の蓋	不明	龍泉	15c									
酒会壺	不明	底部							1			
瓶	不明	口縁部										
袋物	不明	胴部	15cか		1							
			14c後半～15c									
器種不明	不明	口縁部	不明									
			16c～17c					1		2		
合計				1	1	1	2	5	1	8	3	

					内 郭 地 区						
C-3		D-2	D-3・4	E-2	G-7	G・H-7	H-6		H-6・7	H-7	合計
溝 2	黄褐色土	黒褐色土	暗褐色土	黒褐色土	石積み裏込め部	暗褐色土	石積み3外側	トレンチ1	石積み4裏込め部	石積み4外側	
暗褐色土					暗褐色土		黄褐色土	赤褐色土	暗褐色土	暗褐色土	
									1		1
										1	1
									1		1
									1		1
			1								1
		1									1
1						1				1	2
											1
										1	1
	1										1
					1				2		3
							1			3	4
			1								1
			1				1				2
			1				1				8
									1		1
		3		1					1		6
										1	1
										1	1
											1
							1				1
											1
											1
											1
											1
											1
										1	1
										1	2
										1	1
	2										2
					1			1		6	11
										1	1
1	4	5	6	1	3	2	5	1	8	18	76

第31表 中国産染付出土状況

器種	出土地	外郭南側地区									
		外郭北	B-3		C-2	C-3	D-2				
		A-5 トレンチ13 黒褐色土	石積み13裏込め部 褐色土	トレンチ2 暗褐色炭混じり土	溝2 暗褐色土	黄褐色土	トレンチ11 暗褐色土				
碗 (120点)	口～底	景德镇か	15c後半～16c前半か								
	口縁部		14～15c	1		1			3	1	
			14c後半～15c								
			15c								
			15c後半～16c								
			15c後半～16c前半								
			15c後半～16c								
			16c								
			景德镇 16c								
			16c後半～17c前半								
			16c～17c	1							
	胴部		景德镇 17c								
			17c			1				1	
			17c後半								
			福建 18c								
			福建・広東			1					
			15c			1					
			15～16c								
			景德镇 15c後半～16c								
			16c								
			17c								
	底部		福建 18c								
			福建・広東			1					
			14c後半～15c								
			15c								
			15c後半～16c前半								
			15c後半～16c								
			15～16c								
		16c									
		景德镇 17c前半									
		広東 17c後半～18c									
小碗		福建・広東 17～18c前半					1		1		
		広東 18c							1		
		景德镇									
皿 (12点)	口縁部						1				
	口縁部		15c後半								
			15c後半～16c前半								
			15c後半～16c								
			15～16c								
			16c								
	景德镇										
底部				1							
小杯	底部							1			
瓶 (4点)	口縁部										
	胴部										
	底部	景德镇	15～16c								
袋物	胴部										
器種不明	口縁部		15～16c		1	1		3			
	胴部										
	底										
合計			2	4	3	1	5	4	4		

		内 郭 地 区							合計
D-4	E-2	G-7	G・H-7	H-6	H-6・7	H-7			
黒褐色土	暗褐色土	トレンチ11 黒褐色土	石積み表込め部 暗褐色土	暗褐色土	石積み3外側 黄褐色土	トレンチ 1	石積み4表込め部 暗褐色土	石積み4外側 暗褐色土	
				1					1
3		1		4			1	2	17
							1		1
							1		1
				1				2	2
								1	1
							7	5	12
			1				4		5
	1			1				3	5
								1	1
								1	1
				1					1
				1					3
1									1
				1					1
9	3	3		2			2	7	27
						2			1
				1					2
							1		1
							1		1
				1					1
								4	4
				1					1
	2								2
4							2	2	9
							1		1
								2	2
								1	1
				1					1
							1		1
				1				1	2
								1	1
	2								2
									2
								1	1
									1
						1	1		2
								2	2
							1		1
							1		1
							1		1
								1	1
									1
							1		1
				1					1
							1		1
					1				1
					1				1
								2	5
									2
						1	4	3	8
								4	4
17	8	1 3	3	18	3	1	35	46	158

第32表 中国産白磁出土状況

器種	出土地	外郭南側地区							内郭地区				合計			
		A-5	B-4	C-2	C-3	D-2	D-3-4	E-2	G-7	G-H-7	H-6	H-6-7		H-7		
		トレンチ13 黒褐色土	外側 石積み17 褐色土	トレンチ2 褐色土	溝 2 暗褐色土	黄褐色土	黒褐色土	暗褐色土	黒褐色土	裏込め部 石積み 暗褐色土	裏込め部 トレンチ1 暗褐色土	裏込め部 石積み4 暗褐色土		石積み4 暗褐色土		
碗 (34点)	口～底部											2	2			
	口縁部		1	1	5	1	1				2	1	12			
		福建						1					1	1		
	胴部		1				1	1				1	1	5		
		16c前半～17c前半											4	4		
	底部	邵武窯										2		2		
		16c～17c前半								1				1		
福建							1						1			
小碗 (3点)	口～底部		1	1	1	1						1	5			
	口縁部						1				1		1			
	胴部						1						1			
皿 (35点)	口～底部	景德鎮										2	1	3		
		16c										2	2	4		
	邵武窯	16c								1			3	3		
		16c										4	5			
		景德鎮											4	4		
		16c前半											4	4		
		16～17c前半											1	1		
		16c								1			1	2		
	胴部			1								1	1	3		
							1						1	1		
		福建・広東								1				1		
底部	景德鎮											1	1			
	16～17cか					1							1			
杯	口～底部	景德鎮										1	1			
小杯	底部				1		1						2			
	口縁部											1	1			
壺	胴部											1	1			
	口縁部			1									1			
器種不明	胴部	邵武窯											1	1		
		16c						2					1	1		
合計		2	2	6	1	7	2	7	3	2	1	3	1	18	35	90

第35表 本土産陶磁器出土状況

出土地 種類・器種			外郭南側地区											内郭地区			合計	
			A-5	B-3	B-4	C-2		C-3		E-2	D-2	D-4	D-4 暗褐色土 + D-2 黒褐色土	G-7	H-6・ 7	H-7		
			トレンチ 13	石積み 18外側	石積み 17外側	トレンチ 2		濃 2	黄褐色 土	トレンチ 11	黒褐色 土	黒褐色 土		石敷 3	暗褐色 土	石積み + 裏込め 部		石積み + 裏込め 部
			黒褐色 土	褐色 土	褐色 土	混 じり 土	暗褐色 土	暗褐色 土	暗褐色 土	暗褐色 土	暗褐色 土	暗褐色 土	暗褐色 土	暗褐色 土	暗褐色 土			
本土産染付	碗 (38点)	口縁部	肥前	1			3					2					3	
			17c		1			1			1						6	
			17c前半					1										3
		胴部	19c前後 ～近代														1	1
			近代～ 現代	1						1								2
						1												1
	底部	肥前		2	1			2	2	3							10	
		17c前半					6										6	
											1	1					3	
	皿	胴部	肥前					2									2	
			17c前半					1									1	
			近代～ 現代							1								1
不明	胴部	近代～ 現代							1								1	
																	1	
																		1
合計			2	3	1	2	3	11	2	3	7	1	3	1	1	1	41	
本土産白磁	碗	胴部	19c前後 ～近代								1					1	2	
			近代～ 現代								1					1	1	
	皿	口縁部	近代～ 現代								1						1	
																	2	
合計										2			1		4	7		
本土産色絵	碗	口縁部	近代～ 現代									1					1	
																	7	
	皿	口縁部	近代～ 現代						1								1	
																	1	
	合計								1	1		9		1	1	1	11	
本土産磁器	碗	胴部	近代～ 現代														1	
																	7	
	皿	口縁部	近代～ 現代						1								1	
																	1	
	合計								1	1		9		1	1	1	11	
合計			2	3	1	2	3	11	3	3	10	1	12	1	1	1	5	60
本土産陶器	碗 (5点)	口縁	龍門司									1					1	
			15cか		1			1								1		
	壺	底部											1				1	
															1	1		
	播鉢	口縁部	備前													1	1	
			16～17c													1	1	
合計				1			1				2		1	1	1	8		

4-5
類別
観
種

第36表 沖縄産陶器（上焼系）出土状況

器種	出土地		外郭南側地区						内郭地区						合計
	A-5 トレンチ 13 黒褐色土	C-2 トレンチ 2	C-3 黄褐色土	溝 2 暗褐色土	トレンチ 11 暗褐色土	D-2 黒褐色土	暗褐色土	D-3-4 トレンチ 11 黒褐色土	E-2 トレンチ 11 黒褐色土	G-6 3 外積み 側 暗褐色土	G-7 裏石 積み め 部 暗褐色土	G-H-7 暗褐色土	H-6 石 外積み 側 3 黄褐色土	H-6-7 裏石 積み め 部 4 暗褐色土	
白化粧	口縁部 18~19c 18c後半~19c														1
	胴部 18~19c 18c後半~19c	1													6
	底部 18c後半~19c	1													1
灰軸	口縁部 17c後半~18c 17c後半~18c前半														1
	胴部 17c後半~18c														1
	底部 17c後半~18c 18c後半~19c前半														1
轆轤軸 (61点)	口縁部 18c後半~19c前半														1
	胴部 18c後半~19c前半														1
	底部 17c後半~18c														1
内面:灰軸 外面:黒軸 内面:灰軸 外面:鉄軸	黒軸 18c														1
	胴部 18c														1
	底部 17c後半~18c														1
内面:鉄軸 外面:鉄軸	口縁部 17c後半~18c 18c後半~19c前半														2
	胴部 17c後半~18c														1
	底部 17c後半~18c 18c後半	2													1
内面:鉄軸 外面:鉄軸	口縁部 18~19c		1												2
	胴部 18~19c														5
	底部 18~19c														1
内面:鉄軸 外面:鉄軸	口縁部 18~19c														2
	胴部 18~19c														5
	底部 18~19c														1

第37表 沖縄産陶器（荒焼系）出土状況

器種	出土地		外郡南園地区										内野地区				合計				
	外野北		A-5	B-3	B-4	C-2	C-3	D-2	D-3-4	E-2	C	D	G-6	G-7	G+H-7	H-6		H-6-7	H-7		
	トシノ子 13	黒褐色土 馬褐色土	トシノ子 4	黒褐色土 馬褐色土	トシノ子 2	黒褐色土 馬褐色土	黒褐色土 馬褐色土	黒褐色土 馬褐色土	黒褐色土 馬褐色土	トシノ子 11	黒褐色土 馬褐色土	黒褐色土 馬褐色土	黒褐色土 馬褐色土	黒褐色土 馬褐色土	黒褐色土 馬褐色土	黒褐色土 馬褐色土		黒褐色土 馬褐色土	黒褐色土 馬褐色土	黒褐色土 馬褐色土	
線 (4点)	口縁部	17c後半～18c前半																		1	
脚部																					1
底部																					1
口縁部																					1
脚部																					1
底部																					1
鉢 (34点)	口縁部																				14
脚部																					12
底部																					8
鉢 (5点)	口縁部																				4
底部																					1
口縁部																					2
脚部																					1
底部																					2
口縁部																					1
脚部																					4
底部																					4
鉢 (28点)	口縁部																				11
脚部																					1
底部																					1
水鉢 (9点)	口縁部																				5
脚部																					2
底部																					0
鉢 (8点)	口縁部																				1
脚部																					2
底部																					0
鉢 (4点)	口縁部																				1
底部																					1
鉢 (2点)	口縁部																				1
底部																					1
水取 (3点)	口縁部																				1
底部																					1
鉢 (3点)	口縁部																				3
底部																					3
鉢 (36点)	口縁部																				31
脚部																					1
底部																					3
口縁部																					3
脚部																					1
底部																					99
不明 (111点)	口縁部																				9
底部																					9
合計																					250

第38表 陶質土器・瓦質土器・土器出土状況

出土地		外郭北側		外郭南側地区							内郭地区				合計		
		A-5	B-3	C-2	C-3	D-2	D-4	E-2	G-6	G-7	G・H-7	H-6	H-6・7	H-7			
		トレンチ13 褐色土	石積み18外側 褐色土	トレンチ4 褐色土	トレンチ2 混じり土	溝2 暗褐色土	黄褐色土	石敷き3 黒褐色土	暗褐色土	黒褐色土	暗褐色土	3外側 暗褐色土	石積み 込め部 暗褐色土	3外側 黄褐色土		石積み 裏込め部 暗褐色土	石積み 外側 暗褐色土
陶質土器	皿	口縁部	2										2			4	
	鉢	口縁部													1	1	2
		口縁部	1														1
	鍋 (5点)	耳	2														2
		把手										1					1
		胴部					1										1
	火炉 (9点)	口縁部	1						1	1				1			4
		胴部	2												1		3
		底部	1														2
	急須	胴部	2						1		2		1	4	2		12
		蓋	1												1		2
	器種 不明	口縁部				1							1				2
		胴部	1	20	1		1	1	1	1	6	6	5	3	3	1	50
		底部	2				1							1			4
耳					1											1	
合計	1	34	1	1	3	2	1	2	2	8	7	1	15	3	8	2	91
土器 瓦質	不明	胴部				1										1	2
	底部							1								1	1
	合計					1		1								1	3
土器	蓋		1					1		1						3	
	鉢	口縁部												1		1	
	器種 不明	胴部	2	1		1			1					1		6	
	鉢	口縁部														2	2
	壺	口縁部														2	2
宮式土器	壺	口縁部										2		13		15	
	器種 不明																
土器	バナリ焼	壺	口縁部													1	1
		合計	2	2		1	1	1	1				2		15	5	30

第39表 銭貨出土状況

出土地		外郭北側地区		外郭南側地区		内郭地区		合計
		A-5	B-3	G-7	H-6			
		トレンチ13 褐色土	トレンチ4 黒褐色土	石積み裏込め部 暗褐色土	石積み3外側 黄褐色土			
銭種								
熙寧重寶(折二銭)	北宋・1071年			1				1
元豊通寶(折二銭)	北宋・1078年			1				1
宣和通寶	北宋・1119年				1			1
○元○寶		1						1
元○○寶				1				1
無文銭				1				1
古銭?				1				1
合計		1		1		4	1	7

第43表 貝類出土状況 (巻貝)

種 類		出 土 地		外郭北側地区					外郭南側地区																					
				A-5					B-3																					
番号	綱名	科名	貝種名	生息地	個体数	褐色土 完:破:形	黒褐色土 完:破:形	暗褐色土 完:破:形	褐色土 完:破:形	石積み18 外圍	トレンチ4	トレンチ4 黒褐色土 完:破:形	トレンチ5	石積み17 外圍	トレンチ2	C-3														
1		ニシキウスガイ科	ニシキウスガイ	I-2a	3																									
2		ニシキウスガイ科	ギンカカハマ	I-4a	2																									
3			サラサハチイ	I-4a	3																									
4			ヤコウガイ	I-4a	5																									
5			ヤコウガイの蓋	I-4a	183																									
6		サザエ科	チヨウセンサザエ	I-3a	53																									
7			チヨウセンサザエの蓋	I-3a	32																									
8			カンギク	II-1-b	160																									
9			カンギクの蓋	II-1-b	1																									
10		ヤマカニシ科	オキナワハマタニシ	V-8	56																									
11			ウミナガニモリ	V-8	19																									
12		オニノツガイ科	ウミナガニモリ	I-1-a	1																									
13			クワシカニモリ	I-1-a	5																									
14		ウミナナ科	イボウミナ	III-1-c	1																									
15			カワガイ	III-1-c	4																									
16		フトヘナタリ科	マドモチウミナ	III-0-c	1																									
17			センニギガイ	III-0-c	6																									
18		ソデボウ科	オハツロガイ	II-2-c	4																									
19			マガキガイ	II-2-c	33																									
20		タカラガイ科	ハナヒラタカラ	I-1-a	2																									
21			ハナマルユキタカラ	I-3-a	2																									
22		アウキガイ科	シラカモガイ	I-3-a	3																									
23			ツルレイシ	I-3-a	1																									
24		オニノツガイ科	コオニノツガイ	I-3-a	2																									
25		ムシロガイ科	ヨウバイモドキ	II-1-c	1																									
26		エノバイ科	シマベッコウバイ	I-2-a	3																									
27		イトマキボウ科	イトマキボウ	II-2-c	1																									
28		ツクシガイ科	ミヅムシガイ	II-2-c	3																									
29			イタチモ	I-2-c	1																									
30		イモガイ科	ヤナギシボリイモ	I-2-a	2																									
31			キヌカツギイモ	I-2-c	1																									
32		キセルガイ科	イモガイ科不明	V-8	2																									
33		ナンコンマイマイ科	ツヤギセルガイ	V-8	3																									
34		ナガウニ科	シユリマイマイ	V-8	1																									
			ハイブウニ	V-8	1																									
		合 計			589	2	1	1	1	3	2	3	1	2	4	4	3	2	5	3	6	2	1	1	21	8	6	9	16	3

注 空白と範囲を合計し個体数とした。但し、破片でのみ出土した貝類については、最少個体数「1」とした。

第44表 魚骨出土状況

目・科・種名・部位				外郭北側		外郭南側地区					
				A-5		B-3					
				トレンチ13		トレンチ4			トレンチ5		
				黒褐色土		暗褐色土		黒褐色土			
		R	L	R	L	R	L	R	L		
メジロザメ目	メジロザメ科	メジロザメ	椎体					3		2	
ダツ目	ダツ科	ダツ科の一種	前上顎骨								
		A (11点)	前上顎骨					1	1		
		B (5点)	歯骨					1		1	
		ハタ類(37点)	前上顎骨					1			
			歯骨					1	1	1	
			主上顎骨					1			
			角骨							1	
			方骨				2	1	1		
			舌顎							1	
			前鰓蓋骨								
			鰓蓋骨								
			主上顎骨								
			椎体								
	アジ科	ギンガメアジ属(2点)	前上顎骨	1							
			歯骨								
	フエダイ科	フエダイ類(4点)	前上顎骨								
			歯骨								
	タイ科	ヘダイ(1点)	前上顎骨								
		クロダイ(1点)	主上顎骨								
			前上顎骨	1						3	
			歯骨					1			
			主上顎骨					1	1		
			口蓋							1	
			角骨							2	
			舌顎								
			前鰓蓋骨								
			方骨								
			前上顎骨								
			歯骨					1			
			下咽頭骨		1						
			前上顎骨					1			
			歯骨							1	
			主上顎骨								
			下咽頭骨					1			
			前上顎骨								
			歯骨							1	
			上咽頭骨					1			
			上咽頭骨								
			下咽頭骨							1	
			主鰓蓋骨								
			主上顎骨								
			主上顎骨								
			前上顎骨					2	1	2	
			歯骨						1	1	
			口蓋								
			角骨							1	
			方骨							2	
			尾椎								
			前鰓蓋骨							2	
			主鰓蓋骨								
			舌顎								
			鰓蓋骨								
			歯骨								
			主上顎骨					2			
			方骨						1		
			舌顎								
			前鰓蓋骨							1	
			主鰓蓋骨								
			背鰭棘					11	12		
			腎臓血管間棘							5	
			第2腎臓棘								
			椎体	1		1		60	66		
			尾椎					2	2		
			合計	3		2		126	109		

注(): キズあり

第45表 ブタ出土状況

出土地		外郭北側地区												外郭南側地区											
		A-5						B-3						B-4						C-2					
		トレンチ3			トレンチ4			トレンチ5			石積み13裏込め部			石積み18外側			石積み17外側			トレンチ2					
		褐色土	黒褐色土	不明	右	左	不明	右	左	不明	黒褐色土	右	左	不明	褐色土	右	左	不明	褐色土	右	左	不明	右	左	不明
頭骨	頭頂骨																								
	前頭骨																								
上顎骨	側頭骨																								
	岩臼部骨胞																								
下顎骨	下顎骨																								
	四面突起																								
椎体	椎体																								
	棘突起																								
肋骨	肋骨																								
	骨体																								
肩甲骨	遠位端																								
	破片																								
上腕骨	破片																								
	近位端																								
橈骨	近位端																								
	遠位部																								
尺骨	骨体																								
	骨体																								
中手骨	III																								
	IV																								
寛骨	胸骨部																								
	臼部																								
大腸骨	坐骨																								
	骨頭のみ																								
大腸骨	近位端-坐位部																								
	骨体																								
脛骨	遠位骨端のみ																								
	近位部																								
中足骨	骨体																								
	遠位端																								
基節骨	III																								
	V																								
合計																									

注 () : キズあり

第46表 プタ歯出土状況

出土地			外郭南側地区		内郭地区		合計	
			B-3	E-2	G・H-7	H-6-7		
			トレンチ4 黒褐色土	黒褐色土	暗褐色土	石積み4 裏込め部 暗褐色土		
部位	左/右	残存部位						
上顎骨	右	P2	1				1	
	左	P2	1				1	
下顎骨	右	I2	1				1	
		P2	2				2	
		P3	2				2	
		M2	1				1	
		M3	2				2	
	左	I1				1	1	
		I2				1	1	
		C	♀ 1					1
			♂ 1					1
			♂ 2				2	4
		C・P3			1			1
P4	♂ 1					1		
M1	1					1		
M3	1					1		
破片			2				2	
合計			16	3	1	4	24	

注 ♀:メス、♂:オス

第47表 ニワトリ出土状況

出土地			外郭北側			外郭南側地区			内郭地区									合計										
			A-5			B-4			C-3			G-7			G・H-7						H-6-7			H-7				
			トレンチ13 黒褐色土			石積み 17外側 褐色土			溝2 暗褐色土			石積み 裏込め部 暗褐色土			暗褐色土						石積み4 裏込め部 暗褐色土			石積み 4外側 暗褐色土				
部位	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明							
鳥口骨	遠位端																					1		1				
椎体	胸椎																								1			
肩甲骨	近位端																								1			
	近位部																								1			
上腕骨	骨体									1															1	1		
尺骨	近位端																									1		
	近位部																									1		
中手骨			1																							1		
寛骨	腸骨部 ～臼部																									1		
大腿骨	近位端																									2		
	骨体																											
脛骨	遠位端				1								1	1												3	1	
	遠位部																									1		
中足骨	骨体																									1		
	遠位部																									1		
合計		1			1					1	1		1	2		1	1	1	4	4						8	10	1
		1			1					1				3					3								19	

第48表 ウミガメ・ヘビ・ネコ・ウシ・ネズミ・トリ出土状況

出土地 部位			外郭北側		外郭南側地区										内郭地区			合計		
			A-5		B-3				B-4		C-2		C-3		G-7					
			トレンチ13		トレンチ4		石積み 18外側		石積み 17外側		トレンチ2		溝2		石積み 裏込め部					
			黒褐色土		黒褐色土		褐色土		褐色土				暗褐色土		暗褐色土					
右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明			
ウミガメ	指骨	不明																1		
ヘビ	椎体				1													1		
ネコ	脛骨	近位端															1	1		
ウシ	上顎骨	M ¹										1						1		
	足根骨	第4中心	1															1		
	中手骨	遠位部						1										1		
ネズミ	上腕骨				1													1		
トリ	脛骨	遠位端								1								1		
合 計			1			1	1		1	1		1			1	1		3	2	3
				1			2			1			1				1			8

第5章 自然化学分析

はじめに

本報告では、各堆積層の堆積年代に関する情報を得ることを目的に放射性炭素年代測定を、古植生に関する情報を得ることを目的に花粉分析、樹種同定を実施する。

1 試料

分析試料は、A-4グリッドのトレンチ14東壁、B-3グリッドの黒褐色土、C-2グリッドのトレンチ6東壁、C-4グリッドの石積み17、E-2グリッドのトレンチ11、E-3グリッドの溝3、E-5グリッドの溝4、G-5グリッドの石敷き1、H-6グリッドのトレンチ1、H-7グリッドの石積み4外側より土壌が採取された。

これらの土壌の内から、放射性炭素年代測定に用いる炭化材を抽出し、年代測定に使用しなかった破片を樹種同定用試料とする。また、花粉分析は炭化材を抽出した後の土壌を利用する。これらの試料を用いて、放射性炭素年代測定(AMS法)8点、放射性炭素年代測定(β 線法)2点、花粉分析3点、樹種同定9点を実施する。なお、試料番号3、10の2点についても炭化材が拾い出されているが、量が少ないため全量を年代測定に使用したため、樹種同定用の試料は得られなかった。分析試料および分析項目一覧を第49表に示す。

第49表 分析試料および分析項目一覧

試料番号	グリッド	遺構名	層位	分析項目				備考
				AMS	β 線	花粉	樹種	
1	A-4	トレンチ14 東壁	3層			●	●	旧表土か?
3			5層	●				3層直下
4	B-3		黒褐色土	●			●	試料番号5と同一層
5	C-2	トレンチ6 東壁	3層	●			●	試料番号4と同一層
6	C-4	石積み17 外側	褐色土	●			●	
7	E-2	トレンチ11 東壁	6層		●		●	
8	E-3	溝3 北壁	4層	●		●	●	旧表土
9	E-5	溝4 北壁	7層	●			●	石積み14 裏込め
10	G-5	石敷き1 直下	暗褐色土	●				
11	H-6	トレンチ1 西壁	3層	●			●	石積み4外側 赤褐色土
12	H-7	石積み4 外側	暗褐色土		●	●	●	トレンチ1 1層

注) AMS:放射性炭素年代測定(AMS法)、 β 線:放射性炭素年代測定(β 線法)、花粉:花粉分析、樹種:樹種同定

第50表 放射性炭素年代測定結果

試料番号	種類	測定方法	補正年代 BP	513C (%)		測定年代 BP	Code No.	Measurement No.
3	炭化物	AMS	640±40	-28.17±0.82	690±30	8922-1	IAAA-50986	
4	炭化材		390±40	-27.99±0.78	440±30	8922-2	IAAA-50987	
5			430±40	-28.65±0.88	490±30	8922-3	IAAA-50988	
6		480±30	-26.38±0.83	500±30	8922-4	IAAA-50989		
7	炭化物	β 線	600±70	-26.7	-	8628-2-1	IAA-890	
8	炭化材	AMS	70±40	-30.08±0.68	150±30	8922-5	IAAA-50990	
9			310±40	-29.50±0.78	380±30	8922-6	IAAA-50991	
10	180±40		-26.59±0.98	210±30	8922-7	IAAA-50992		
11	炭化物		380±30	-28.08±0.83	430±30	8922-8	IAAA-50993	
12		β 線	618±61	-26.0	-	8628-2-2	IAA-891	

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

2 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HC1により炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HC1によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去を行う（酸・アルカリ・酸処理）。

測定はAMS法とベータ線法の両方を用いる。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma；68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02（Copyright 1986 ? 2005 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

(2) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリス（無水酢酸9、濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

結果は同定・計数結果の一覧表、および花粉化石群集の散布図として表示する。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

(3) 樹種同定

試料を乾燥させた後、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、鳥地・伊東（1982）およびWheeler et al.（1998）を参考にした。また、各樹種の木材組織の配列の特徴については、林（1990）、伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）及び独立行政法人森林総合研究所の木材識別データベースを参考にした。

3 結果

(1) 放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果を第50表に、暦年較正結果を第51表に示す。暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い（ ^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。暦年較正については、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。暦年較正は、測定誤差 σ 、 2σ 双方の値を計算する。 σ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

測定誤差を σ として計算させた結果、試料番号3がcalAD1, 292-1,389、試料番号4がcalAD1,447-1,616、試料番号5がcalAD1,434-1,484、試料番号6がcalAD1,420-1,444、試料番号7がcalAD1298-1371、試料番号8がcalAD1,698-1,954、試料番号9がcalAD1,521-1,643、試料番号10がcalAD1,665-1,951、試料番号11がcalAD1,451-1516、試料番号12がcalAD1296-1395である。

第51表 暦年較正結果

試料 番号	補正年代 (BP)	暦年較正年代 (cal)										相対比	Code No.			
		σ	cal	AD	1,292	—	cal	AD	1,317	cal	BP			658	—	633
3	639±35	σ	cal	AD	1,354	—	cal	AD	1,389	cal	BP	596	—	561	0.409	8922-1
			cal	AD	1,283	—	cal	AD	1,332	cal	BP	667	—	618	0.591	
		2 σ	cal	AD	1,337	—	cal	AD	1,398	cal	BP	613	—	552	0.435	
			cal	AD	1,557	—	cal	AD	1,631	cal	BP	393	—	319	0.565	
4	389±34	σ	cal	AD	1,447	—	cal	AD	1,512	cal	BP	503	—	438	0.824	8922-2
			cal	AD	1,601	—	cal	AD	1,616	cal	BP	349	—	334	0.176	
		2 σ	cal	AD	1,440	—	cal	AD	1,525	cal	BP	510	—	425	0.677	
			cal	AD	1,557	—	cal	AD	1,631	cal	BP	393	—	319	0.323	
5	425±36	σ	cal	AD	1,434	—	cal	AD	1,484	cal	BP	516	—	466	1.000	8922-3
			cal	AD	1,418	—	cal	AD	1,521	cal	BP	532	—	429	0.898	
		2 σ	cal	AD	1,578	—	cal	AD	1,581	cal	BP	372	—	369	0.004	
			cal	AD	1,591	—	cal	AD	1,620	cal	BP	359	—	330	0.098	
6	477±34	σ	cal	AD	1,420	—	cal	AD	1,444	cal	BP	530	—	506	1.000	8922-4
		2 σ	cal	AD	1,404	—	cal	AD	1,463	cal	BP	546	—	487	1.000	
7	609±74	σ	cal	AD	1,298	—	cal	AD	1,371	cal	BP	652	—	579	0.764	8628-2-1
		2 σ	cal	AD	1,378	—	cal	AD	1,401	cal	BP	572	—	549	0.236	
8	68±34	σ	cal	AD	1,274	—	cal	AD	1,434	cal	BP	676	—	516	1.000	8922-5
			cal	AD	1,698	—	cal	AD	1,724	cal	BP	252	—	226	0.279	
			cal	AD	1,815	—	cal	AD	1,834	cal	BP	135	—	116	0.204	
			cal	AD	1,878	—	cal	AD	1,916	cal	BP	72	—	34	0.495	
		2 σ	cal	AD	1,952	—	cal	AD	1,954	cal	BP	- 2	—	- 4	0.022	
			cal	AD	1,689	—	cal	AD	1,730	cal	BP	261	—	220	0.253	
9	308±34	σ	cal	AD	1,809	—	cal	AD	1,926	cal	BP	141	—	24	0.731	8922-6
			cal	AD	1,951	—	cal	AD	1,955	cal	BP	- 1	—	- 5	0.016	
		2 σ	cal	AD	1,521	—	cal	AD	1,591	cal	BP	429	—	359	0.748	
			cal	AD	1,620	—	cal	AD	1,643	cal	BP	330	—	307	0.252	
10	184±34	σ	cal	AD	1,483	—	cal	AD	1,651	cal	BP	467	—	299	1.000	8922-7
			cal	AD	1,665	—	cal	AD	1,683	cal	BP	285	—	267	0.188	
			cal	AD	1,735	—	cal	AD	1,785	cal	BP	215	—	165	0.490	
			cal	AD	1,793	—	cal	AD	1,805	cal	BP	157	—	145	0.122	
		2 σ	cal	AD	1,931	—	cal	AD	1,951	cal	BP	19	—	- 1	0.200	
			cal	AD	1,649	—	cal	AD	1,696	cal	BP	301	—	254	0.218	
			cal	AD	1,725	—	cal	AD	1,814	cal	BP	225	—	136	0.539	
			cal	AD	1,835	—	cal	AD	1,877	cal	BP	115	—	73	0.052	
11	377±33	σ	cal	AD	1,917	—	cal	AD	1,952	cal	BP	33	—	- 2	0.191	8922-8
			cal	AD	1,451	—	cal	AD	1,516	cal	BP	499	—	434	0.749	
		2 σ	cal	AD	1,595	—	cal	AD	1,618	cal	BP	355	—	332	0.251	
			cal	AD	1,444	—	cal	AD	1,527	cal	BP	506	—	423	0.606	
12	618±61	σ	cal	AD	1,553	—	cal	AD	1,633	cal	BP	397	—	317	0.394	8628-2-2
			cal	AD	1,296	—	cal	AD	1,329	cal	BP	654	—	621	0.371	
12	618±61	2 σ	cal	AD	1,341	—	cal	AD	1,395	cal	BP	609	—	555	0.629	8628-2-2
			cal	AD	1,279	—	cal	AD	1,419	cal	BP	671	—	531	1.000	

- 1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.01 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を使用
- 2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
- 3) 1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
- 4) 統計的に真の値が入る確率は σ は68%、 2σ は95%である
- 5) 相対比は、 σ 、 2σ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

(2) 花粉分析

結果を第52表、第111図に示す。木本花粉総数が100個体未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるので、出現した種類を+で表示するにとどめておく。

試料番号1では比較的多くの花粉化石が産出し、木本花粉が優占する。木本花粉のほとんどがマツ属によりしめられる。その他ではヤマモモ属、シノキ属が1個体ずつ産出するのみである。草本花粉の検出は少なく、イネ科が6個体、カヤツリグサ科、アカザ科、ナデシコ科、タンポポ科がそれぞれ1個体ずつ産出するのみである。シダ類胞子ではイノモトソウ属が多く、水生シダ類のミズワラビ属の胞子もわずかではあるが認められる。

試料番号8では花粉化石がほとんど検出されず、マツ属が8個体、シダ類胞子が21個体検出されるのみである。

試料番号12も花粉化石の産出状況が悪く、木本花粉ではマツ属が22個体、草本花粉ではイネ科が2個体検出するのみである。また、ミズワラビ属の胞子も認められる。

(3) 樹種同定

樹種同定結果を第53表に示す。試料番号4には4種類、試料番号11には3種類、試料番号9,12には2種類が認められたが、それぞれ確認された種類のうち、1種類は保存状態が悪く種類の同定には至らなかった。また、試料番号1,7も保存状態が悪いため同定に至らなかった。このうち、試料番号1については、木材組織がほとんど観察できなかったため、針葉樹・広葉樹の区別もできず、不明とした。その他の炭化材は、針葉樹1種類（マツ属複維管束亜属）と広葉樹5種類（タブノキ属、サカキ、スノキ属、カキノキ属、イズセンリョウ属）に同定された。各種類の解剖学的特徴等を記す。

・マツ属複維管束亜属（Pinus subgen. Diploxylon） マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エビセリウム細胞で構成されるが、樹脂道とエビセリウム細胞の多くは破損している。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には顕著な鋸歯状の突出が認められる。放射組織は単列、1-15細胞高。

・タブノキ属（Persea） クスノキ科

散孔材で、管壁は厚く、横断面では楕円形、単独および2-3個が放射方向に複合して散在する。

道管は単穿孔（稀に階段穿孔）を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は上下縁辺部が方形細胞となる異性、1-3細胞幅、1-20細胞高。柔組織は周囲状、翼状および散在状。柔細胞はしばしば大型の油細胞となる。

・スノキ属（Vaccinium） ツツジ科

散孔材で、道管はほぼ単独で年輪界一様に散在し、道管の分布密度は高い。道管は単穿孔および階段穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は、上下縁辺部が直立細胞となる異性、単列で8細胞高前後のものとして5-7細胞幅、30-60細胞高のものがある。

・カキノキ属（Diospyros） カキノキ科

散孔材で、管壁は厚く、横断面では楕円形、単独または2-3個が放射方向に複合して散在する。道管の分布密度は低い。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は異性、1-2細胞幅、10-20細胞高で階層状に配列する。

・イズセンリョウ属（Maesa） ヤブコウジ科

散孔材で、道管は極めて小径、単独または2-3個が放射方向に複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚がかすかに認められる。放射組織は異性、1-4細胞幅、1-30細胞高。

第52表 花粉分析結果

種 類	試料番号	1	8	12
木 本 花 粉				
マツ属複維管東亜属		40	—	11
マツ属 (不明)		121	8	11
ヤマモモ属		1	—	—
シイノキ属		1	—	—
草 本 花 粉				
イネ科		6	—	2
カヤツリグサ科		1	—	—
アカザ科		1	—	—
ナアシコ科		1	—	—
タンポポ亜科		1	—	—
不明花粉		1	—	—
シダ類胞子				
イノモトソウ属		72	5	4
ミズワラビ属		2	—	2
他のシダ類胞子		41	16	50
合 計				
木本花粉		163	8	22
草本花粉		10	0	2
不明花粉		1	0	0
シダ類胞子		115	21	56
総計 (不明を除く)		288	29	80

第53表 樹種同定結果

試料番号	グリッド	遺 構	層 位	樹 種
1	A-4	トレンチ14 東壁	3層	不 明
4	B-3		黒褐色土	マツ属複維管東亜属
				イズセンリョウ属
				カキノキ属
				広葉樹 (散孔材)
5	C-2	トレンチ6 東壁	4層	マツ属複維管東亜属
6	C-4	石積み17 外側	褐色土	マツ属複維管東亜属
7	E-2	トレンチ11	黒褐色土	広葉樹 (散孔材)
8	E-3	溝3 北壁	4層	スノキ属
9	E-5	溝4 北壁	9層	カキノキ属
				広葉樹 (散孔材)
11	H-6	トレンチ1 西壁	3層	マツ属複維管東亜属
				サカキ
				広葉樹 (散孔材)
12	H-7	石積み4 外側	暗褐色土	タブノキ属
				広葉樹 (散孔材)

4 考察

(1) 堆積層の年代観

放射性炭素年代測定の結果を見ると、首里城建築前後頃の14世紀を示す試料（トレンチ14北壁5層、トレンチ11褐色土、石積み4外側暗褐色土）、首里城機能時の15世紀～17世紀頃を示す試料（B-3グリッド黒褐色土、トレンチ6東壁3層、溝4北壁北壁7層、石敷き1直下暗褐色土、トレンチ1の3層）、ほぼ現代の値を示す試料（溝3北壁4層、石積み17外側褐色土）が認められる。

このうち、ほぼ現代の値を示す溝3北壁4層は旧表土とされていることから、旧琉球大学建築時に混入した可能性がある。また、石敷き1直下暗褐色土は17世紀後半 現代の値を示す。1879年に王城が終焉することを考慮すると、石敷き1直下の年代値は首里城機能時のものである可能性もあるが、上位からの落ち込みである可能性も考えられる。また、トレンチ1西壁3層と石積み4外側暗褐色土をみると、下位である3層の年代が15世紀中頃～17世紀初めの値を示すのに対し、上位のトレンチ1西壁1層は14世紀頃の値を示しており、層位関係と逆転している。トレンチ1西壁1層については、陶器片、シャコ貝、ヤコウガイの蓋、瓦などの混入物が多く、古い時代の炭化物が混入した可能性がある。下位の褐色土も同様に、漆喰、ヤコウガイの蓋などが混入する状況が認められることから、他の年代測定試料と同時期を示すが、攪乱等の影響を受けている可能性も考慮に入れなければならない。

これらを除いた測定結果は、得られた年代観、層位関係、首里城の時代観とも矛盾せず、各層の堆積年代を示していると推測される。

(2) 周辺植生

花粉分析の結果からは、マツ属が優占する。このうち亜属まで同定できたものは全て複雑管束亜属であり、樹種同定からも複雑管束亜属が同定されている。マツ属複雑管束亜属（いわゆるニヨウマツ類）は生育の適応範囲が広く、根根筋や湿地周辺など他の広葉樹の生育に不適な立地にも生育が可能であり、伐採された土地などに最初に進入する二次林の代表的な種類でもある。また、防風林などの植林や観賞用として庭園などに植栽されることも多い。マツ属が多産したA-4グリッド3層の堆積年代は不明であるが、直下の5層の年代が14世紀頃であることから、首里城建築前後あるいは機能時の堆積物である可能性がある。よって、当該期の本地域周辺に、開発に伴う二次林や植林・植栽などとしてマツ属が存在していた可能性がある。

なお、日本に生育する複雑管束亜属には、アカマツ・クロマツ・リュウキュウマツの3種類がある。このうち、アカマツとクロマツは、沖縄には自生していない。一方、リュウキュウマツは沖縄特産で、広く生育している。これらのことから、今回の試料もリュウキュウマツの可能性が高い。その他の木本類では、ヤマモモ属、シノキ属、タブノキ属、スノキ属、イズセリョウ属が認められる。シノキ属ではオキナワジイなどがあげられ、ヤマモモ属、タブノキ属などと共に海岸近くの常緑広葉樹林を構成する種類であり、カキノキ属も常緑広葉樹林内に生育する。また、スノキ属やイズセリョウ属には、常緑広葉樹林の林床に生育する種類が含まれる。いずれも現在の沖縄本島で比較的普通にみられる種類であり、周辺にこれらの種類が生育する植生が見られたと推測される。

引用文献

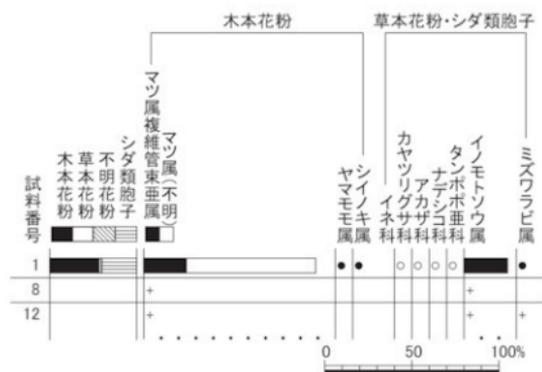
- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集, 京都大学木質科学研究所。
 伊東 隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ, 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181。
 伊東 隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ, 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所
 伊東 隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ, 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176。
 伊東 隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ, 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201。

伊東 隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.

伊東 隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.

島地 謙・伊東 隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176 p.

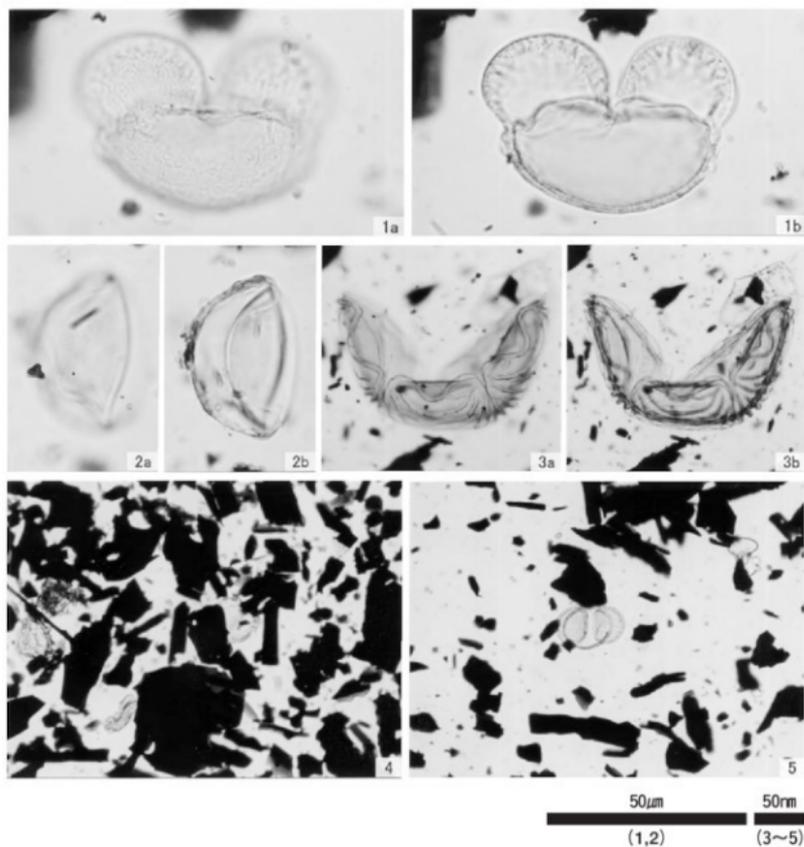
Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩 (日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].



第111図 各資料における花粉化石群集

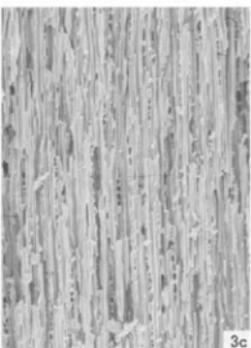
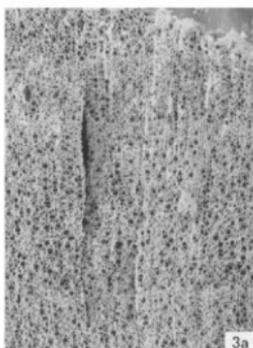
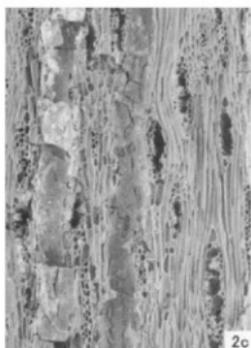
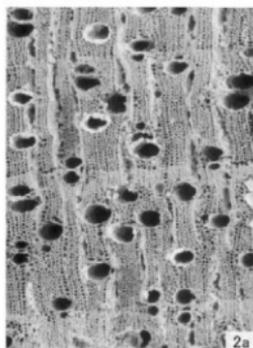
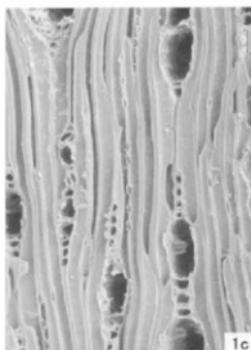
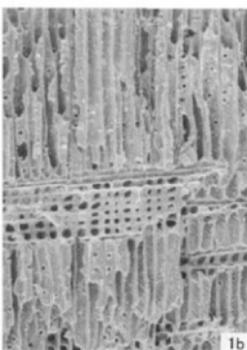
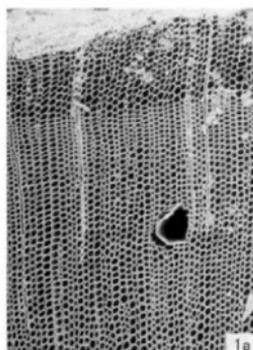
出現率は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉、シダ類孢子は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。

なお、●○は1%未満、+は木本花粉100個体未満の試料について検出した種類を示す。



- 1 マツ属 (試料番号1) 2 イネ科 (試料番号2)
 3 ミズワラビ属 (試料番号1) 4 分析プレパラート内の状況 (試料番号8)
 5 分析プレパラート内の状況 (試料番号12)

図版65 花粉分析



1 マツ属複雑管束亜属 (試料番号4)

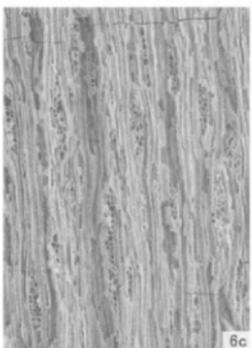
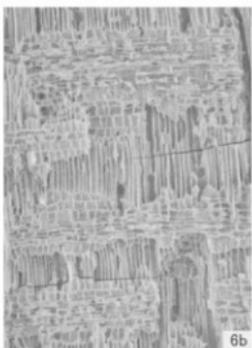
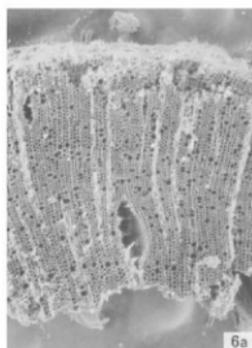
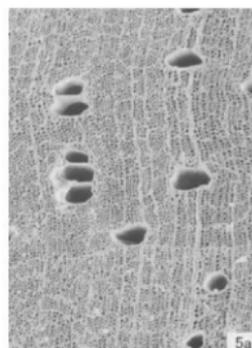
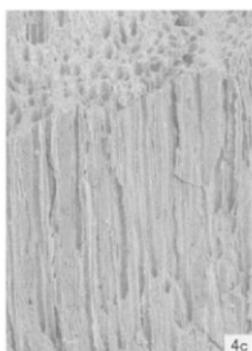
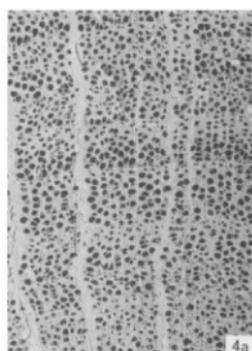
2 タブノキ属 (試料番号12)

3 サカキ属 (試料番号11)

a 木口 b 柁目 c 板目

200 μ m : 2 ~ 3 a
 200 μ m : 2 ~ 3 c
 100 μ m : 1 bc

図版66 炭化材 (1)



- 4 スノキ属 (試料番号8)
 5 カゼノキ属 (試料番号9)
 6 イズセンリョウ (試料番号4)
 a 木口 b 柁目 c 板目

200 μ m : a
 200 μ m : b, c

図版67 炭化材 (2)

第6章 結語

はじめに

今回の発掘調査は、首里城跡淑順門地区の復元整備を行う際の、基礎資料となる遺構を確認するために行った。現在復元整備されている首里城公園は、正殿の時代設定が基本となっている。正殿は火災等によって度々再建されたことが文献に記されており、発掘調査においても確認されている。現在復元されている正殿は、1712年に再建され1925年に国宝に指定された時期のものを復元対象にしており、遺構の上68cmに造られている。正殿以外の建造物についても18世紀～廃藩置県頃の状況が復元対象となっている。

淑順門地区の発掘調査においても、復元対象となる時期の遺構を目指して掘り進めていった。その結果、後世の土木工事によって破壊された部分もあったが、比較的良く遺構が残っていた。また破壊された部分からは、首里城当時の造成工事の状況や遺構の内部構造、戦前の古図面等に記載されていない遺構等を確認できた。

破壊された部分で検出された遺構は、将来復元の対象となり来園者の目に触れることはないかもしれないが、450年以上の長い歴史をもつ首里城の歴史をさぐる上で重要な資料となる。

1 内郭地区

淑順門とその東西に連なる城壁を検出した。淑順門は本来櫓を持っていたが(図版68)、沖繩戦時に破壊され、発掘調査では根石と石敷き、御内原へと向かう階段のみを検出した。

城壁外面(石積み2)については東側については残りが良かったものの、西側については根石付近のみが残っていた。淑順門南壁にあたる石積みについては、淑順門の東側部分については確認できた(石積み8)。西側については残りが良くなかったものの、戦前に撮影された写真(図版68)のおかげで石積み8と同様な状況であったことを知ることができた。この西側石積み(以下石積み24と呼ぶ)と内郭城壁との接続部分を検討した結果、両者には時期的な新旧関係があることも予想された。

石積み24は、石の積み方や大きさ・形態が内郭城壁の外面に相当する石積み2や、淑順門の東西壁(石積み6・7)と共通し、互いに接続していることから、これらは同時期に造られたと考えられる。石積み3は石積み24に比べ加工が粗く、小振りな石を積んでいる。また石積み24のすぐ裏側に接して並んでいることから、裏込め石を詰めて城壁を構築する際の補強石積みとも考えにくい。

外郭を整備した際に内郭との往來を可能にする目的で淑順門を造ったとすると、石積み3は外郭整備以前に造られた城壁で、この頃はまだ淑順門は存在していなかった可能性がある。外郭地区から淑順門へと向かうときに上っていく6段の階段が、他の城門における階段よりも勾配が急で、階段が始まる踊り場自体が造成工事によってかさ上げされていることが、戦前の絵図や発掘調査で確認されている。このことは外郭地区を整備した時点で淑順門を造った可能性を補強する根拠になるのではないだろうか。

2 外郭南側地区

右掖門から東へと続く石敷き2と階段2、内郭城壁の北側に並行して走る石積み10、外郭東側の空き地との境界をなす石積み19・20などを検出した。

内郭地区と外郭地区とは高低差があるため、「首里旧城之図」(第112図)によると、淑順門には6段の階段が取り付けられていた。しかし発掘調査ではその痕跡すら確認できなかった。

外郭東側の空き地との境界をなす石積み19・20については、古絵図によって表現が異なる。「首里城付近之図」(第113図)によると、内郭城壁(石積み2)と右掖門から外郭へと伸びる城壁(石積み11)に接続して描かれている。しかし「沖繩県首里旧城図」(第114図)では、石積み11との間は接続しておらず、間隔がある。さらに「旧首里城図」(第3・116図)や「首里旧城之図」、「熊本鎮台沖繩分遣隊配置図」(第115図)にはまったく描かれていない。発掘調査ではこの石積みは旧琉球大学時代の石敷き3によっ



第112図 「首里旧城之図」(明治27年 仲宗根峰山(查丕烈)筆 沖縄県立博物館蔵)



第113図 「首里城付近之図」(1931年頃 沖縄県立図書館蔵)

で切られていたが、古地図を見る限り、それ以前にすでに破壊ないし埋め殺されていた可能性がある。

右掖門と外郭城壁（石積み11～13）については、外郭整備時に造られたと考えられるが、布積みの隣に相方積みがあったり、布積みの上に相方積みがあるなど、明らかに積み直しを行った部分が確認できた。地震による崩落や、造成工事等が原因と考えられる。

「沖縄県首里旧城図」によると、右掖門から外郭へとのびる城壁の内面に接して、長方形の建物が一棟描かれている。この建物の名称・用途については不明であり、また発掘調査においてもその痕跡を検出することはできなかった。また階段3の北端については、東にある石積み19に取り付くように伸びる線が確認できる。この線に該当する明確な遺構は確認できなかった。

3 外郭北側地区

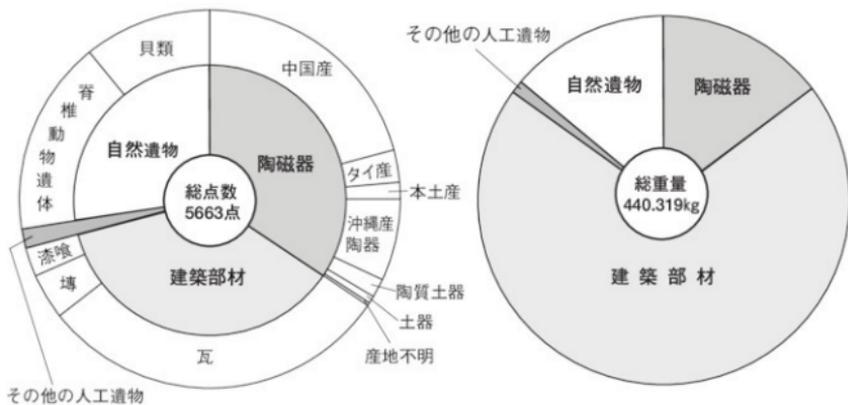
旧地表面を構成していたと考えられる土層を確認した。この地区は外郭整備時に造成された場所であり、花粉分析においても、開発に伴う二次林や植林・植栽などとしてマツ属が存在した可能性が指摘されている。「首里旧城之図」や「旧首里城図」を見ると、外郭北側地区には樹木が生い茂っていたことがわかる。

今回の発掘調査の全地区をとおして、地山（琉球石灰岩、マーヅ、クチャ）を全く確認できなかったことは、この場所が大規模な造成によりかさ上げされてきた証拠と言える。

4 出土遺物

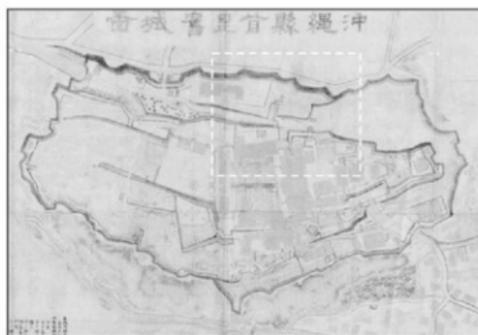
発掘調査で出土した遺物は、総点数約5600点、重量約440kg、遺物収納コンテナで50箱分である。陶磁器については15～17世紀前半については中国産が多く、17世紀後半以降は沖縄産が多い。陶磁器以外では瓦が比較的多く出土した。

特徴的な遺物として、三つ巴文を持つ陶器の碗や指輪、金属製品の製作を示唆する埴塼がある。



出土遺物点数の円グラフ

出土遺物重量の円グラフ



第114図 沖縄県首里旧城図 那覇市歴史資料室蔵
平良啓「沖縄県首里旧城図」について『首里城研究』No.1 1994年 より転載

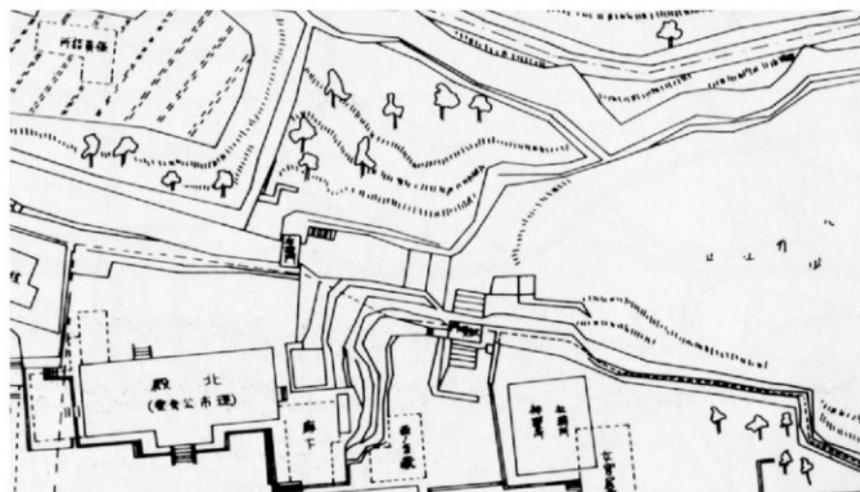


第115図 首里城熊本鎮台沖縄分遣隊配置図（1893年作成）
神奈川大学日本常民文化研究所蔵の図を改変
（沖縄県教育委員会『首里城跡—南殿・北殿跡の遺構調査報告—』1995年 より転載）

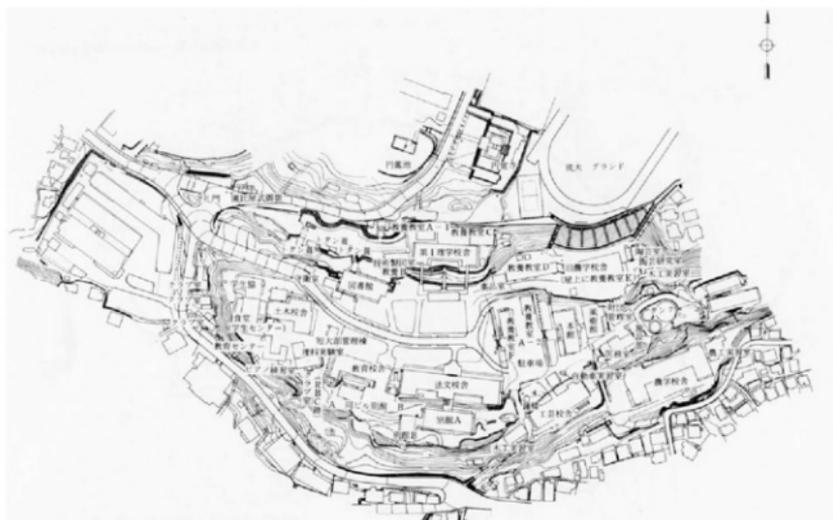


図版68 戦前の淑順門（南東から）

野々村孝男『首里城を救った男』1999年発行より転載 写真は阪谷家所蔵・野々村孝男氏管理



第116図 旧首里城図（昭和6年頃 阪谷良之進原図） 沖縄県立図書館蔵



第117図 旧琉球大学校舎配置図

『首里城跡—南殿・北殿跡の遺構調査報告—』1995年より転載・加筆

(引用・参考文献)

- 安里進・上原政昌・家田淳一「播鉢編年からみた近世琉球窯業の展開」『名護博物館紀要 あじま』3 1987年
- 上田秀雄「14～16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究』No.2 1982年
- 沖縄県教育委員会
- 『沖縄県歴史の道調査報告書－国頭・中頭方西海道（Ⅰ）弁ヶ岳参詣道－』
- 『首里城跡－南殿・北殿跡の遺構調査報告－』1995年
- 『首里城跡－京の内跡発掘調査報告書（Ⅰ）－』1998年
- 沖縄県立埋蔵文化財センター
- 『首里城跡－管理用道路地区発掘調査報告書－』2001年
- 『首里城跡－右掖門及び周辺地区発掘調査報告書－』2003年
- 『首里城跡－城の下地区発掘調査報告書－』2004年
- 『首里城跡－書院・鎮之間地区発掘調査報告書－』2005年
- 『尻並遺跡－那覇地方裁判所平良支部建て替えに伴う発掘調査報告書－』2003年
- 『「円覚寺跡」「首里城城郭」「城の下石畳道」－発掘調査現場説明会資料－』2002年
- 『特別企画展 首里城京の内展－貿易陶磁からみた交易時代－』2001年
- 小野正敏「15・16世紀の染碗・皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』
- 佐賀県立九州陶磁文化館『沖縄のやきもの－南海からの香り－』1998年
- 首里城研究グループ『首里城入門－その建築と歴史－』1997年
- 新城徳祐「沖縄神社 おきなわじんじゃ」『沖縄大百科事典』 1983年
- 平良啓「『沖縄県首里旧城図』について」『首里城研究』No.1 1994年
- 内閣府沖縄総合事務局国営沖縄記念講演事務所『国営沖縄記念公園首里城地区整備計画』2002年
- 野々村孝男『首里城を救った男 阪谷良之進・柳田菊蔵の軌跡』1999年
- 福岡市教育委員会『博多73 博多遺跡群第113次調査の概要』2000年
- 真榮平房敬「近代の首里城」『蘇る首里城』1993年
- 向井互「タイ産黒褐釉四耳壺の分類と年代」『貿易陶磁研究』No.23 2003年
- 森田勉「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2 1982年



カラー図版





図版69 発掘調査区全景（北から）



図版70 発掘調査区全景（東から）



図版71 発掘調査区全景（南から）



図版72 内郭地区トレンチ1東壁（東から）



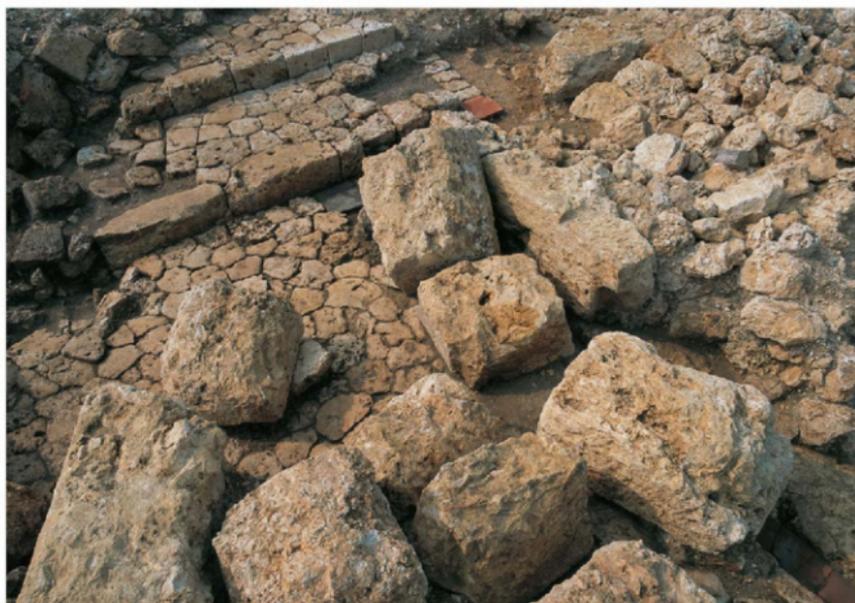
図版73 内郭地区 石積み3・4と暗褐色土（東から）



図版74 内郭地区 石積み2（東から）



図版75 内郭地区 石積み2（北東から）



図版76 内郭地区 淑順門跡で検出した切石（北から）



図版77 内郭地区 淑順門跡で検出した切石（西から）



図版78 内郭地区 淑順門跡（南から）



図版79 内郭地区 淑順門跡（東から）



図版80 内郭地区 階段1 (北から)



図版81 外郭南側地区 石積み12・13 (北から)



図版82 外郭南側地区 石積み11～13・15～19 (東から)



図版83 外郭南側地区 石積み15・16 (西から)



図版84 外郭南側地区 石積み11内側 土層堆積状況（北東から）



図版85 外郭南側地区 トレンチ2（東から）



図版86 外郭南側地区 トレンチ11西壁（西から）



図版87 外郭南側地区 トレンチ11西壁（北西から）



図版88 外郭南側地区 トレンチ11 (南から)



図版89 外郭南側地区 石積み19・20 (南から)



図版90 外郭南側地区（西から）



図版91 外郭南側地区 石敷き2・階段2（西から）



図版92 外郭南側地区 階段3 検出途中状況(南から)



図版93 外郭南側地区 階段3 (北から)



図版94 外郭南側地区 石敷き3（東から）



図版95 外郭南側地区 溝3～6（北東から）



図版96 外郭北側地区 トレンチ14 (北西から)



図版97 外郭北側地区 トレンチ14 (西から)



图版98 内郭地区出土遗物 (1) 外面 (暗褐色土)



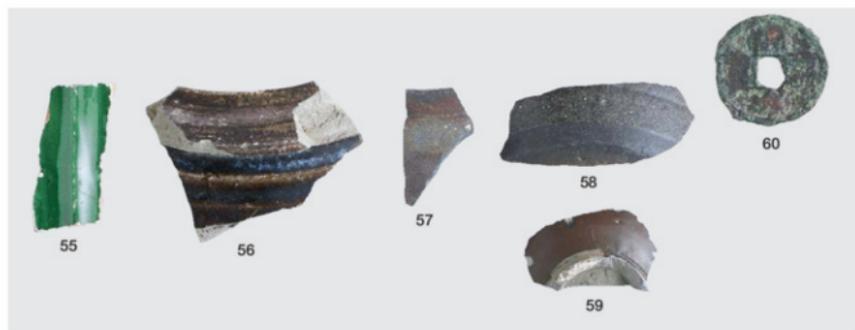
图版99 内郭地区出土遗物（1）内面



图版100 内郭地区出土遗物(2) 外面(暗褐色土)



图版101 内郭地区出土遗物(2) 内面



図版102 内郭地区出土遺物（3）外面

（43～54 暗褐色土 55～60 石積み3外側 黄褐色土 109～113 トレンチ1 赤褐色土）



图版103 内郭地区出土遗物（3）内面



図版104 内郭地区出土遺物（4）外面（石積み4外側 暗褐色土）



图版105 内郭地区出土遗物(4) 内面



図版106 内郭地区出土遺物（5）外面（石積み4外側 暗褐色土）



84



86



85



87



88



89



90



91



92



93



94



95



96



98



97



99

图版107 内郭地区出土遗物(5) 内面



図版108 内郭地区出土遺物（6）外面（石積み4外側 暗褐色土）



图版109 内郭地区出土遗物(6) 内面



図版110 外郭南側地区出土遺物(1) 外面
 (120~128 トレンチ4~5 129~131 石積み13裏込め部 褐色土 132~142 石積み17外側 褐色土)



图版111 外郭南侧地区出土遗物(1) 内面



図版112 外郭南側地区出土遺物（2）外面（石積み17・18外側 褐色土）



图版113 外郭南侧地区出土遗物(2) 内面



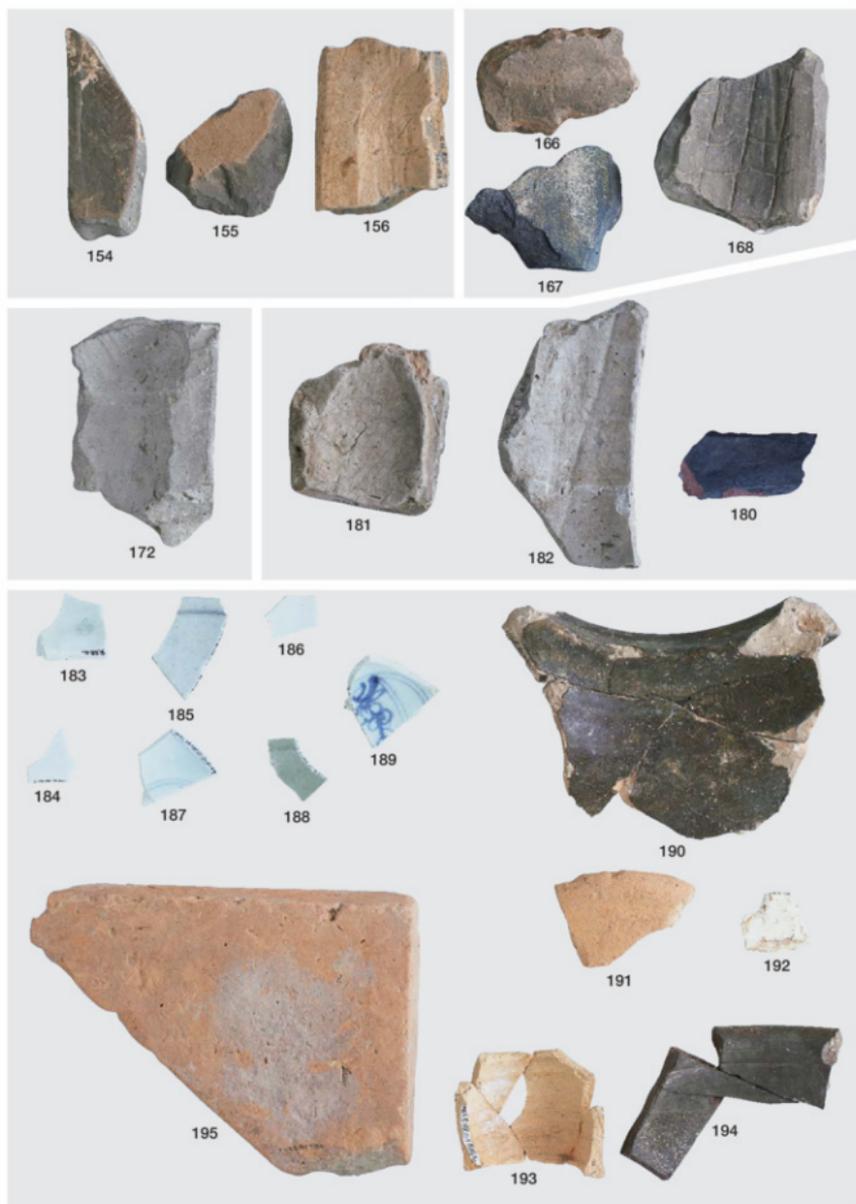
図版114 外郭南側地区出土遺物(3) 外面(152・153 トレンチ2 暗褐色炭混じり土 157~165 トレンチ2 169~171 トレンチ11 暗褐色土 173~179 E-2グリッド 黒褐色土)



图版115 外郭南侧地区出土遗物(3) 内面



図版116 外郭南側地区出土遺物(4) 外面(154~156 トレンチ2 褐色土 166~168 トレンチ2
172 トレンチ11 黒褐色土 180~182 E-2グリッド 黒褐色土 183~195 C-3グリッド 黄褐色土)



图版117 外郭南侧地区出土遗物(4) 内面



図版118 外郭南側地区出土遺物（5）外面
 (196~215 C-3グリッド 溝2 暗褐色土 216~218 石敷き3)



图版119 外郭南侧地区出土遗物(5) 内面



図版120 外郭南側地区出土遺物（6）外面（D-3・4グリッド 暗褐色土）



图版121 外郭南侧地区出土遗物(6) 内面



図版122 外郭南側地区出土遺物（7） 外面（D-3・4グリッド 暗褐色土）



图版123 外郭南侧地区出土遗物(7) 内面



図版124 外郭南側地区出土遺物(8)、外郭北側地区出土遺物 外面(256~260 D-3・4 暗褐色土 261~265 D-2グリッド 黒褐色土 266 石積み10裏込め部 褐色土 267 トレンチ13褐色土 268~271 トレンチ13黒褐色土)



图版125 外郭南侧地区出土遗物(8)、外郭北侧地区出土遗物 内面



図版126 攪乱層等の出土遺物（1）外面



図版127 攪乱層等の出土遺物（1）内面



図版128 攪乱層等の出土遺物（2）外面



図版129 攪乱層等の出土遺物（2）内面



図版130 攪乱層等の出土遺物（3）外面



図版131 攪乱層等の出土遺物（3）内面

報 告 書 抄 録

ふりがな	しゅりじょうせき
書 名	首里城跡
副 書 名	淑順門地区発掘調査報告書
巻 次	
シリーズ名	沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第33集
編 著 者 名	羽方 誠
発 行 機 関	沖縄県立埋蔵文化財センター
所 在 地	〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原193番地の7
発行年月日	平成18年3月

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
首里城跡	沖縄県那覇市 首里当蔵町	472018		26° 12'	127° 43'	平成16年 7月20日 / 平成17年 3月1日	570m ²	国営首里城 公園整備

所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特記事項
首里城跡		中世 / 近代	城門、城壁、 階段	陶磁器（中国・タイ・ベトナム 産）、瓦・金属製品・自然遺物	

沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書 第33集

首里城跡

－ 淑順門地区発掘調査報告書 －

発行年	2006年(平成18)年3月24日
編集・発行	沖縄県立埋蔵文化財センター 〒901-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原193番地の7 TEL 098(835)8751
印刷	光文堂印刷株式会社 〒901-1111 沖縄県島尻郡南風原町字兼城577番地 TEL 098(889)1131